



OITA UNIVERSITY

留学生のための

講義概要

2021-2022

1. 日本語・日本事情科目 (留学生向け科目)

2. グローバル科目 (留学生・日本人学生向け科目)

(使用言語:日本語/日本語と英語/英語)

この小冊子は、留学生のための「日本語・日本事情科目」、「グローバル科目」の概要を説明しています。

- ・「日本語・日本事情科目」:日本語科目は日本語習得を目的とした言語ベースの科目です。 プレイスメントテストで受講するレベルを決めます。
- ・「グローバル科目」: 大分について学ぶ授業の他、言語学、ソーシャルメディア、教育、経済、理工、サステナビリティ、ポピュラー・カルチャー等の科目が、日本語、英語、日本語&英語で開講されます。

正規生は「日本語・日本事情科目」、「グローバル科目」を履修することができますが、日本語 $1\sim3$ を履修しても単位認定されませんので注意してください。学位取得のための単位に関する詳細については所属学部に必ず確認を行ってください。

IGLOBE (短期交換留学プログラム) の学生については、レベルに合った日本語科目と、「グローバル科目」のうち国際教育推進センターの教員が開講する科目を、1 学期につき少なくとも 2 科目履修することが必修となります。

JAPANESE LANGUAGE AND JAPANESE STUDIES COURSES FOR INTERNATIONAL STUDENTS

(2021-2022)

- 1. Japanese Language and Japanese Studies Courses for International Students
- 2. Global Studies Courses for International and Japanese Students (offered in either English, Japanese, or an integration of both)

This booklet provides an introduction to Japanese Language, Japanese Studies, and Global Studies courses.

- Japanese Language and Japanese Studies Courses: designed to improve Japanese language skills. Students will enroll in the appropriate level of Japanese language course based on the result of a placement exam.
- Global Studies Courses: develop international and global perspectives as well as an
 understanding of Oita's region-specific issues through a variety of courses in the
 areas of linguistics, social media, education, economics, applied engineering and
 science, sustainability, and popular culture. Courses are offered in either Japanese,
 English, or an integration of both.

All Global Studies courses are available to all international students. However, please note that credits for Japanese courses 1~3 are not granted to international students seeking an undergraduate degree. If you are a degree-seeking student, you must contact your faculty regarding credit requirements for your degree.

Students in the IGLOBE program are required to take appropriate Japanese language courses and at least two Global Studies courses taught by GAIA faculty members per semester.

2021年度 前期

1. 日本語·日本事情科目

授業科目名	時間	単位数	学部等	担当教員	レベル (使用言語)	頁
日本語1文法	火1	2	国際教育推進センター	ブルカート香織	入門・初級	1
日本語1会話	水 2	2	国際教育推進センター	ブルカート香織	入門・初級	2
日本語 1 総合	木2	2	国際教育推進センター	ブルカート香織	入門・初級	3
日本語1読解	月 4	2	国際教育推進センター	長 池 一 美	入門・初級	4
日本語 2 文法	火 2	2	国際教育推進センター	南里敬三	初級	5
日本語2会話	水1	2	国際教育推進センター	南里敬三	初級	6
日本語 2 総合	金2	2	国際教育推進センター	南 里 敬 三	初級	7
日本語 2 読解	月1	2	国際教育推進センター (非常勤講師)	前田京子	初級	8
日本語 3 文法	木2	2	国際教育推進センター	坂 井 美恵子	初中級	9
日本語3会話	水 2	2	国際教育推進センター	坂 井 美恵子	初中級	10
日本語 3 読解 II	火1	2	国際教育推進センター (非常勤講師)	前田京子	初中級	11
日本語 3 作文 II	金1	2	国際教育推進センター (非常勤講師)	前田京子	初中級	12
多読で学ぶ日本語	月 4	2	国際教育推進センター	坂 井 美恵子	初中級~上級	13
日本語 4 文法 II	火 2	2	国際教育推進センター (非常勤講師)	前 田 京 子	中級	14
日本語 4 スピーキング	木1	2	国際教育推進センター	坂 井 美恵子	中級	15
日本語 4 読解 II	金2	2	国際教育推進センター	西島順子	中級	16
日本語4作文Ⅱ	水1	2	国際教育推進センター	西島順子	中級	17
日本語 4 応用 II	金3	2	国際教育推進センター (非常勤講師)	前 田 京 子	中級	18
日本語5スピーキング	月 2	2	国際教育推進センター (非常勤講師)	前 田 京 子	上級	19
日本語 5 読解・作文 II	水1	2	国際教育推進センター	坂 井 美恵子	上級	20
日本語5文法Ⅱ	金1	2	国際教育推進センター	西島順子	上級	21
Independent Research Project I	金5	2	国際教育推進センター	長 池 一 美	英語	76
日本研究 II (日研生対象)	金5	2	国際教育推進センター	南里・センター教員	日本語	22
大学院入学前予備教育日本語初級集中 (国費予備教育プログラム留学生対象)	=	-	国際教育推進センター	センター教員	日本語 初級	23
医学部学生補講 (会話)	月1・2	-	国際教育推進センター	センター教員	日本語 初級~中級	-

2. グローバル科目

授業科目名	時間	単位数	学部等	担当教員	レベル (使用言語)	頁
日本語文法分析	火 2	2	国際教育推進センター	西島順子	日本語 超級	35
ビジネスジャパニーズ演習 3	月 3	2	国際教育推進センター (非常勤講師)	前 田 京 子	日本語 超級	36
ビジネスジャパニーズ演習 4	金2	2	国際教育推進センター (非常勤講師)	前 田 京 子	日本語 超級	37
狂言で大分を学ぶ	火 4	2	国際教育推進センター	南里敬三・西島順子	日本語&英語	38
Sustainability & Glocal Development in Oita 2サステナビリティ大分2	木4	2	国際教育推進センター	ブルカート香織	英語&日本語	39
City Project: Oita and Beppu 歩いて楽しい街:大分と別府	金3	2	国際教育推進センター	南 里 敬 三	日本語&英語	40
大分地域理解	水 2	2	国際教育推進センター	西島順子	日本語 中級~超級	41
Intercultural Communication	火 3	2	国際教育推進センター	長 池 一 美	英語&日本語	42
Japanese Popular Culture Studies	水 4	2	国際教育推進センター	長 池 一 美	英語&日本語	43
Japanese Aesthetics and Fashion Media Studies	水3	2	国際教育推進センター	長池一美・南里敬三	英語&日本語	44
Introduction to Japanese History, Culture and Society	月 3	2	国際教育推進センター	長 池 一 美	英語&日本語	45
Ethnographic Study on Rural Japan	水 3	2	経済学部	久保田 亮	英語	100
Theoretical Framework for Integral Calculus	木1	2	理工学部	福田亮治	英語	101
Globalization of Japan's Economy	木2	2	経済学部	柴 田 茂 樹	英語	102
The Politics and Economics of the EU	木3	2	経済学部	DAY Stephen	英語	103

2021年度 日本語·日本事情科目時間割 (前期)

	月	火	水	木	金
	医学部学生補講 (会話)	日本語 1 文法 (ブルカート)	日本語2会話 (南里)	日本語4スピーキング (坂井)	日本語3作文II (前田)
1 (9:00- 10:30)	日本語2読解 (前田)	日本語3読解 II (前田)	日本語4作文Ⅱ (西島)	Theoretical Framework for Integral Calculus (FUKUDA)	日本語5文法 II (西島)
			日本語5読解·作文Ⅱ (坂井)		
	医学部学生補講 (会話)	日本語2文法 (南里)	日本語 1 会話 (ブルカート)	日本語 1 総合 (ブルカート)	日本語2総合 (南里)
2	日本語5スピーキング (前田)	日本語4文法 II (前田)	日本語3会話 (坂井)	日本語3文法 (坂井)	日本語4読解 II (西島)
(10 : 40- 12 : 10)		日本語文法分析 (西島)	大分地域理解 (西島)	Globalization of Japan's Economy (SHIBATA)	ビジネスジャパニーズ 演習4 (前田)
3 (13:10-	ビジネスジャパニーズ 演習3 (前田)	Intercultural Communication (NAGAIKE)	Japanese Aesthetics & Fashion Media Studies (NAGAIKE & NANRI)	The Politics and Economics of the EU (DAY)	City Project : Oita and Beppu (NANRI)
14:40)	Introduction to Japanese History, Culture and Society (NAGAIKE)		Ethnographic Study on Rural Japan (KUBOTA)		日本語4応用 II (前田)
4 (14 : 50-	多読で学ぶ日本語 (坂井)	狂言で大分を学ぶ (南里・西島)	Japanese Popular Culture Studies (NAGAIKE)	Sustainability & Glocal Development in Oita 2 サステナビリティ大分2 (BURKART)	江漢大学ゼミナール3 (未定)
16 : 20)	日本語1読解 (長池)	江漢大学ゼミナール2 (未定)			
5					日本研究 II (日研生) (南里他)
(16 : 30- 18 : 00)					Independent Research Project I (NAGAIKE)

2021年度 後期

1. 日本語·日本事情科目

授業科目名	時間	単位数	学部等	担当教員	レベル (使用言語)	頁
日本語1文法	火 2	2	国際教育推進センター	ブルカート香織	入門・初級	1
日本語1会話	水1	2	国際教育推進センター	ブルカート香織	入門・初級	2
日本語 1 総合	木2	2	国際教育推進センター	ブルカート香織	入門・初級	3
日本語1読解	月 4	2	国際教育推進センター	長 池 一 美	入門・初級	4
日本語 2 文法	火1	2	国際教育推進センター	南里敬三	初級	5
日本語2会話	水2	2	国際教育推進センター	南 里 敬 三	初級	6
日本語 2 総合	金2	2	国際教育推進センター	南 里 敬 三	初級	7
日本語 2 読解	月1	2	国際教育推進センター (非常勤講師)	前 田 京 子	初級	8
日本語 3 文法	火2	2	国際教育推進センター	坂 井 美恵子	初中級	9
日本語3会話	水1	2	国際教育推進センター	坂 井 美恵子	初中級	10
日本語 3 読解 I	木1	2	国際教育推進センター (非常勤講師)	大 坪 美奈子	初中級	24
日本語 3 作文 I	月 2	2	国際教育推進センター (非常勤講師)	前 田 京 子	初中級	25
日本語 4 文法 I	月1	2	国際教育推進センター (非常勤講師)	大 坪 美奈子	中級	26
日本語 4 スピーキング	火1	2	国際教育推進センター	坂 井 美恵子	中級	15
日本語 4 読解 I	金1	2	国際教育推進センター	西島順子	中級	27
日本語 4 作文 I	木2	2	国際教育推進センター	西島順子	中級	28
日本語 4 応用 I	火2	2	国際教育推進センター (非常勤講師)	大 坪 美奈子	中級	29
日本語5スピーキング	月 2	2	国際教育推進センター (非常勤講師)	大 坪 美奈子	上級	30
日本語 5 読解・作文 I	水2	2	国際教育推進センター	坂 井 美恵子	上級	31
日本語 5 文法 I	金2	2	国際教育推進センター	西島順子	上級	32
レポート・論文作成	木3	2	国際教育推進センター	西島順子	超級	33
Independent Research Project II	金5	2	国際教育推進センター	長 池 一 美	英語	88
日本研究 I (日研生対象)	金5	2	国際教育推進センター	南里・センター教員	日本語	34
大学院入学前予備教育日本語初級集中 (国費予備教育プログラム留学生対象)	-	-	国際教育推進センター	センター教員	日本語 初級	23
医学部学生補講 (会話)	月1・2	-	国際教育推進センター	センター教員	日本語 初級~中級	_

2. グローバル科目

授業科目名	時間	単位数	学部等	担当教員	レベル (使用言語)	頁
日本語表現技術	火 4	2	国際教育推進センター	西島順子	日本語 中級~超級	46
日本語学 I	木 2	2	国際教育推進センター	坂 井 美恵子	日本語 超級	47
ビジネスジャパニーズ演習 1	月 3	2	国際教育推進センター (非常勤講師)	前 田 京 子	日本語 超級	48
ビジネスジャパニーズ演習 2	火 2	2	国際教育推進センター (非常勤講師)	前 田 京 子	日本語 超級	49
Intercultural Communication	月 3	2	国際教育推進センター	長 池 一 美	英語&日本語	42
Manga Studies	水 3	2	国際教育推進センター	長 池 一 美	英語&日本語	50
Japanese Aesthetics and Fashion Media Studies	金4	2	国際教育推進センター	長池一美・南里敬三	英語&日本語	44
Introduction to Japanese History, Culture and Society	水 4	2	国際教育推進センター	長 池 一 美	英語&日本語	45
Japanese Grammar and Discourse	金3	2	国際教育推進センター	南 里 敬 三	英語&日本語	51
ソーシャルネットワークと大分からの発信Ⅱ	火3	2	国際教育推進センター	南里敬三	日本語&英語	52
Sustainability & Glocal Dvelopment in Oita サステナビリティ大分	木4	2	国際教育推進センター	ブルカート香織	英語&日本語	53
The Politics and Economics of Globalization	木3	2	経済学部	DAY Stephen	英語	112
Contrastive Analysis of Semantic Structures in English and Japanese within the framework of Cognitive Linguistics	木4	2	教育学部	橋 本 美喜男	英語	54
Introducation to Japanese Management	金3	2	経済学部	碇 邦 生	英語	114

2021年度 日本語・日本事情科目時間割 (後期)

	月	火	水	木	金
	医学部学生補講 (会話) (GAIA教員)	日本語2文法 (南里)	日本語 1 会話 (ブルカート)	日本語3読解 I (大坪)	日本語4読解 I (西島)
1 (9:00- 10:30)	日本語2読解 (前田)	日本語4スピーキング (坂井)	日本語3会話 (坂井)		
	日本語4文法 I (大坪)				
	医学部学生補講 (会話) (GAIA教員)	日本語 1 文法 (ブルカート)	日本語2会話 (南里)	日本語 1 総合 (ブルカート)	日本語2総合 (南里)
2 (10:40-	日本語3作文 I (前田)	日本語3文法 (坂井)	日本語5読解·作文 I (坂井)	日本語学 I (坂井)	日本語5文法 I (西島)
12:10)	日本語5スピーキング (大坪)	日本語4応用 I (大坪)		日本語4作文 I (西島)	
		ビジネスジャパニーズ 演習2 (前田)			
3 (13 : 10	ビジネスジャパニーズ 演習 1 (前田)	ソーシャルネット ワークと大分からの 発信Ⅱ (南里)	Manga Studies (NAGAIKE)	レポート・論文作成 (西島)	Japanese Grammar and Discourse (NANRI)
(13 : 10- 14 : 40)	Intercultural Communication (NAGAIKE)			The Politics and Economics of Globalization (DAY)	Introducation to Japanese Management (IKARI)
4 (14:50-	日本語 1 読解 (長池)	日本語表現技術 (西島)	Introduction to Japanese History, Culture and Society (NAGAIKE)	Contrastive Analysis of Semantic Structures in English and Japanese within the framework of Cognitive Linguistics (橋本)	Japanese Aesthetics and Fashion Media Studies (NAGAIKE & NANRI)
16:20)		江漢大学ゼミナール1 (未定)		Sustainability & Glocal Dvelopment in Oita サステナビリティ大分 (ブルカート)	
5 (16:30-					日本研究 I (日研生) (南里他)
18:00)					Independent Research Project II (NAGAIKE)

Spring Semester, April 2021 - August 2022

1. Japanese Language and Japanese Studies Courses

SUBJECT	Day and Time	CREDITS	FACULTY	LECTURER	Level (Language)	PAGE
Japanese 1 Grammar	Tue.1	2	GAIA	BURKART Kaori	Novice	55
Japanese 1 Conversation	Wed.2	2	GAIA	BURKART Kaori	Novice	56
Japanese 1 Integrated Activities	Thu.2	2	GAIA	BURKART Kaori	Novice	57
Japanese 1 Reading	Mon.4	2	GAIA	NAGAIKE Kazumi	Novice	58
Japanese 2 Grammar	Tue.2	2	GAIA	NANRI Keizo	Novice-High	59
Japanese 2 Conversation	Wed.1	2	GAIA	NANRI Keizo	Novice-High	60
Japanese 2 Integrated Activities	Fri.2	2	GAIA	NANRI Keizo	Novice-High	61
Japanese 2 Reading	Mon.1	2	GAIA (Part-time)	MAEDA Kyoko	Novice-High	62
Japanese 3 Grammar	Thu.2	2	GAIA	SAKAI Mieko	Intermediate-Low	63
Japanese 3 Conversation	Wed.2	2	GAIA	SAKAI Mieko	Intermediate-Low	64
Japanese 3 Reading II	Tue.1	2	GAIA (Part-time)	MAEDA Kyoko	Intermediate-Low	65
Japanese 3 Writing II	Fri.1	2	GAIA (Part-time)	MAEDA Kyoko	Intermediate-Low	66
Extensive Reading in Japanese	Mon.4	2	GAIA	SAKAI Mieko	Intermediate-Low- Advanced	67
Japanese 4 Grammar II	Tue.2	2	GAIA (Part-time)	MAEDA Kyoko	Intermediate	68
Japanese 4 Speaking	Thu.1	2	GAIA	SAKAI Mieko	Intermediate	69
Japanese 4 Reading II	Fri.2	2	GAIA	NISHIJIMA Yoriko	Intermediate	70
Japanese 4 Writing II	Wed.1	2	GAIA	NISHIJIMA Yoriko	Intermediate	71
Japanese 4 Contextual Japanese II	Fri.3	2	GAIA (Part-time)	MAEDA Kyoko	Intermediate	72
Japanese 5 Speaking	Mon.2	2	GAIA (Part-time)	MAEDA Kyoko	Advanced	73
Japanese 5 Reading / Writing II	Wed.1	2	GAIA	SAKAI Mieko	Advanced	74
Japanese 5 Grammar II	Fri.1	2	GAIA	NISHIJIMA Yoriko	Advanced	75
Independent Research Project I	Fri.5	2	GAIA	NAGAIKE Kazumi	English	76
Preparatory Course in Japanese for Pre-Postgraduate Students	_	_	GAIA	Instructors of GAIA	Japanese&English	77
Japanese for Medical Students : Conversation	Mon.1 • 2	_	GAIA	Instructors of GAIA	Japanese&English (Novice-Intermediate)	

2. Global Studies Courses

SUBJECT	Day and Time	CREDITS	FACULTY	LECTURER	Language	PAGE
Analysis of Japanese Grammar	Tue.2	2	GAIA	NISHIJIMA Yoriko	Japanese	89
Business Japanese Seminar 3	Mon.3	2	GAIA (Part-time)	MAEDA Kyoko	Japanese	90
Business Japanese Seminar 4	Fri.2	2	GAIA (Part-time)	MAEDA Kyoko	Japanese	91
Learning OITA Through Kyogen	Tue.4	2	GAIA	NANRI NISHIJIMA	Japanese&English	92
Sustainability & Glocal Development in Oita 2	Thu.4	2	GAIA	BURKART Kaori	English&Japanese	93
City Project : Oita and Beppu	Fri.3	2	GAIA	NANRI Keizo	Japanese&English	94
Oita Area Studies	Wed.2	2	GAIA	NISHIJIMA Yoriko	Japanese	95
Intercultural Communication	Tue.3	2	GAIA	NAGAIKE Kazumi	English&Japanese	96
Japanese Popular Culture Studies	Wed.4	2	GAIA	NAGAIKE Kazumi	English&Japanese	97
Japanese Aesthetics and Fashion Media Studies	Wed.3	2	GAIA	NAGAIKE NANRI	English&Japanese	98
Introduction to Japanese History, Culture and Society	Mon.3	2	GAIA	NAGAIKE Kazumi	English&Japanese	99
Ethnographic Study on Rural Japan	Wed.3	2	Economics	KUBOTA Ryo	English	100
Theoretical Framework for Integral Calculus	Thu.1	2	Science and Technology	FUKUDA Ryoji	English	101
Globalization of Japan's Economy	Thu.2	2	Economics	SHIBATA Shigeki	English	102
The Politics and Economics of the EU	Thu.3	2	Economics	DAY Stephen	English	103

 $\ensuremath{\ensuremath{\%}}$ GAIA : Global Education and Intercultural Advancement Center

COURSE SCHEDULE (Spring Semester, April 2021 - August 2022)

	MON	TUE	WED	THU	FRI
	Japanese for Medical Students : Conversation (GAIA)	Japanese 1 Grammar (BURKART)	Japanese 2 Conversation (NANRI)	Japanese 4 Speaking (SAKAI)	Japanese 3 Writing II (MAEDA)
1 (9:00- 10:30)	Japanese 2 Reading (MAEDA)	Japanese 3 Reading II (MAEDA)	Japanese 4 Writing II (NISHIJIMA)	Theoretical Framework for Integral Calculus (FUKUDA)	Japanese 5 Grammar II (NISHIJIMA)
			Japanese 5 Reading / Writing II (SAKAI)		
	Japanese for Medical Students : Conversation (GAIA)	Japanese 2 Grammar (NANRI)	Japanese 1 Conversation (BURKART)	Japanese 1 Integrated Activities (BURKART)	Japanese 2 Integrated Activities (NANRI)
2 (10:40-	Japanese 5 Speaking (MAEDA)	Japanese 4 Grammar I (MAEDA)	Japanese 3 Conversation (SAKAI)	Japanese 3 Grammar (SAKAI)	Japanese 4 Reading II (NISHIJIMA)
12:10)		Analysis of Japanese Grammar (NISHIJIMA)	Oita Area Studies (NISHIJIMA)	Globalization of Japan's Economy (SHIBATA)	Business Japanese Seminar 4 (MAEDA)
3 (13:10-	Business Japanese Seminar 3 (MAEDA)	Intercultural Communication (NAGAIKE)	Japanese Aesthetics & Fashion Media Studies (NAGAIKE & NANRI)	The Politics and Economics of the EU (DAY)	City Project : Oita and Beppu (NANRI)
14:40)	Introduction to Japanese History, Culture and Society (NAGAIKE)		Ethnographic Study on Rural Japan (KUBOTA)		Japanese 4 Contextual Japanese II (MAEDA)
4 (14 : 50-	Extensive Reading in Japanese (SAKAI)	Learning Oita Through Kyogen (NANRI & NISHIJIMA)	Japanese Popular Culture Studies (NAGAIKE)	Sustainability and Glocal Development in Oita 2 (BURKART)	Jinghan University 3+1 Program 3 (TBA)
16 : 20)	Japanese 1 Reading (NAGAIKE)	Jinghan University 3+1 Program 2 (TBA)			
5 (16 : 30-					Japanese Studies II (for Nikkensei Students)(NANRI- Instructors of GAIA)
18:00)					Independent Research Project I (NAGAIKE)

Fall Semester, October 2021 - February 2022

1. Japanese Language and Japanese Studies Courses

SUBJECT	Day and Time	CREDITS	FACULTY	LECTURER	Level (Language)	PAGE
Japanese 1 Grammar	Tue.2	2	GAIA	BURKART Kaori	Novice	55
Japanese 1 Conversation	Wed.1	2	GAIA	BURKART Kaori	Novice	56
Japanese 1 Integrated Activities	Thu.2	2	GAIA	BURKART Kaori	Novice	57
Japanese 1 Reading	Mon.4	2	GAIA	NAGAIKE Kazumi	Novice	58
Japanese 2 Grammar	Tue.1	2	GAIA	NANRI Keizo	Novice-High	59
Japanese 2 Conversation	Wed.2	2	GAIA	NANRI Keizo	Novice-High	60
Japanese 2 Integrated Activities	Fri.2	2	GAIA	NANRI Keizo	Novice-High	61
Japanese 2 Reading	Mon.1	2	GAIA (Part-time)	MAEDA Kyoko	Novice-High	62
Japanese 3 Grammar	Tue.2	2	GAIA	SAKAI Mieko	Intermediate-Low	63
Japanese 3 Conversation	Wed.1	2	GAIA	SAKAI Mieko	Intermediate-Low	64
Japanese 3 Reading I	Thu.1	2	GAIA (Part-time)	OTSUBO Minako	Intermediate-Low	78
Japanese 3 Writing I	Mon.2	2	GAIA (Part-time)	MAEDA Kyoko	Intermediate-Low	79
Japanese 4 Grammar I	Mon.1	2	GAIA (Part-time)	OTSUBO Minako	Intermediate	80
Japanese 4 Speaking	Tue.1	2	GAIA	SAKAI Mieko	Intermediate	69
Japanese 4 Reading I	Fri.1	2	GAIA	NISHIJIMA Yoriko	Intermediate	81
Japanese 4 Writing I	Thu.2	2	GAIA	NISHIJIMA Yoriko	Intermediate	82
Japanese 4 Contextual Japanese I	Tue.2	2	GAIA (Part-time)	OTSUBO Minako	Intermediate	83
Japanese 5 Speaking	Mon.2	2	GAIA (Part-time)	OTSUBO Minako	Advanced	84
Japanese 5 Reading/ Writing I	Wed.2	2	GAIA	SAKAI Mieko	Advanced	85
Japanese 5 Grammar I	Fri.2	2	GAIA	NISHIJIMA Yoriko	Advanced	86
Academic Writing in Japanese	Thu.3	2	GAIA	NISHIJIMA Yoriko	Advanced	87
Independent Research Project II	Fri.5	2	GAIA	NAGAIKE Kazumi	English	88
Preparatory Course in Japanese for Pre-Postgraduate Students	_	_	GAIA	Instructors of GAIA	Japanese&English	77
Japanese for Medical Students : Conversation	Mon.1 • 2	_	GAIA	Instructors of GAIA	Japanese&English (Novice-Intermediate)	_

2. Global Studies Courses

SUBJECT	Day and Time	CREDITS	FACULTY	LECTURER	Language	PAGE
Japanese Presentation Skill	Tue.4	2	GAIA	NISHIJIMA Yoriko	Japanese (Intermediate-Advanced)	104
Japanese Linguistics I	Thu.2	2	GAIA	SAKAI Mieko	Japanese	105
Business Japanese Seminar 1	Mon.3	2	GAIA (Part-time)	MAEDA Kyoko	Japanese	106
Business Japanese Seminar 2	Tue.2	2	GAIA (Part-time)	MAEDA Kyoko	Japanese	107
Intercultural Communication	Mon.3	2	GAIA	NAGAIKE Kazumi	English&Japanese	96
Manga Studies	Wed.3	2	GAIA	NAGAIKE Kazumi	English&Japanese	108
Japanese Aesthetics and Fashion Media Studies	Fri.4	2	GAIA	NAGAIKE NANRI	English&Japanese	98
Introduction to Japanese History, Culture and Society	Wed.4	2	GAIA	NAGAIKE Kazumi	English&Japanese	99
Japanese Grammar and Discourse	Fri.3	2	GAIA	NANRI Keizo	English&Japanese	109
Social Networks and Introduction of Oita to the World II	Tue 3	2	GAIA	NANRI Keizo	Japanese&English	110
Sustainability and Glocal Development in Oita	Thu.4	2	GAIA	BURKART Kaori	English	111
The Politics and Economics of Globalization	Thu.3	2	Economics	DAY Stephen	English	112
Contrastive Analysis of Semantic Structures in English and Japanese within the framework of Cognitive Linguistics	Thu.4	2	Education	HASHIMOTO Mikio	English	113
Introducation to Japanese Management	Fri.3	2	Economics	IKARI Kunio	English	114

 $[\]ensuremath{\mbox{\%}}$ GAIA : Global Education and Intercultural Advancement Center

COURSE SCHEDULE (Fall Semester, October 2021 - February 2022)

	MON	TUE	WED	THU	FRI
	Japanese for Medical Students : Conversation (GAIA)	Japanese 2 Grammar (NANRI)	Japanese 1 Conversation (BURKART)	Japanese 3 Reading I (OTSUBO)	Japanese 4 Reading I (NISHIJIMA)
1 (9:00- 10:30)	Japanese 2 Reading (MAEDA)	Japanese 4 Speaking (SAKAI)	Japanese 3 Conversation (SAKAI)		
	Japanese 4 Grammar I (OTSUBO)				
	Japanese for Medical Students : Conversation (GAIA)	Japanese 1 Grammar (BURKART)	Japanese 2 Conversation (NANRI)	Japanese 1 Integrated Activities (BURKART)	Japanese 2 Integrated Activities (NANRI)
2 (10:40-	Japanese 3 Writing I (MAEDA)	Japanese 3 Grammar (SAKAI)	Japanese 5 Reading / Writing I (SAKAI)	Japanese Linguistics I (SAKAI)	Japanese 5 Grammar I (NISHIJIMA)
12:10)	Japanese 5 Speaking (OTSUBO)	Japanese 4 Contextual Japanese I (OTSUBO)		Japanese 4 Writing I (NISHIJIMA)	
		Business Japanese Seminar 2 (MAEDA)			
3 (13:10-	Business Japanese Seminar 1 (MAEDA)	Social Networks and Introduction of Oita to the World II (NANRI)	Manga Studies (NAGAIKE)	Academic Writing in Japanese (NISHIJIMA)	Japanese Grammar and Discourse (NANRI)
14:40)	Intercultural Communication (NAGAIKE)			The Politics and Economics of Globalization (DAY)	Introducation to Japanese Management (IKARI)
4 (14:50- 16:20)	Japanese 1 Reading (NAGAIKE)	Japanese Presentation Skill (NISHIJIMA)	Introduction to Japanese History, Culture and Society (NAGAIKE)	Contrastive Analysis of Semantic Structures in English and Japanese within the framework of Cognitive Linguistics (HASHIMOTO)	Japanese Aesthetics and Fashion Media Studies (NAGAIKE & NANRI)
10.20)		Jinghan University 3+1 Program 1 (TBA)		Sustainability and Glocal Development in Oita (BURKART)	
5 (16:30-					Japanese Studies I (for Nikkensei Students)(Nanri- Instructors of GAIA)
18:00)					Independent Research Project II (NAGAIKE)

1. 日本語・日本事情科目 (留学生向け科目)

授業科目名	日本語 1 文法			
担当教員	ブルカート香織	所属部局	国際教育推進センター	
単位	2	学期 曜日・時限	前期:火曜1限 後期:火曜2限	
担当教員の 研究室 電話・e-mail	教養教育棟 3階 3番	097-554-61	71 kburkart@oita-u.ac.jp	
授業のねらい	日本語基本文法及び言語機能の習得			
具体的な 到達目標	1. ひらがな、カタカナの習得 2. 自己紹介、依頼、好き・嫌い 文法の習得	○、理由、欲求 筆	等の言語機能を使うのに必要な	
授業の内容	教科書に () 大学 (がな導入・簡単 カナ導入) アィビテマ図る。 で習得を図る。	いて基礎を学び、ワークブック 講義で用いられた配布物や板書	
時間外学習	各課が終了したところで、ワークブ、 文法を用いた宿題も完了させる。小 復習に3時間程度の学習時間が必要。	テストに備えた		
教科書	初級日本語(げんき)【第3版(ジー	ャパンタイムズ	社)ISBN: 978-4789017305	
参考書	1. 日本語基礎文法辞典(The Ja 2. 日英辞典(研究社)	pan Times)		
成績評価の方法 及び評価割合	1. 小テスト・宿題(30%) 2. 中間テスト(30%) 3. 期末テスト(40%)*出席率に注意			
備考・注意事項	出席率70%以下(講義4回欠席)の 出席することが基礎日本語習得のため		ストが受けられない。全講義に	

授業科目名	日本語 1 会話		
担当教員	ブルカート香織	所属部局	国際教育推進センター
単位	2	学期 曜日・時限	前期:水曜2限 後期:水曜1限
担当教員の 研究室 電話・e-mail	教養教育棟 3階 3番	097-554-61	71 kburkart@oita-u.ac.jp
授業のねらい	日本語の初歩的な会話能力の習得		
具体的な 到達目標	1. 限られた状況で適切な挨拶と 2. 自己紹介、依頼、好き・嫌い		ごきる。 『を限られた語彙で表現できる。
授業の内容	教書に従いて ・ は まままます。 まままままままままままままままままままままままままままままま	きつ表現を使っ 会話を含む。) は会話を はに掲載する。	練習を積み重ね、基礎会話力を 宿題で基本の習得を図る。講義
時間外学習	各課が終了したところで、ワークブ 練習の宿題も完了させる。小テストレ や復習に3時間程度の学習時間が必要	こ備えた勉強は	
教科書	初級日本語(げんき)【第3版(ジュ	ャパンタイムズ	社)ISBN: 978-4789017305
参考書	1. 日本語基礎文法辞典(The Ja 2. 日英辞典(研究社)	pan Times)	
成績評価の方法 及び評価割合	 1. 小テスト・宿題(30%) 2. 中間会話テスト(30%) 3. 期末テスト(40%)*出席 	率に注意	
備考・注意事項	出席率70%以下(講義4回欠席)の出席することが基礎日本語習得のため		ストが受けられない。全講義に

授業科目名	日本語 1 総合		
担当教員	ブルカート香織	所属部局	国際教育推進センター
単位	2	学期 曜日・時限	前期・後期:木曜2限
担当教員の 研究室 電話・e-mail	教養教育棟 3階 3番	097-554-61	71 kburkart@oita-u.ac.jp
授業のねらい	日本語基礎文法・言語機能の導入後、 うになる。	日常生活で総	合的に活用することができるよ
具体的な 到達目標	基礎的な言語機能、限られた語彙や文 好き・嫌い、理由、欲求等を表現する	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
授業の内容	日本語 1 で学習した で学習した で学習した で学習した で学習した できる 2 課の 文法会話 5 等を 6 含 含 合 か 第 3 週 : 第 2 課の 文法会話 5 等を 6 含 合 ら 6 が 第 3 週 : 第 5 課の 文法会会話 5 等 5 を 6 含 合 ら 6 が 第 7 週 3 週 : 第 6 週 3 第 7 課の 文 文 法 会会 5 音 5 音 6 合 ら 6 が 第 7 課の 文 文 法 会会 5 音 6 合 ら 6 を 6 合 ら 6 を 7 週 3 第 11 週 3 第 12 週 3 第 12 週 3 第 12 週 3 第 14 週 3 第 14 週 3 第 14 週 3 第 14 週 3 第 15 週 3 第 15 週 5 第 15 週 5 第 15 週 6 年 7 で 文 法 6 会 6 会 6 会 6 会 6 会 6 会 6 会 6 会 6 会 6	がどどだだされんんん きせいどう だいがい はいい はい は	たんな挨拶の習得) (カタカナ練習を含む。) なタスク活動練習を行う。語彙、 を図る。講義で用いられた配布
時間外学習	各課が終了したところで、ワークブ も次週までに完了させる。小テストに に3時間程度の学習時間が必要。		
教科書	初級日本語(げんき)【第3版(ジュ		社)ISBN: 978-4789017305
参考書 	1. 日本語基礎文法辞典(The Ja 2. 日英辞典(研究社)	ipan Times)	
成績評価の方法 及び評価割合	 1. 小テスト・宿題(30%) 2. 中間テスト(30%) 3. 期末テスト(40%)*出席 	率に注意	
備考・注意事項	出席率70%以下(講義4回欠席)の 出席することが基礎日本語習得のため		ストが受けられない。全講義に

授業科目名	日本語 1 読解			
担当教員	長池一美	所属部局	国際教育推進センター	
単位	2	学期 曜日・時限	前期·後期 月曜 4限	
担当教員の 研究室 電話・e-mail	教養教育棟 3 階 3-4 番 097-554-7953	nagaike@	oita-u.ac.jp	
授業のねらい	ひらがなとカタカナを習得させ、毎週 使った基礎的文章の読解力をつける。			
具体的な 到達目標	1. ひらがなとカタカナの読み書きの 2. 毎週学習する漢字と熟語が読め 3. 簡単な和文(伝言、手紙、物語等	書けること。	た短文が書けること。	
授業の内容	原則として日本語 1 の教者 第 1 課はひらがなの読み書 第 2 課はカタカの読み書き 第 2 課の漢字の読み書きき練 第 3 週:第 3 課の漢字の読み書きき練 第 5 週:第 5 課の漢字の読み書きき練 第 6 週:第 6 課の漢字の読み書きき練 第 7 週:第 6 課の漢字の読み書きき練 第 8 週:第 7 課の漢字の読み書きき練 第 9 週:第 3 課の漢字の読みみ書 第 10 週:第 9 課の漢字の読みみ書 第 11 週:第 12 週の護字の読みみ書 第 12 週:第 12 課の漢字の読みみま書き 第 13 週:第 14 週:第 15 週: 第 15 週:全課の漢字の表 第 15 週: 第 16 課の漢字の表 第 17 週:第 18 書きき 第 18 週:第 18 書きき 第 19 週:第 18 書きき 第 19 週:第 10 課の漢字の 第 10 課の漢字の 第 12 課の漢字の 第 15 週: 第 16 週: 第 17 週: 第 17 週: 第 18 週: 第 18 週: 第 19 週: 第 19 週: 第 10 課の 第 10 課の 第 12 課の 第 12 課の 第 15 週: 第 16 週: 第 17 週: 第 17 週: 第 18 週: 8 回: 8 回:	きき習習習習習習の習習習習習習習習習習習習習習習習習習習習習習習習習習習習習	に集中的練習を行う。 に集中的練習を行う。 た文章の読解練習。 た文章の読解練習。 た文文章の読解練習。 た文文章の読解練習。 た文文章の読解練習。 方と文章の読解練習。 方と文章の読解練習。 方と文章の読解練習。 方と文章の読解練習。 方と文章の読解練習。 方と文章の読解練習。 方と大文章の読解練習。 方と大文章の読解練習。 方と大文章の読解練習。 方と大文章の読解練習。 方と大文章の読解練習。 方と大文章の読解練習。 方と大文章の読解練習。 方と大文章の読解練習。	
時間外学習	毎週の新出漢字の習得には時間外の練習が不可欠なので、毎日読み書きの練習をすること。			
教科書	初級日本語(げんき)I 第3版(ジャパン・タイムズ社)(初版と2版の教科書は使用できないので、必ず第3版の教科書を購入して下さい。)			
参考書	日英辞典(研究社)			
成績評価の方法 及び評価割合	小テスト(毎週) 40%・宿題(毎週) 20% 期末テスト40% 但し、出席率70%以下の場合は期末テストが受けられない。			
備考・注意事項	漢字の習得には毎週授業に出て必ず ある。	その週に学習し	った漢字を覚えることが必須で	

授業科目名	日本語 2 文法			
担当教員	南里 敬三	所属部局	国際教育推進センター	
単位	2	学期 曜日・時限	前期 火曜 2限 後期 火曜 1限	
担当教員の 研究室 電話・e-mail	教養教育棟 3 階 5 番 097	-554-7635 keiz	zo-nanri@oita-u.ac.jp	
授業のねらい	日常の体験を時系列的に順を追って記 的表現を学び、過去、現在の出来事 手との社会関係を配慮した表現が選択	こコメントが出	来るようになる。また、聞き	
具体的な 到達目標	一文中での二つの出来事の前後関係の明示方法、意志形を使った予定の報告の仕 方、受け身、使役表現を使った出来事の説明の説明方法、敬語を使った丁寧な話 し方を習得し、初級レベルの文法習得を完了する。			
授業の内容	第1-2週:所称では、「かられる。」 第2週:対して、「がレゼノ行伝のは、「がレゼノ行伝のは、「がレゼノ行伝のは、「がレゼノ行伝のは、「がレゼノ行伝のは、「がレゼノ行伝のは、「がレゼノ行伝のは、「がレゼノ行伝のは、「がレゼノ行伝のは、「がレゼノ行伝のできるが、「がレゼノ行伝のは、「がレゼノでは、「ないででででです。」 第10回に、「ないのでは、」は、「ないのでは、「ないのでは、「ないのでは、「ないのでは、「ないのでは、「ないのでは、「ないのでは、」は、「ないのでは、「ないのでは、」は、「ないのでは、「ないのでは、「ないのでは、」は、「ないのでは、「ないのでは、」は、「ないのでは、「ないのでは、」は、「ないのでは、「ないのでは、「ないのでは、「ないのでは、「ないのでは、「ないのでは、「ないのでは、「ないのでは、「ないのでは、「ないのでは、「ないのでは、「ないのでは、「ないのでは、「ないのでは、「ないのでは、「ないのでは、「ないのでは、いいのでは、「ないのでは、いいのでは、「ないのでは、いいのでは、「ないのでは、いい	るトつの表出 知てずび可 壊がる とやのりを事 、本をへ力来 ・チをり詳も使の 構語使りの事 会ェ説もしらっ前 文でっく出の 話ッ明らいいて後 のはてだ来引 練クすい説経レ関 正話確っ事き 習す	る経験を話す 明を活す のを話す のででででででででででででいる。 のでででででででででででででででででででででででででででででででででででで	
時間外学習	予習・復習それぞれに2時間の学習時間が必要。			
教科書	げんき II(ジャパンタイムズ出版)			
参考書	日本語文法辞典(初級編)、日本語文法辞典(中級編)(ジャパンタイムズ出版)			
成績評価の方法 及び評価割合	語彙聞き取りクイズ(毎週:10%)、エッセイ1、エッセイ2 (各5%)、中間テスト (15%)、大分散策 (5%)、会話テスト1、会話テスト2 (それぞれ10%、15%)、期末テスト (25%)、宿題 (10%)			
備考・注意事項	70%以上の出席がないと期末試験は語2総合と一緒に受講しなければなる		この科目は日本2会話、日本	

授業科目名	日本語 2 会話		
担当教員	南里 敬三	所属部局	国際教育推進センター
単位	2	学期 曜日・時限	前期 水曜 1限 後期 水曜 2限
担当教員の 研究室 電話・e-mail	教養教育棟 3 階 5 番 097·	-554-7635 keiz	co-nanri@oita-u.ac.jp
授業のねらい	日常の体験を時系列的に順を追って記 的表現を学び、過去、現在の出来事 手との社会関係を配慮した表現が選択	こコメントが出	来るようになる。また、聞き
具体的な 到達目標	自分のスケジュールの説明、不可抗力で発生した出来事の報告、誰かに何かをしてあげた、又は、してもらったことの報告などを取り交ぜて会話が対話形式で最低8分間できるようになる。また、その際、敬語の基本的使用ができるようになる。		
授業の内容	第1-2週:特別では、	るトつの表出 知てずぶ可 壊かるトつの表出 切日」、抗出 習をとやのりを事 、本をへ力来 ・チーをり詳も使の 構語使りの事 会ェ説もしらっ前 文でっく出の 話ッ明らいいて後 のはてだ来引 練クすい説経レ関 正話確っ事き 習す	「る 経験を活す を活す を活す を活すする。「たら」「前 をおきずる。「たら」「前 を性手であいたら」「前 を性手で表のはいる をときが話いいと をときが話いいと ではいる でがある で話かる でがある で話かる ではなります。 ではている ででの理解度はこと ででのでのではない。 ででのでもいのではない。 でいる。
時間外学習	予習・復習それぞれに2時間の学習時間が必要。		
教科書	げんき II(ジャパンタイムズ出版)		
参考書	日本語文法辞典(初級編)、日本語文法辞典(中級編)(ジャパンタイムズ出版)		
成績評価の方法 及び評価割合	語彙聞き取りクイズ(毎週:10%)、エッセイ1、エッセイ2 (各5%)、中間テスト (15%)、大分散策 (5%)、会話テスト1、会話テスト2 (それぞれ10%、15%)、期末テスト (25%)、宿題 (10%)		
備考・注意事項	70%以上の出席がないと期末試験は 語2総合と一緒に受講しなければなら		この科目は日本2会話、日本

授業科目名	日本語 2 総合			
担当教員	南里 敬三	所属部局	国際教育推進センター	
単位	2	学期 曜日・時限	前期 金曜 2限 後期 金曜 2限	
担当教員の 研究室 電話・e-mail	教養教育棟 3 階 5 番 097·	-554-7635 keiz	o-nanri@oita-u.ac.jp	
授業のねらい	日常の体験を時系列的に順を追って記 的表現を学び、過去、現在の出来事 手との社会関係を配慮した表現が選択	こコメントが出	来るようになる。また、聞き	
具体的な 到達目標	自分のスケジュール、不可抗力で発生した出来事、誰かに何かをしてあげた、又は、してもらったことのなどのトピックをテーマにした会話文が読めて理解できるようになる。自分の将来の計画について660 字程度の作文が辞書なしで書けるようになる。			
授業の内容	第1-2週:所名を でででででででででででででででででででででででででででででででででででで	るトつの長出 知てずび可 し壊かるトつの長出 切日」、抗出 習をとやのりを事 、本をへ力来 ・チをり詳も使の 構語使りの事 会ェ説もしらっ前 文でっく出の 話ッ明らいいて後 のはてだ来引 練クすい説経レ関 正話確っ事き 習すすい説経レ関	る経験で活すする。 を話すする。 を話すする。 を話すする。 で話すする。 を性手であいたら」「前 を性手で現がある。 を関事で話いしにの理解をする。 ではている。 ではている。 ではている。 ではている。 ではている。 ではている。 でもいのではない。 でもいのではない。 でもいのではない。 でもいのではない。 でもいのではない。 でもいのではない。	
時間外学習	予習・復習それぞれに2時間の学習	持間が必要。		
教科書	げんき II (ジャパンタイムズ出版)			
参考書	日本語文法辞典(初級編)、日本語文法辞典(中級編)(ジャパンタイムズ出版)			
成績評価の方法 及び評価割合	語彙聞き取りクイズ(毎週:10%)、 ト(15%)、大分散策(5%)、会話テ 15%)、期末テスト(25%)、宿題(1	スト1、会話っ		
備考・注意事項	70%以上の出席がないと期末試験は語2総合と一緒に受講しなければなら		この科目は日本2会話、日本	

授業科目名	日本語 2 読解			
担当教員	前田京子	所属部局	国際教育推進センター(非常勤)	
単位	2	学期 曜日・時限	前期・後期 月曜 1限	
担当教員の 研究室 電話・e-mail	os190008@oita-u.ac.jp			
授業のねらい	│ │初級前半修了程度の学習者の読解力の │	の向上のための	新たな語彙、表現、漢字の習得	
具体的な 到達目標	・約 300 の基本漢字の書き方と読み方 ・基本漢字から派生する語彙の習得 ・短い文章の読解 ・身近な出来事についての作文			
授業の内容	1. オリののでは、 1. オリののでは、 2. オリののでは、 3. 日本ののおもしろい経験(1) 4. 日本ののおもい経験(2) 5. 悩ががが、 5. 中リン・は、 5. 中リン・は、 5. 中リン・は、 7. 8. 中リン・は、	 	TO CONTRACT THE CONTRACTOR	
時間外学習	課題や自主学習に週 4 時間取り組む必要がある。 予習・復習は必須。予習をしている前提で授業を進める。			
教科書	『初級日本語 げんきI 第2版』(The Japan Times)			
参考書	『新漢英字典』(研究社) 『日本語基本文法辞典』 (The Japan Times)			
成績評価の方法 及び評価割合	授業への積極的な参加(10%)、宿題(20%)、小テスト(10%)、 中間・期末テスト(60%)			
備考・注意事項	出席率が 70%を割る場合は、期末テ 本授業計画は受講者の理解度・習熟原		-	

授業科目名	日本語 3 文法		
担当教員	坂井 美恵子	所属部局	国際教育推進センター
単位	2	学期 曜日・時限	前期: 木曜 2限 後期: 火曜 2限
担当教員の 研究室 電話・e-mail	教養教育棟3階7番 097-554	I-7516	msakai@oita-u.ac.jp
授業のねらい	このコースは初級レベルを修了した生た基本的な文法を、話題や場面に応じ日常会話を支障なく行うために必要る。	じて適切に運用	できるようになること、また、
具体的な 到達目標	 日常生活の様々な場面において必 話題や場面に応じて必要となるなようになる。 日常会話が支障なく行えるよう、 さまざまな場面の会話を聞き取り 	(法や文型を自 正確に話せる。	ら選び出し、適切に運用できるようになる。
授業の内容	以下のトピックを話すときに必要とな 1. 友人や家族の紹介 2. 子供のころの思い出 3. 性格 4. 状況の説明 5. 自国の紹介 6. 自国を旅行する友だちへのアドバ 7. 旅行の計画 8. 生活の変化 9. 国民性の比較 10. 日本の生活習慣や印象 11. 将来の希望や夢 12. 3 0 年後の世界 13. 食と健康 14. ストレス解消法 15. 若者言葉 【学生がより深く学べるための工夫】 で取り入れる。	バイス	
———————— 時間外学習	聴解練習、各課の予習・復習など毎週	園 2 時間程度の	時間外学習を課す。
教科書	『J Bridge to Intermediate Japanese,	(凡人社)	
参考書	『日本語文法辞典[中級編]』 (The J	apan Times)	
成績評価の方法 及び評価割合	宿題・態度など (25%) 出席率が 70%以下の場合は、期末テ	ストを受ける資	
備考・注意事項	日本語2修了、またはプレースメントることを履修の条件とする。 日本語3文法と日本語3会話は同時/		

授業科目名	日本語 3 会話			
担当教員	坂井 美恵子	所属部局	国際教育推進センター	
単位	2	学期 曜日•時限	前期: 水曜 2限 後期: 水曜 1限	
担当教員の 研究室 電話・e-mail	 教養教育棟3階7番 097-554	4-7516	msakai@oita-u.ac.jp	
授業のねらい	このコースは初級レベルを修了した。 た基本的な文法を、話題や場面に応り 日常会話を支障なく行うために必要 る。	じて適切に運用	できるようになること、また、	
具体的な 到達目標	 日常生活の様々な場面において必 話題や場面に応じて必要となるがようになる。 日常会話が支障なく行えるよう、 さまざまな場面の会話を聞き取り 	文法や文型を自 正確に話せる	ら選び出し、適切に運用できるようになる。	
授業の内容	以下のトピックを話すときに必要を1. 友人や家族の紹介 2. 子供のころの思い出 3. 性格 4. 状況の紹介 5. 自国を旅行する友だちへのアドバ 6. 自国を旅行する友だちへのアドバ 7. 旅行の計画 8. 生活の変化 9. 国民性の比較 10. 日本の希望や印象 11. 将来の希望や第 12. 30年後の世界 13. 食と健康 14. ストレス解消法 15. 若者言葉 【学生がより深く学べるためのエ夫】コミュニケーション能力の向上のたるを取り入れる。	行う。		
時間外学習	聴解練習、各課の予習・復習など毎記	週2時間程度の	時間外学習を課す。	
教科書	『J Bridge to Intermediate Japanese,	『J Bridge to Intermediate Japanese』(凡人社)		
参考書	┃ ┃ 『日本語文法辞典[中級編]』 (The J ┃	apan Times)		
成績評価の方法 及び評価割合	レッスンテスト (30%)、 期末テスト (30%)、 単語テスト (15%)、 宿題・態度など (25%) 出席率が 70%以下の場合は、期末テストを受ける資格がなくなる。			
備考・注意事項	日本語2修了、またはプレースメントることを履修の条件とする。 日本語3文法と日本語3会話は同時/			

授業科目名	日本語 3 読解 II				
担当教員	前田 京子	所属部局	国際教育推進センター (非常勤)		
単位	2	学期 曜日・時限	前期 火曜 1 限		
担当教員の 研究室 電話・e-mail	os190008@oita-u.ac.jp				
授業のねらい	 身近な日本についての初中級レベルの	の短い文章を読	み、理解できる。		
具体的な 到達目標	・文章の構成を理解する。 ・分からない言葉や漢字があった場合、どのように対処するかを学ぶ。 ・文章の中から必要な情報を速く探す。 ・接続詞や副詞の効果的な使い方を学ぶ。 ・日本人の意識や日本の文化について学ぶ。				
授業の内容	1. ガ族 2. 3. 4. 不怪談話 3. 不怪談話 5. 不怪談話 1 6. 怪孩語 間 7. 8. 中英鉄 4 和日日 6 期 7 11. 和日日 7 12. 和日日 7 12. 和日日 7 12. 和日日 7 13. 和日日 7 13. 和日日 7 14. 和日日 7 15. 期 16. 期 がより深く学や短い発表でペプワークや短い発表をするための表をするための表をするための表をするための表をするための工夫】				
時間外学習	授業後の復習(漢字語彙の復習テストを行う)				
教科書	毎時間教師がハンドアウトを配布する。				
参考書	授業で提示する				
成績評価の方法 及び評価割合	授業態度·宿題 (10%)、課題 (15%)	、小テスト(10	%)、発表(10%)、試験(55%)		
備考・注意事項	この授業は初級レベルを修了した学生向けで、プレイスメントテストでレベル3以上と判定された学生が対象である。ひらがな、カタカナ、基本漢字300字を習得していることが必要である。授業は日本語で行う。出席率が70%以下の場合は期末試験を受けられない。				

授業科目名	日本語 3 作文Ⅱ			
担当教員	前田京子	所属部局	国際教育推進センター(非常勤)	
単位	2	学期 曜日・時限	前期 金曜 1限	
担当教員の 研究室 電話・e-mail	os190008@oita-u.ac.jp			
授業のねらい	初中級レベルの文法、表現、語彙を使程度の作文が書けるようになる。	使用し、身近な	トピックについて 600~700 字	
具体的な 到達目標	・段落を意識した作文が書けるようになる。 ・文の構成を理解し接続詞や副詞を効果的に使った文章を書く。 ・原稿用紙の使用の仕方を学ぶ。			
授業の内容	 がすを表す が可を表す 感謝を表頼をある 商品である 復習 中間試験 イベ情を表える アドバチ表ススする② アドバイスする② 将去と現在を比較する 復習 別まと現在を比較する 場ま ク学べるための工夫】 各授業でペアワークや短い発表をする 			
時間外学習	授業後の復習 発表の練習			
教科書	毎時間教師がハンドアウトを配布する	 3 。		
参考書	授業で提示する			
成績評価の方法 及び評価割合	授業態度・宿題(10%)、課題(20%)、発表(15%)、試験(55%)			
備考・注意事項	この授業は初級レベルを修了した学生向けで、プレイスメントテストでレベル3以上と判定された学生が対象である。ひらがな、カタカナ、基本漢字300字を習得していることが必要である。授業は日本語で行う。出席率が70%以下の場合は期末試験を受けられない。			

位 来 い ロ カ	성글·소프 X 디 + 크		
授業科目名 —————	多読で学ぶ日本語		I
担当教員	坂井 美恵子	所属部局	国際教育推進センター
単 位	2	学期 曜日・時限	前期: 月曜 4限
担当教員の 研究室 電話・e-mail	 教養教育棟3階7番 097-554	I–7516	msakai@oita-u.ac.jp
授業のねらい	多読とは、辞書を使わないで読めるなとで、効果的な外国語学習法です。こから始め、少しずつ長さと日本語のし本をより速く、より多く読めるようしとを目指しています。	この授業では、 ンベルを上げて	やさしく短い読み物を読むこと いくことで、日本語で書かれた
具体的な 到達目標	・日本語で書かれた本や多読用図書でまた。本を読む習慣を身に付け、日本語・日本語を速く読むカ、読解力、語話す力と書く力を含む日本語能力を	で読むことに対 彙力を身に付け	する抵抗をなくす
授業の内容	教子・大きない。 (多多多多多多多多多)のでででででででででででででででででででででででででででで	中と 学と が 図 ② ③ 後 う の の の の の の の の の の の の の	できるだけたくさんの本を読み方について気付いたことを記録で紹介をします。だ本の中からおすすめの本を一します。、教員は学生のレベルや必要性のからの紹介)
時間外学習	多読を行う		
教科書	『レベル別日本語多読ライブラリ 教材は教員が用意する。	一』『日本語	多読ブックス』などの多読用
参考書	『多読で学ぶ英語』(2006, リチャ-	ード・デイ他)	
成績評価の方法 及び評価割合	多読した本の冊数(20%)、読書記録物語を書く(15%)、ブックトレー		
備考・注意事項	プレイスメントテストでレベル3~	6と判定された	学生を対象とする

授業科目名	日本語4文法Ⅱ			
担当教員	前田 京子	所属部局	国際教育推進センター(非常勤)	
単位	2	学期 曜日・時限	前期 火曜 2限	
担当教員の 研究室 電話・e-mail	os190008@oita-u.ac.jp			
授業のねらい	一年を通じて文法 I と文法 II を履修す 正しく使えるようにする。	することで、中	級レベルの文法の理解を深め、	
具体的な 到達目標	名詞修飾や副詞・接続詞などを理解し、適切に使えるようになることを目指す。			
授業の内容	日本語 4 文 注 と同じ教科書を使い、 1. ガ文構造 3. 複対文	の言葉①		
時間外学習	宿題・復習など毎週2時間程度の時間外学習を必要とする。			
教科書	「中級日本語文法要点整理ポイント 20」スリーエーネットワーク社			
参考書	日本語辞典 日本語文法辞典			
成績評価の方法 及び評価割合	授業への取り組み・態度等(30%)、中間試験(30%)、期末試験(40%) 出席率が70%を割った場合は、期末テストを受ける資格がない。			
備考・注意事項	この授業は日本語中級レベルの学習者で、プレイスメントテストでレベル4と判定された者が対象である。少なくとも漢字500字以上の知識が必要である。授業は日本語で行う。			

授業科目名	日本語4スピーキング			
担当教員	坂井 美恵子	所属部局	国際教育推進も	2ンター
単位	2	学期 曜日・時限	前期: 木曜 後期: 火曜	,
担当教員研究室 電話・e-mail	教養教育棟3階7番 097-554	-7516	msakai@oita-u.	ac.jp
授業のねらい	中級後半レベルの学習者を対象に、大場面に対応できるスピーキング能力とらしている大分県の情報を集め、町色や魅力を探り、日本について理解	:聴解力の向上 に出て取材を	を目指す。また、	自分たちが暮
具体的な 到達目標	1. クラスメートや日本人との日本語表現を使用し、一般的な話題につい2. 総合的な日本語の運用能力を高る3. フォーマルな場面とインフォーマ4. 自然なスピードで話される様々な	いて正確かつ活: め、ある程度ま ルな場面でのま	発に会話ができる とまった量の話 長現の使い分けを	る。 ができる。 · 習得する。
授業の内容	前半は一大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大	東習がでは、 が構して話ン査材表表が、 が開して話とないでのでは、 が開いて話がでは、 がでは、 がで得をうテーまでにでいる。 で得をうテーまでにでいる。 でのいるでは、 でのいるでいるでは、 でのいるでのいるでは、 でのいるでは、 でのいるでは、 でのいるでは、 でのいるでは、 でのいるでは、 でのいるでは、 でのいるでは、 でのいるでは、 でのいるでは、 でのいるでは、 でのいるでのでのでは、 でのいるでは、 でのでは、 でのでは、 でのでのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでのでは、 でのでのででのでは、 でのでのでのでのでは、 でのでのでのでのででのででのででのででのででのでででのでででででででででで		とまった内容を 本人にインタ とまった内容を ができまった内容を はまった内容を はまった内容を はまった内容を はまった内容を はまった内容を はまった内容を はまった内容を はまった内容を はまった内容を はまった内容を はまった内容を はまったのではまった。 はなななななななななななななななななななななななななななななななななななな
時間外学習	き、自ら修正できる能力を身につける 聴解練習、日本人へのインタビュー記 間程度の時間外学習を課す。			構など毎週2時
教科書	『聞いて覚える話し方 日本語生中網	* 中上級編』	くろしお出版	
参考書	『にほんご会話上手!』ask 出版			
成績評価の方法 及び評価割合	宿題(10%)、単語クイズ(10%)、 口頭発表(10%)、プロジェクト(1	5%)、クラス	参加・態度など	(10%)
備考・注意事項	日本語 3 修了、またはプレースメントることを履修の条件とする。 出席率が 70%以下の場合は、最終プロ			

授業科目名	日本語4読解Ⅱ		
担当教員	西島 順子	所属部局	国際教育推進センター
単位	2	学期 曜日・時限	前期 金曜 2限
担当教員の 研究室 電話・e-mail	教養教育棟3階3-6番 097-554	1-7667 y-nis	shijima@oita-u.ac.jp
授業のねらい	この授業のねらいは、さまざまなトレデミックな文章を読むための読解力を 日本社会に関する知識を得るだけでな 身に付けることである。	を身に付けるこ	とである。また、読解を通して、
具体的な 到達目標	1. 社会的テーマに関するまとまった 2. 文章を読んで、未知の情報や筆行 3. 文章を読んで得た知識を身近なこ	皆の考えを正確	に理解することができる。
授業の内容	 オリエンテーション/コミュニグラック 学習① 仕事① 生き方・人生① 科学② 中間ミュニケーション② 生き方・人生② 生き方・人生② 埋き方・人生② 環ディア① 科学② 環境② 期末試験 【学生がより深く学ぶための工夫】内容理解だけではなく、本文で提起調べたりすることで、自身の問題として、 	されている問題	
時間外学習	毎週、予習と課題を行う。 単語クイズのための復習をする。		
教科書	教材配布		
参考書	大久保伸枝、『話す・書くにつながる! 大久保伸枝、『話す・書くにつながる!		
成績評価の方法 及び評価割合	中間試験(30%)、期末試験(30%)、	課題(20%)、	単語クイズ(20%)
備考・注意事項	このコースを受講できるかどうかは、ベルの日本語学習者を対象とし、漢字を前提としている。 出席率が 70%に満たない場合は、期	字 500 字、語彙	3000 語程度の知識があること

授業科目名	日本語4作文Ⅱ			
担当教員	西島 順子	所属部局	国際教育推進センター	
単位	2	学期 曜日・時限	前期 水曜 1限	
担当教員の 研究室 電話・e-mail	教養教育棟3階3-6番 097-554	1-7667 y-nis	shijima@oita-u.ac.jp	
授業のねらい	この授業のねらいは、情報を伝える・ 適切なレポートが書けるようになり、 である。ふさわしい表現や文型を学び	大学生活で必	要な作文技術を向上させること	
具体的な 到達目標	1. 目的(情報を伝える・意見を述べ 2. 身近なことであれば、やや複雑な 3. 800 字以上の論理的なレポートか	なことでも説明	できる。	
授業の内容	1. オリエンテーション/情報を文章 3. 状況を記し、意見を述べる② 4. 状況を説明し、意見を述べる② 5. 段落を作る② 7. ピ界を作る② 7. ピトが上のでは、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	きする① さ、ピアリーデ	ィングを行うことで、クラスメ	
時間外学習	原則として、毎週課題を提出する。			
教科書	教材配布			
参考書	藤尾喜代子、『大学で学ぶための日本語ライティング』ジャパンタイムズ、2006 石黒圭、『留学生のための ここが大切文章表現のルール』スリーエーネットワーク、2009			
成績評価の方法 及び評価割合	中間レポート(30%)、期末レポート	(30%)、各課	題(40%)	
備考・注意事項	このコースを受講できるかどうかは、 ベルの日本語学習者を対象とし、漢字 を前提としている。 出席率が 70%に満たない場合は、期	字 500 字、語彙	3000 語程度の知識があること	

授業科目名	日本語 4 応用 II			
担当教員	前田京子	所属部局	国際教育推進センター(非常勤)	
単位	2	学期 曜日・時限	前期 金曜 3 限	
担当教員の 研究室 電話・e-mail	os190008@oita-u.ac.jp			
授業のねらい	この授業は中級レベル日本語学習で設定の授業は中級レベル日本語学習で設定のでは、1000円で	とを目的として	いる。また様々なトピックにつ	
具体的な 到達目標	1. 日本語で簡単なディスカッション 2. 日本語で自己表現を行えるようし 3. 日本の文化や社会についての理解	こなること。		
授業の内容	1. オリンテーション 2. メディアから学ぶ日本語② 4. メディアから学ぶ日本語③ 5. メディアアからら学ぶら学ぶら学ぶら学ぶの日本語⑤ 7. メディアアかからら学ぶがらら学ぶがらら学ぶがらら学ぶがらら学ぶがらら学ぶがらりでがある。 メディアアかからのの企画 11. プロロジェクトのの企画 11. プロロジェクトのの企画 13. プロジェクトの発表・よりプロジェクトの発表・よりプロジェクトの発表・よりプロジェクトの発表・よりの受害がより、プロジェクトの発表を対した。 期末試験 【学生がより深く学べるで学生は、授生がよりに関係を表して、関係を表して、関係を表して、関係を表して、関係を表して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対	 吾から言葉の使		
時間外学習	復習・課題など、毎週2時間程度の学習を必要とする。			
教科書	教材配布			
参考書	日本語辞書、慣用表現辞典、等			
成績評価の方法 及び評価割合	授業での積極的な討議参加 (20%)、プロジェクト (30%)、 その他課題 (20%)、 期末試験 (30%)			
備考・注意事項	この授業を履修する学生は、日本語は修済みであること。または同時に履何い場合、期末試験を受ける資格はない	多することを勧		

授業科目名	日本語 5 スピーキング			
担当教員	前田 京子	所属部局	国際教育推進センター(非常勤)	
単位	2	学期 曜日•時限	前期 月曜 2限	
担当教員の 研究室 電話・e-mail	os190008@oita-u.ac.jp			
授業のねらい	この授業では、上級レベルの学習者に 容の話ができるように、日本語会話に			
具体的な 到達目標	・複数の段落で構成されたまとまりのある話が3分間程度できるようになる。 ・詳しい描写や複雑なことの説明、できごとの説明などができるようになる。 ・失礼にならない話し方や話題に適した話し方ができるようになる。 ・異なる考えを認めながら、よい話し手・聞き手になる。			
授業の内容	1. ガイタス 2. 自っかい 2. 自っかい 3. きくい 5. かい 7.	する時間を設け 客観的に学ぶこ	とができる。	
時間外学習	単語やフレーズの復習、宿題など毎週2時間程度の時間外学習を必要とする。			
教科書	『日本語上級話者への道』スリーエ-	ーネットワーク	<u>———</u> —————————————————————————————————	
参考書	『シャドーイング 日本語を話そう 中~上級編』くろしお出版			
成績評価の方法 及び評価割合	授業への取組み・態度等(30%)、中間試験 (30%)、期末試験(40%) 出席率が70%を割った場合は、期末テストを受ける資格がない。			
備考・注意事項	この授業は日本語上級レベルの学習 (成績 B 以上)、あるいはプレイスメ ことが必要である。 第1回目の授業で受講者を決めるため	ントテストで	レベル5以上と判定されている	

授業科目名	日本語 5 読解・作文 II			
担当教員	坂井 美恵子	所属部局	国際教育推進センター	
単位	2	学期 曜日・時限	前期: 水曜 1限	
担当教員の 研究室 電話・e-mail	教養教育棟3階7番 097-554	l–7516	msakai@oita-u.ac.jp	
授業のねらい	この授業は上級レベルの学習者を対象にし、日本語 5 読解・作文 I では扱わなかった分野の論説文を読むことにより、専門分野の論文を読むための読解力の基礎をさらに充実させることを目指す。それと同時に、日本語 5 読解・作文 I とは異なった作家の短編小説を読み、さらに現代の日本文学に親しみ、論説文とは違う分野の語彙や表現の習得を目指す。また、論理的な文章が書けるようになることを目指す。			
具体的な 到達目標	 1. 1200字程度の短い論説文から2000 把握し、語彙や表現を増やす。 2. 論文を読むための基礎となる文章 必要な情報を読み取る。 3. 日本語で書かれた小説の内容を理 4. 日本人の物の見方や考え方、日本 5. 段落の構成について学び、文章の 	の論理構造にて 解する。 文化などに触れ	ついて学び、大意を把握したり、 u、意見を述べることができる。	
授業の内容	I. 読解:各週、以下の構造に注目し、 した論説文を読む。 1. 書き京の特徴 2. 段落内の構造 3. アウトラインと複文 4. 文の構造とと複文 4. 文の構造とで展開方法1 5. 論の展開方法2(文表現) 6. 要約 7. 中間試験 II. 作文:各週、以下の文章の組みとの中間試験 以下の文章の組みとの表が、対比といるののでは、対比といるのでは、対比といるのでは、対比というのは、対比というのは、現代の短編小説を訪り、対は、小説:各週、現代の短編小説を訪り、対策には、対策を表している。といるには、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	現在の日本社会 で 方や表現を で 活用紙の使い プログラング で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	会で問題となっている話題に関 習得し、作文を書く。 方 解し、言葉や表現について学ぶ。 い、学生同士で学び合いができ	
時間外学習	出する。 本文の予習・復習、作文等毎週2時間程度時間外学習を課す。			
教科書	『大学・大学院留学生の日本語3 論文読解編』アルク その他ハンドアウトを配布する。			
参考書	『大学・大学院留学生の日本語 4 論文作成編』アルク			
成績評価の方法 及び評価割合	中間試験(30%)、期末試験(30%)、作文(20%)、宿題(10%)、 クラス参加・態度など(10%)			
備考・注意事項	受講可能かどうかはプレイスメントで 作文Iを受講している必要はないが、 ことが望ましい。出席率が70%以下の	日本語能力試勵	検N1程度の日本語能力がある	

授業科目名	日本語 5 文法 🏻			
担当教員	西島 順子	所属部局	国際教育推進センター	
単位	2	学期 曜日・時限	前期 金曜 1 限	
担当教員の 研究室 電話・e-mail	教養教育棟3階3-6番 097-554	1-7667 y-nis	shijima@oita-u.ac.jp	
授業のねらい	日常会話の多様な表現、あるいは大学 身に付けるため、中・上級表現文型と 運用する力をつける。			
具体的な 到達目標	1. 上級レベル(N1)の日本語文法 2. 類似表現の意味や使い方の違いる 3. 類似表現の違いを理解したうえる	を理解できる。		
授業の内容	1. オリンテーション/比較 2. 状別 3. 例情 5. 基準 6. 基準 6. 結中間能・ 7. 8. 中可意料 9. 意料 10. 料否定 11. 料否定 14. そ総括 15. 期末 12. 名のの 14. そ総括 15. 期末 16. 期がよりであるの 16. 期がよりでする。 17. 対別では、 18. 対別では、 19. 対別では、 1	=		
時間外学習	予習と復習を行う。 毎週の課題を提出する。			
教科書	教材配布			
参考書	友松悦子、『どんな時どう使う 日本語表現文型辞典』アルク、2010 大阪 YMCA、『くらべてわかる 日本語表現文型辞典』ジェイ・リサ-チ出版、2008 アスク出版編集部、『生きた例文で学ぶ 日本語表現文型辞典』アスク出版、2008			
成績評価の方法 及び評価割合	中間試験(40%)、期末試験(40%)、	課題(20%)		
備考・注意事項	この授業は上級レベルの学習者を対象法の知識があることを前提としているイスメントテストの結果による。 出席率が70%に満たない場合は、期	る。このコース	を受講できるかどうかは、プレ	

授業科目名	日本研究 I I			
担当教員	南里 敬三、GAIA教員	所属部局	国際教育推進センター	
単位	2	学期 曜日・時限	前期 金曜 5限	
担当教員の 研究室 電話・e-mail	教養教育棟 3 階 5 番 097-554-7635 keizo-nanri@oita-u.ac.jp			
授業のねらい	このコースは、日本語日本文化研修生を対象としており、(日本語で)論文を書き上げることを目的とする。			
具体的な 到達目標	仮説の微調整とデータの収集の微調 身につける。論文の長さは1万字前行		得し論文を書きあげる技術を	
授業の内容	第1 週 - 第5 週:仮説の絞り込み。 【学生がより深く学べるための工夫】 抽象的仮説から具体的表現を使用した仮説へと移行していく。その一方でデータ 収集も始める。仮説が具体化していくのは通常5 月の初めから中旬にかけて。ス テップ・バイ・ステップで論文指導をしていく。また、指導教員、論文支援チュ ーター、日研生と三人がチームを組んで論文作成に当たるので安心して論文が書 けるだろう。 第6 週 - 第10 週:仮説の微調整とデータ分析。 【学生がより深く学べるための工夫】 集めたデータの中には実際に仮説の検証に必要なものとそうでないものがある。 いらないデータがなんであるのか、それは仮説がしっかりたてられているかによる。自分の立てた仮説をしっかり理解してデータ分析を行う。データ分析の記述 については既にテンプレートがあるのでそれに沿ってデータ分析の箇所を書いて いく。 第11 週 - 第15 週:論文を完成させる。 【学生がより深く学べるための工夫】 アウトラインが出来上がり、それに沿って論文に文字通り肉付けしていく作業が 中心となるが、仮説の採取調節とそれに基づいて論文の「はじめに」の部分など			
時間外学習	で進んでいくので安心して論文指導が受けられるだろう。 3 時間の予習と 1 時間の復習が必要である。			
教科書	なし。			
参考書	学生の研究分野・テーマごとに必要フ	な参考文献リス	トを配布する。	
成績評価の方法 及び評価割合	論文(100%)			
備考・注意事項	論文の内容は、日研生プログラムの開始時の日研生の日本語力にあわせて設定する。			

授業科目名	大学院入学前予備教育日本語初級集中			
担当教員	GAIA 教員	所属部局	国際教育推進センター	
単位	未定	学期 曜日・時限	未定	
担当教員の 研究室 電話・e-mail	教養教育棟 3 階			
授業のねらい	このコースは、国費留学生を対象とした初級集中日本語コースで、話す、聞く、書く、読むの四技能を学びます。文法説明は英語で行われるために、簡単な英語力が必要となります。			
具体的な 到達目標	・基礎的な日常会話ができるようになる・ひらがな、カタカナ、基本漢字の読み書きができるようになる・短い文章が読め、書けるようになる			
授業の内容	以下の場面で必要となる文法、表現、語彙を学ぶ 1. 挨拶 2. 自己紹介 3. 数・時間を表す 4. 買い物 5. 予定を話す 6. 約束をする 7. 誘う 8. 場所を説明する 9. 過去のことを話す 10. 好き嫌いを表す 11. 理由を話す 12. 依頼する 13. 許可する 14. 禁止する 15. 家族紹介 【学生がより深く学べるための工夫】 学生はターゲットとなる文法について予め文法解説を読み、基礎知識を得た上で、 C D で口頭練習を行ってから授業に参加する。授業内では実践に近い状況を設定し、教師対学生、学生対学生による会話練習を行う。			
時間外学習	各課の予習・復習など毎週2時間程度の時間外学習を課す。			
教科書	『初級日本語げんき I』(The Japan T 『初級日本語げんき I ワークブック	•	Times)	
参考書	『日本語文法辞典』 (The Japan Times)			
成績評価の方法 及び評価割合	小テスト・宿題 (30%)、 会話テスト (30%)、 期末テスト (40%)			
備考・注意事項	大学院入学前予備教育の国費留学生を	を対象とする。		

授業科目名	日本語 3 読解 I		
担当教員	大坪 美奈子	所属部局	国際教育推進センター (非常勤)
単位	2	学期 曜日・時限	後期 木曜 1限
担当教員の 研究室 電話・e-mail	mohtubo@nm.beppu-u.ac.jp)	
授業のねらい	 身近な日本についての初中級レベルの	の短い文章を読	み、理解できる。
具体的な 到達目標	・文章の構成を理解する。 ・文章の中から必要な情報をすばや・ ・接続詞や副詞の適切な使い方を学え ・日本の生活や文化について学ぶ。		
授業の内容	1. が 2. 読み物② 4. 読み物③ 5. 読みか物⑤ 6. 読みり 6. 読みり 7. 中 8. 時みり 10. 読みかり 11. 読みかり 12. 読みかり 12. 読みかり 13. 読みり 14. 復期末がよりの 15. はリープで内容について話し ペアやグループで内容について話し		న్ .
時間外学習	復習や小テストの準備などの時間外雪	学習を必要とす	る。
教科書	毎回、教師がプリントを配布する。		
参考書	参考書は指定しない		
成績評価の方法 及び評価割合	授業への取組み・態度、小テスト等 出席率が 70%を割った場合は期末テ		
備考・注意事項	この授業は初級レベルを修了した学生上と判定された学生が対象である。打		

授業科目名	日本語 3 作文 I			
担当教員	前田京子	所属部局	国際教育推進センター(非常勤)	
単位	2	学期 曜日・時限	後期 月曜 2限	
担当教員の 研究室 電話・e-mail	os190008@oita-u.ac.jp			
授業のねらい	初中級レベルの文法、表現、語彙を係 程度の作文が書けるようになる。	吏用し、身近な	トピックについて 600~700 字	
具体的な 到達目標	・段落を意識した作文が書けるようし ・文の構成を理解し接続詞や副詞をす ・原稿用紙の使用の仕方を学ぶ。		文章を書く。	
授業の内容	1. ガイダンス 2. 自己紹介 3. みんなに友だちを紹介する 4. 依頼する 5. 物事を描写する 6. ニュースを伝える 7. 復習 8. 中間試験 9. 意見を述べる 10. 将来を予測する 11.考えを主張する 12. 日本人のイメージ 13. インタビューの準備 14. インタビューの結果とまとめ 15. 発表 16. 期末試験 【学生がより深く学べるための工夫】			
時間外学習	授業後の復習 発表の練習	-		
教科書	毎時間教師がハンドアウトを配布する	5 .		
参考書	授業で提示する			
成績評価の方法 及び評価割合	授業態度・宿題(10%)、課題(15%)、発表(20%)、試験(55%)			
備考・注意事項	この授業は初級レベルを修了した学生向けで、プレイスメントテストでレベル3以上と判定された学生が対象である。ひらがな、カタカナ、基本漢字300字を習得していることが必要である。授業は日本語で行う。出席率が70%以下の場合は期末試験を受けられない。			

授業科目名	日本語 4 文法 I				
担当教員	大坪 美奈子	所属部局	国際教育推進センター (非常勤)		
単位	2	学期 曜日・時限	後期 月曜 1限		
担当教員の 研究室 電話・e-mail	mohtubo@nm.beppu-u.ac.jp)			
授業のねらい	一年を通じて文法 I と文法 II を履修す 正しく使えるようにする。	することで、中	級レベル文法の理解を深め、		
具体的な 到達目標	気持ちを表す助詞や、硬い文章、丁寧 ることを目指す。	寧な表現などを	理解し、適切に使えるようにな		
授業の内容	日本語4文法IIと同じ教書を使い、20課までを力が一する。 【授業日程】 1. がろいなします。 【授業日程】 1. がろいなします。 3. 話題のしまする。 3. 話題のしまをする。 4. 助詞のしまをする。 5. 助詞のしまをする。 6. 助詞のしまをする。 7. 助詞のしまをする。 8. 中間にの方法②がいるが、 10. 名詞をでする。 11. 語彙をでいるでは、 12. 硬いなででではないないないないないないないないないないないないないないないないない	1			
時間外学習	宿題・復習など毎週2時間程度の時間	間外学習を必要	とする。		
教科書	『中級日本語文法要点整理ポイント	20』スリーエー	-ネットワーク社		
参考書 	『日本語基本文法辞典』『日本語文法	辞典(中級編)』	ジャパンタイムズ		
成績評価の方法 及び評価割合	授業への取組み・態度等 (30%)、中間試験 (30%)、期末試験(40%) 出席率が 70%を割った場合は期末テストを受ける資格がない。				
備考・注意事項	この授業は日本語中級レベルの学習者 判定された者を対象とする。少なくる 授業は日本語でおこなう。				

授業科目名	日本語 4 読解 I		
担当教員	西島 順子	所属部局	国際教育推進センター
単位	2	学期 曜日・時限	後期 金曜 1 限
担当教員の 研究室 電話・e-mail	教養教育棟 3 階 3 - 6 番 097-554		nijima@oita-u.ac.jp
授業のねらい	この授業のねらいは、さまざまなジャデミックな文章を読むための読解力を 日本社会に関する知識を得るだけでな 身に付けることである。	を身に付けるこ	とである。また、読解を通して、
具体的な 到達目標	1. 社会的テーマに関するまとまった 2. 文章を読んで、未知の情報やデー 3. 速読をし、素早く文章の内容や 4. 文章を読んで、得た知識を身近れ	-タを正確に理 要点を理解する	解することができる。 ことができる。
授業の内容	1. オリエンテーション/手紙① 2. 手紙①/エッセイ① 3. エッセイ① 4. 論説文①/物語① 5. 論説文②/物語① 7. 論説文② 8. 中間試験 9. 論説文②/エッセイ② 10. エッセイ② 11. 論説文③/論説文④ 13. 論説文③/論説文④ 14. 論説文⑤ 15. 論説文⑤ 16. 期末試験 【学生がより深く学ぶための工夫】 1つのテーマにフき、追加の読み物や一マに関して、ディスカッションする		
時間外学習	毎週、予習と課題を行う。 単語クイズのため、復習をする。		
教科書	教材配布		
参考書	清水正幸、『日本語学習者のための読解 清水正幸、『日本語学習者のための読解		· · · · · ·
成績評価の方法 及び評価割合	中間試験(30%)、期末試験(30%)、	課題(20%)、	単語クイズ(20%)
備考・注意事項	このコースを受講できるかどうかは、ベルの日本語学習者を対象とし、漢字を前提としている。 出席率が70%に満たない場合は、期	字 500 字、語彙	3000 語程度の知識があること

授業科目名	日本語 4 作文 I			
担当教員	西島 順子	所属部局	国際教育推進センター	
単位	2	学期 曜日・時限	後期 木曜 2限	
担当教員の 研究室 電話・e-mail	教養教育棟3階3-6番 097-554	1-7667 y-nis	shijima@oita-u.ac.jp	
授業のねらい	この授業のねらいは、大学生活で必要 トや発表原稿、メールなどが書ける。 さわしい表現や文型を学ぶ。また、記	ようになること	である。そのために、状況にふ	
具体的な 到達目標	1. 状況(メール・レポート・発表版 2. 身近なことであれば、やや複雑が 3. 800 字以上の論理的なレポートが	なことでも説明	できる。	
授業の内容	1. オリスクランション (1) (1) (2) (2) (3) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4	ール、基本 トンメール	ぶ。場面や条件を設定して、具 る。また、ピアリーディングを	
時間外学習	原則として、毎週課題を提出する。			
教科書	教材配布			
参考書	石黒圭、『留学生のためのここが大切文章表現のルール』スリーエーネットワーク、 2009 友松悦子、『小論文への12のステップ』スリーエーネットワーク、2008			
成績評価の方法 及び評価割合	中間レポート(30%)、期末レポート	(30%)、各課	題(40%)	
備考・注意事項	このコースを受講できるかどうかは、ベルの日本語学習者を対象とし、漢字を前提としている。 出席率が70%に満たない場合は、期	字 500 字、語彙	3000 語程度の知識があること	

授業科目名	日本語 4 応用 I		
担当教員	大坪 美奈子	所属部局	国際教育推進センター (非常勤)
単位	2	学期 曜日・時限	後期 火曜 2限
担当教員の 研究室 電話・e-mail	mohtubo@nm.beppu-u.ac.jp)	
授業のねらい	この授業は中級レベル日本語学習でで 能力を実践的な文脈に応用させること いて日本語で議論や分析を行うことで	とを目的として	いる。また様々なトピックにつ
具体的な 到達目標	1. 日本語で簡単なディスカッショ 2. 日本語で自己表現が行えるよう 3. 日本の文化や社会についての理	になること。	
授業の内容	1. オディン (1) (2) (3) (4) (4) (4) (4) (5) (7) (6) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7	語から言葉の使	
時間外学習	復習・課題など、毎週2時間程度の豊	学習を必要とす	る 。
教科書	毎回、教師がプリントを配布する。		
参考書	参考書は指定しない		
成績評価の方法 及び評価割合	授業での積極的な討議参加 (20%)、 その他課題 (20%)、期末試験 (30%		(30%),
備考・注意事項	この授業を履修する学生は、日本語写済みであること、または同時に履修る出席率が70%に満たない場合、期末	することを勧め	る。

授業科目名	日本語5スピーキング			
担当教員	大坪 美奈子	所属部局	国際教育推進センター (非常勤)	
 単 位	2	学期 曜日・時限	│ │ 後期 │ 月曜 2限	
担当教員の 研究室 電話・e-mail	mohtubo@nm.beppu-u.ac.jp)		
授業のねらい	この授業では、上級レベルの学習者I 内容の話ができるように、日本語会語		•	
具体的な 到達目標	・複数の段落で構成されたまとまりの ・詳しい描写や複雑なことの説明、 ・失礼にならない話し方や話題に適し ・異なる考えを認めながら、よい話し	できごとの説明 した話し方がで	などができるようになる。 きるようになる。	
授業の内容	【授業日程】 1. ガロスターで語を与えるよう 3. きな介をいるで語を与うで語を与うで語を表で語を表で語を表でいた。 5. 動きのの順解 9. を明らからができををいるができまるができまるができまるがででででででででででででででででででででででで	する時間を設け 客観的に学ぶこ	とができる。	
時間外学習	単語やフレーズの復習、宿題など毎週	週2時間程度の	時間外学習を必要とする。	
教科書	『日本語上級話者への道』スリーエ-	ーネットワーク	社	
参考書	参考書は指定しない			
成績評価の方法 及び評価割合	授業への取組み・態度等(30%)、中間試験(30%)、期末試験(40%) 出席率が70%を割った場合は、期末テストを受ける資格がない。			
備考・注意事項	この授業は日本語上級レベルの学習者(成績 B 以上)、あるいはプレイスメンことが必要である。 第1回目の授業で受講者を決めるため	ノトテストでレ	ベル5以上と判定されている	

授業科目名	日本語 5 読解・作文 I				
担当教員	坂井 美恵子	所属部局	国際教育推進センター		
単位	2	学期 曜日・時限	後期: 水曜 2限		
研究室 電話・e-mail	 教養教育棟3階7番	1-7516	msakai@oita-u.ac.jp		
授業のねらい	1. 上級レベルの学習者を対象に、レポートや学術論文などを読むために必要な文法知識や文章構造に関する知識を学びながら、論文を独力で読めるようになるための基礎的読解力を養成する。 2. 短編小説を読み、現代の日本文学に親しむことと、論説文とは異なった分野の語彙や表現の習得を目指す。 3. 専門的な文章を書くために必要な作文の基礎知識も学ぶ。				
具体的な 到達目標	1. 1200字程度の短い論説文から、20 理解するとともに、論文を読むた 2. 文章の論理構造について学び、大意 3. 日本語で書かれた小説を読み、内 4. 日本人のものの見方や考え方、日 5. 段落の構成について学び、説明文	めに必要な文法 を把握したり、 容を説明できる 本文化に触れ、 が書ける。	法知識や語彙、表現を増やす。 必要な情報を素早く読み取る。 。 意見を述べることができる。		
授業の内容	I. 読解: 各週、以下の文章の論理構造 る話題に関した論説文を読む。 1. 書きっとメイン、指数 2. トル・スを持入です。 3. 中心文と支持表示す 4. 引の大きでのは、 7. 中の大きでででででででででででででででででででででででででででででででででででで	詞相当語 者の考え て方や表現を習 み、内容を理角	習得し、作文を書く。		
時間外学習	本文の予習・復習、作文等毎週2時間	間程度時間外学	習を課す。		
教科書	『大学・大学院留学生の日本語3 ま その他ハンドアウトを配布する。	倫文読解編』ア	ルク		
参考書	『大学・大学院留学生の日本語 4 :	倫文作成編』ア	ルク		
成績評価の方法 及び評価割合	中間試験(30%)、期末試験(30%)、作文(20%)、宿題(10%)、 クラス参加・態度など(10%)				
備考・注意事項	受講可能かどうかはプレイスメントラカ試験N1程度の日本語能力がある。 末試験を受ける資格がなくなる。				

授業科目名	日本語 5 文法 I			
担当教員	西島 順子	所属部局	国際教育推進センター	
単位	2	学期 曜日・時限	後期 金曜 2限	
担当教員の 研究室 電話・e-mail	教養教育棟3階306番 097-554	1-7667 y-ni:	shijima@oita-u.ac.jp	
授業のねらい	日常会話の多様な表現、あるいは大学 身に付けるため、中・上級表現文型と 運用する力をつける。			
具体的な 到達目標	1. 上級レベル(N1)の日本語文法 2. 類似表現の意味や使い方の違いる 3. 類似表現の違いを理解したうえる	を理解できる。		
授業の内容	1. 2. 3. 4 5. 6. 7 8. 9. 10. 11. 村上 2. 付時間接 4. 時間接 4. 時間接 4. 時間接 4. 時間接 4. 時間接 6. 接中当強制情子度 13. 心様程のの主義を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を	-		
時間外学習	予習と復習を行う。 毎週の課題を提出する。			
教科書	教材配布			
参考書	友松悦子、『どんな時どう使う 日本語表現文型辞典』アルク、2010 大阪 YMCA、『くらべてわかる 日本語表現文型辞典』ジェイ・リサーチ出版、2008 アスク出版編集部、『生きた例文で学ぶ 日本語表現文型辞典』アスク出版、2008			
成績評価の方法 及び評価割合	中間試験(40%)、期末試験(40%)、	課題(20%)		
備考・注意事項	この授業は上級レベルの学習者を対象法の知識があることを前提としているイスメントテストの結果による。 出席率が70%に満たない場合は、期	る。このコース	を受講できるかどうかは、プレ	

授業科目名	レポート・論文作成			
担当教員	西島 順子	所属部局	国際教育推進センター	
単位	2	学期 曜日・時限	後期 木曜 3 限	
担当教員の 研究室 電話・e-mail	教養教育棟3階3-6番 097-554	1-7667 y-nis	shijima@oita-u.ac.jp	
授業のねらい	この授業の目標は大学生として適切 ある。そのためにレポートや論文の特 テーマの選び方や文章の構成にも目で く。	寺徴を知り、適	切な語彙や文体を学ぶ。また、	
具体的な 到達目標	1. 話し言葉と書き言葉の語彙や文体 2. レポートを書くために必要な表現 3. 序論・本論・結論の構成で500	見文型を使用で	きるようになる。	
授業の内容	1. オリングレポート 2. 文章の 4. 対すの種 かまります 2. レポート 2. 文章の 4. 対すの 5. 引 4. 大力 5. 引 4. 大力 5. 引 5. 分析 (2) 7. データの 7. 対力 6. データの 7. データの 7. 対力 6. データの 7. 対力 6. 大力 6. データの 8. トラカ 10. 本論の 書き 5方 10. 本論の 書き 5方 13. 研すの 8. 対策 13. 研すの 8. 対策 13. 研すの 8. 対策 13. 対策 14. 文章の 8. 対策 15. 対策 15	章表現) 最初、誤用や 削をさせてもう で返却する。	問題のある個所を指摘するにと 一度提出するよう促す。再提出	
時間外学習	予習を行う。また、毎月課題があるの 作成する。	Dで、授業で学	んだことを復習し、レポートを	
教科書	教材配布			
参考書	田中真理、『Good Writing へのパスポート』くろしお出版、2014 二通信子、『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』東京 大学出版会、2009 浜田麻里、『論文ワークブック』くろしお出版、1997			
成績評価の方法 及び評価割合	各課題レポート(各 20%×3 回)、期	末レポート(4	10%)	
備考・注意事項	超級レベルの日本語学習者を対象に、 術の向上を目指す。受講者数は 20 名 かは、プレイスメントテストの結果 出席率が 70%に満たない場合は、期	A程度とする。 こよる。	このコースを受講できるかどう	

授業科目名	日本研究 I			
担当教員	南里 敬三、GAIA 教員	所属部局	国際教育推進センター	
単位	2	学期 曜日・時限	後期 金曜 5限	
担当教員の 研究室 電話・e-mail	教養教育棟 3 階 5 番 097	-554-7635 keiz	zo-nanri@oita-u.ac.jp	
授業のねらい	このコースは、日本語日本文化研修会 くにあたっての下準備を行うことに		おり、(日本語で)論文を書	
具体的な 到達目標	論文を作成する上にあって最も重要が うなデータを収集すべきなのかといる。			
授業の内容				
時間外学習	3 時間の予習と1 時間の復習が必要	である。		
教科書	なし。			
参考書	学生の研究分野・テーマごとに必要な参考文献リストを配布する。			
成績評価の方法 及び評価割合	論文のアウトラインの提出(50%)、アウトラインの口頭説明(50%)。			
備考・注意事項				

2. グローバル科目

(留学生・日本人学生向け科目)

(使用言語:日本語/日本語と英語/英語)

授業科目名	日本語文法分析			
担当教員	西島順子	所属部局	国際教育推進センター	
単位	2	学期 曜日・時限	前期 火曜 2限	
担当教員の 研究室 電話・e-mail	教養教育棟3階3-6番 097-554	1-7667 y-ni:	shijima@oita-u.ac.jp	
授業のねらい	日常接している日本語を様々な観点が 作業を通じて、日本語を言語として選 般の特徴を分析する力を養う。			
具体的な 到達目標	1. 言語学の基本的な考え方を学び、 2. 日本語と他の言語を比べ、共通 3. 外国語としての日本語を効果的(点と相違点が説	明できる。	
授業の内容	1. オリテン・コン・コン・コン・コン・コン・コン・コン・コン・コン・コン・カー から では から 日本語を分析する できますの できますの できます できます できます できます できます できます できます できます	言語の特徴 言語の機能 と助機能 と助機能 ・		
時間外学習	毎週出される課題を行う。 グループ発表や模擬授業の準備をする	5 .		
教科書	教材配布			
参考書	原沢伊都夫、『日本語教師のための入門言語学—演習と解説』スリーエーネットワーク、2016/伊坂淳一、『新ここからはじまる日本語学』ひつじ書房、2016/荒川洋平、『日本語教育のスタートライン』スリーエーネットワーク、200/荒川洋平、『日本語教師のための応用認知言語学』凡人社、2016			
成績評価の方法 及び評価割合	期末試験(50%)、模擬授業(30%)、課題(10%)クラス参加・態度(10%)			
備考・注意事項	出席率が 70%に満たない場合は、期 留学生は日本語能力試験 N1 と同等し る。		=	

授業科目名	ビジネスジャパニーズ演習 3		
担当教員	前田京子	所属部局	国際教育推進センター(非常勤)
単位	2	学期 曜日・時限	前期 月曜 3限
担当教員の 研究室 電話・e-mail	os190008@oita-u.ac.jp		
授業のねらい	このコースは、江漢大学「3+1」プロ るニュースを聞き取り、新聞記事を記 に、それらの情報を用いて意見を述べ	売み解く能力の [®]	習得を目指すものである。さら
具体的な 到達目標	・経済に関するニュース、新聞記事の ・ニュース、新聞記事の内容を整理し ・ニュース、新聞記事の内容を正確に きるようになる。	し、要点をまと	めることができるようになる。
授業の内容	1.コースの概要説明 2.情報選択の重要性 3.新聞記事を読む 4.新聞記事の要約 5.新聞記事の批評 6.ニュースの関 6.ニュースの要約 8.ニュースの批評 9-13.チームで情報を選び、意見を述 14.発表 15.まとめ、振り返り 【学生がより深く学ぶための工夫】 インターネットニュースなどから適ち チームによるディスカッシっを用いた 発表を録画し、ルーブリックを用いた	刃な情報を選択 ディベートの実	施。
時間外学習	日本の様々な社会・経済問題に関心を持ち、ニュース、新聞等に触れる習慣を身に付けること。		
教科書	経済問題を扱ったニュースなどの動画、新聞記事、ハンドアウト		
参考書	日本語辞書など(その他授業で提示)		
成績評価の方法 及び評価割合	授業態度・宿題(15%)、聴解(10%)、読解作文(15%)発表(15%)、期末試験 (45%)		
備考・注意事項	本コースは上記以外の留学生も受講す	可能とする。	

授業科目名	ビジネスジャパニーズ演習 4		
担当教員	前田京子	所属部局	国際教育推進センター(非常勤)
単位	2	学期 曜日・時限	前期 金曜 2限
担当教員の 研究室 電話・e-mail	os190008@oita-u.ac.jp		
授業のねらい	このコースは、江漢大学「3+1」プロで、ビジネス場面に必要な会話能力る。		
具体的な 到達目標	・企業について客観的に分析し、丁 ^図 ・様々なリソースを用いて必要な情報 ・ビジネス場面におけるマナー、会話	報を集め、まと な	めることができるようになる。
授業の内容	1.コースの概要説明 2.3.産業・職種・企業について 4.調査対象(企業)の選択 5.チームによる企画書の作成 6.情報収集 7.敬語とマナー 8.ビジネスメールを書く 9.メール交渉 10.情報のまとめと報告書の作成 11.中間報告 12.発表の準備、発表の仕方 13.情報整理 14.プレゼンテーション 15.まとめ、振り返り 【学生がより深く学ぶための工夫】 チームによる企業調査、交渉、企業訪問とインタビューの実施。		
時間外学習	チームでの報告書作成に加え、個人レポートも作成する。 日本の社会や企業に関心を持ち、情報を集める。 また、改まった場面でのコミュニケーションスキルを身に付け、積極的に実践する。		
教科書	ハンドアウト		
参考書 	日本語辞書など(その他授業で提示)		
成績評価の方法 及び評価割合	授業態度(10%)、課題(20%)、プレゼンテーション(25%)、期末試験(45%)		
備考・注意事項	本コースは上記以外の留学生も受講す	可能とする。	

授業科目名	狂言で大分を学ぶ			
担当教員	南里敬三, 西島順子	所属部局	国際教育推進	性センター
単位	2	学期 曜日・時限	前期 火曜	4限
担当教員の 研究室 電話・e-mail	教養教育棟 3 階 5 番 097 教養教育棟 3 階 6 番 097			
授業のねらい	日本の伝統芸能である狂言の基本をで作成しそれを実際に能の舞台で演じるできる人材を育てる。			
具体的な 到達目標	狂言の歴史が語れるようになる。狂言の舞台で演じることで日本の伝統芸術 特徴に精通し、リサーチに基づいた教	能を体験する。	大分地域の特別	定の文化・社会的
授業の内容	第1週:オリエンテーションと狂言の歴史・プロット 第2-5週:小舞・謡 第4-6週:シナリオ作成 第7-9週:シナリオ修正 第9週:狂言ワークショップ(能楽堂) 第10-14週:シナリオ修正・演技指導 第15週:演技審査(能楽堂) 【学生がより深く学べるための工夫】 座学で知識を得るだけではなく、プロの狂言師の指導を受けつつ実演するという 機会を与える。オリジナルのシナリオ作成のために大分に関する情報を積極的に 探索させる。			
時間外学習	狂言の発声・基本動作・演技について 作成のための取材、及び、シナリオイ			
教科書	授業中にプリントを配布する。			
参考書	授業中に参考図書のリストを配布する。			
成績評価の方法 及び評価割合	レポート1:狂言とは(10%)、レポート2:発声・小舞について(10%)、小謡テスト(10%)、パフォーマンス(2%×15回分の授業)、最終演技(40%)。			
備考・注意事項	70%以上の出席がない場合は不合格の生の参加は15名を上限とし、受講者領マンスを毎回2%とする。また参加者とする。	全員の制限を30	名とする。授業	業でのパフォー

授業科目名	Sustainability and Glocal Devel	opment in Oita 2	サステナビリティ大分2
担当教員	ブルカート香織	所属部局	国際教育推進センター
単位	2	学期 曜日・時限	Spring: Thursdays 4 th 前期:木 4
担当教員の 研究室 電話・e-mail	教養教育棟 3階 3		
授業のねらい	大分の環境や人間社会の持続可 るために不可欠な知識を身近な	「能な発展につい テーマから積み 可能な発展を支	する身近なテーマを通じて、世界やて考える。持続可能な未来を創造す上げ、学生自身の価値観をと向き合援する姿勢を育み、自ら考え行動す
具体的な 到達目標		がいかに国際的問	研究・調査を行う。 問題でありうるかを知る。 この考えを振り返ってまとめる。
授業の内容	【学生がより深く学べるための学生は、講義時間内外で計画されるカッション、クイズゲーム、Skills を実践する。学外への研がある。期末試験は実施せず、	円責り畐 面とす ヨヨヨンに はの では は で で で で で で で で で で で で で で で で	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・
時間外学習	2回オンラインディスカッショ 修・見学に参加するなどの時間		ンタビュー、フィールドワークや研 一部とみなす。
教科書	教材・資料は担当教員が配布す	⁻ る。	
参考書	参考資料は随時クラスのウェフ	ブサイト Moodle I	こ掲載する。
成績評価の方法 及び評価割合	オンラインディスカッション 20% プレゼンテーション 40% 期末レポート 40%		
備考・注意事項		ョン、期末レポート	りの融合クラスで、 <u>講義はほとんど英語</u> で <u>- は英語もしくは日本語のいずれかの言語</u> <u>唇が基本</u> となる。

授業科目名	歩いて楽しい街:大分と別府			
担当教員	南里 敬三	所属部局	国際教育推進センター	
単位	2	学期 曜日・時限	前期 金曜 3限	
担当教員の 研究室 電話・e-mail	教養教育棟 3 階 5 番 097-	-554-7635 keiz	co-nanri@oita-u.ac.jp	
授業のねらい	大分市並びに別府市を人が集まる都市 考察する。考察の対象はJR大分駅周辺 区。			
具体的な 到達目標	(1)大分市の文化施設と他都市の文化施設を比較し、文化施設の工夫とは何であるかを理解する。(2)別府の古民家利用状況を確認し建物の持つ文化的価値を認識する。(3)温泉という観光資源がどこまで世界に通用するのか認識する。(4)ネット上に仮想コミュニティーを構築し大分・別府をプロモートする方法を考える。			
授業の内容	第1回:オリエンテーション。 第2回:大分市中心にはプロンカーので大方ので大方ので大力をで大力をで大力をで大力をで大力をで大力をで大力をで大力をでする。 第4回:大方ので大力で大力で大力で大力である。 第5回:研修ができずでで大力ではできずでで大力ではできずでででででででででででででででででででででいる。 第6回:別別所ででででででででででででででででででででででででででででででででででで	する。 ら? 壊後の観光客の ? となり、 をいい となりして がして	O変化を知る。オンパクとは? ループには議長と書記がお プ全員が授業内容を理解して 受講者の理解度のモニタリン	
時間外学習	予習1 時間、復習2 時間が必要。研修	多旅行一回は授	業2回分に相当	
教科書	プリントを授業で配布する。			
参考書	授業中に参考文献のリストは配布され	いる。		
成績評価の方法 及び評価割合	プレゼンテーション(第12回授業、50%)、課題 1 (提出第6回授業、20%) 、課題 2 (提出第10回授業、30%)			
備考・注意事項	このコースは日本語と英語で行われる	る。単位取得に	は70%以上の授業参加が必要。	

授業科目名	大分地域理解			
担当教員	西島 順子	所属部局	国際教育推進センター	
単位	2	学期 曜日・時限	前期 水曜 2限	
担当教員の 研究室 電話・e-mail	教養教育棟 3 階 3 - 6 番 097-554	1-7667 y-nis	shijima@oita-u.ac.jp	
授業のねらい	この授業は複数の文化や言語の視点をもって、大分の社会や歴史を学ぶ。グループワークやフィールドワークを通じて、大分を深く理解するだけではなく、異なる背景を持つ日本人学生と留学生が議論し、多様な文化や考え方から地域の問題の解決策を考察する。また、複数の言語を用いて、インターネット上に活動内容を報告することを通して、多様な言語に接し、それらへの関心を高める。			
具体的な 到達目標	1. 大分という地域が持つ歴史や社会 2. それら活動を通して、異なる文化 3. 母語+1言語で活動することによ	とや言語を持つ	者が議論し、相互理解する。	
授業の内容	1. オリンテーション/大分の基本 大分の連盟		2回分) を明確化) 研究所・資料館;授業2回分) 方) 更することもある は複言語・複文化主義を理解し	
時間外学習	予習、報告、フィールドワークのため	めの準備、発表	のための準備を行う。	
教科書	教材配布			
参考書	参考資料は課題ごとに Moodle に掲載	はする		
成績評価の方法 及び評価割合	フィールドワーク参加(10%×2)、ディスカッション(10%×2)報告(10%×2)、 最終発表とレポート(30%)、クラス参加・姿勢(10%)			
備考・注意事項	最終発表とレホート(30%)、クラス参加・姿勢(10%) 積極的に課題に取り組む学生を対象とする。発表時間を確保するため、受講者数は 30 名を上限とする。 留学生は中級〜超級の日本語学習者を対象とする。中級レベルの学習者は、漢字500 字、語彙3000程度の知識があることを前提とする。 出席が70%に満たない学生は、最終課題への参加資格はない。			

授業科目名	異文化コミュニケーション			
担当教員	長池一美	所属部局	国際教育推進センター	
単位	2	学期・曜日・時限	前期:火(3限) 後期:月(3限)	
担当教員の 研究室 電話・e-mail	教養教育棟 3 階 3-4 番 097-554-7953 nagaike@oita-u.ac.jp			
授業のねらい	グローバル化の時代において異文化コミュニケーションの知識や実践力を身に着けることが必要です。 この授業では、異文化間コミュニケーションの基本的な知識と理論を学びます。 前半では日本と日本人を軸にしたトピックについて学び、後半では世界に目を向け、グローバリゼーション、多文化主義などの問題について学びます。			
具体的な 到達目標	1. 日本の社会と文化の特徴を理解する: 学生は日本の社会社会・文化構造に関する 基本的な概念を説明することができる。 2. 異文化間コミュニケーションに関する理論的視点の習得: 学生は異文化間コミュニケーションの主要な理論を説明できる。 3. 多文化主義の必要性を理解する: 学生はより広い多文化の文脈の中で社会状況を 分析することができる。			
授業の内容	1) コースの概要について 2) 異文化間コミュニケーションとは何か 3-5) 日本社会の分析と日本人の心理分析(本音と建前、内と外、義理、集団意識、贈答、先輩と後輩、甘えなど) 6) ジェスチャーと非言語コミュニケーション 7) オリエンタリズムとテクノオリエンタリズム(ハリウッド映画の分析など) 8) ナショナリズムと想像の共同体 9) 多文化主義(例:アイヌ民族の問題) 10) コミュニケーションとマスメディア(例:日本のマスメディアにおける外国人のステレオタイプ) 11) カルチャーショック 12-13) アジアの中の日本(例:靖国神社の問題) 14-15) グループプロジェクト 【学生がより深く学べるための工夫】この授業はレクチャー、(グループ) ディスカッション、プロジェクト準備・発表を中心として構成される。			
時間外学習	指定された文献を事前に熟読し、主題や論点について、要約を行っておくこと。課題や自主研究に週4時間取り組む必要がある。			
教科書	特に指定しない。			
参考書	第一回授業で配布。			
成績評価の方法 及び評価割合	授業への積極的な参加 20% プロジェクト 30% 期末試験 50%			
備考	この授業の使用言語は主に 発表の言語は英語ですが、身		説明があります。プロジェクト 日本語が選べます。	

授業科目名	日本ポピュラー・カルチャー研究		
担当教員	長池一美	所属部局	国際教育推進センター
単位	2	学期・曜日・時限	前期:水(4限)
担当教員の			
研究室	教養教育棟 3 階 3-4 番 097-	554-7953 nagaike@o	ita-u.ac.jp
電話・e-mail			
	「ポピュラー」という単語に	はしばしば「Low=ロウ」	(質の低い)というように解釈さ
	れたが、ポピュラー・カル・	チャーは社会・文化を分れ	折する上で欠かすことのできな
	い研究分野として注目されて	てきている。このコース	では日本のポピュラー・カルチ
授業のねらい	ャー(例 アニメ、アイドル	レ、ラノベ、映画、2.5 次	元等)がどのように現代日本社
	会の特徴と問題を扱っている	るかについて考察する。	そのうえで、日本社会、ならび
	に海外における日本のポピ	ュラー・カルチャーの受	容について議論する。この授業
	では各時代やジャンルを代表	表的する作品の分析を行	う。
	1. ポピュラー・カルチャー	-を通して日本社会の在	り方に精通する。
具体的な	2. 日本のポピュラー:カル	レチャーのグローバル化	を通して文化を比較する視点を
到達目標	養う。		
	3. ポピュラー・カルチャー		
	1) コースの概要について	(ポピュラー・カルチャ-	ーとは?)
	2) 浮世絵(前近代のポピュラ	ラー・カルチャー)	
	3-5) アニメ		
	6-7) ポップミュージックとアイドル		
	8) ライトノベル		
授業の内容	9-11) 映画		
	12) 声優		
	13) 2.5 次元		
	14)復習		
	【学生がより深く学べるたと		
		ルーフ) ティスカッショ	ン、プロジェクト準備・発表を
	中心として構成される。	注」	
時間外学習			て、要約を行っておくこと。課
	題や自主研究に週 4 時間取り組む必要がある。 		
数科書 ————————	特に指定しない。 		
参考書	第一回授業で配布。		
成績評価の方法	授業への積極的な参加 200	%	
及び評価割合	プロジェクト 30%		
~ C FI M F 1 L	期末試験 50%		
備考	この授業の使用言語は主に	英語ですが、日本語での	説明があります。プロジェクト
佣石	発表の言語は英語ですが、	期末試験の言語は英語か	日本語が選べます。

授業科目名	日本の美学とファッションメディア研究			
担当教員	長池一美・南里敬三	所属部局	国際教育推進センター	
単位	2	学期・曜日・時限	前:水(3限) 後:金(4限)	
担当教員の	教養教育棟 3 階 3-4 番 097-554-	7953 nagaike@oita-u.a	c.jp	
研究室	教養教育棟3階3-3番097-554-	7635 keizo-nanri@oita-	u.ac.jp	
電話・e-mail				
	日本のファッションは各時代のこ	ブームと共にそれを象徴する	美意識を生み出してきた。ファッシ	
	ョン雑誌の構成も時代のファッションブームや美意識に比例するかのように様々な方程式を生み			
授業のねらい	出している。この授業では特に女性向けのファッション雑誌のレイアウト、記事内容(コンテン			
	ト)、読者などを分析し、表現さ	れている日本独自の美学につ	ついて学ぶ。また、日本社会、ならび	
	に海外における日本のファッシ:	ョン文化の受容について議論	し、グローバルな視野を身に付ける。	
E /+ /// +>	1. 日本のファッション文化を追	通して日本社会の在り方に精	通する。	
具体的な	2. 日本のファッション文化を流	毎外の文化と比較することに	より、グローバルな視点を養う。	
到達目標	3. プロジェクトを通して、身1	こ付けた知識をアウトプット	する方法を学ぶ。	
	● 「かわいい」の歴史			
	● 「異装文化」の歴史			
	● 日本型ファッション誌の誕生(日本の欧米に対するあこがれ)			
	● アメカジに憧れた高校生たち(渋カジとはなんだったのか)			
	● 女子大生の時代、専属モデルが演じる時代(コンサバとエレガンス)			
授業の内容	● めちゃモテ路線と東京エレガンスの時代(ファッションモデルとコンサバ)			
反来の内谷	● 脱エレガンス、カジュアルの時代(大人女子、ロリータ、ギャル、キャバ嬢の世界)			
	● ファーストファッションの時代(白人回帰、憧れの消滅)			
	● コスプレ文化			
	● クィアファッション文化(女装・男装)			
	【学生がより深く学べるための工夫】			
	この授業はレクチャー、(グルー	プ) ディスカッション、プロ	ジェクト準備・発表を中心として構	
	成される。			
時間外学習	指定された文献を事前に熟読し、	主題や論点について、要約	を行っておくこと。課題や自主研究	
阿門八丁目	に週4時間取り組む必要がある。	,		
教科書	特に指定しない。			
参考書	第一回授業で配布。			
成績評価の方法及	授業への積極的な参加 20%			
	プロジェクト 50%			
び評価割合	期末試験 30%			
備考	この授業の使用言語は主に英語ですが、日本語での説明があります。プロジェクト発表の言語は 英語ですが、期末試験の言語は英語か日本語が選べます。			

授業科目名	日本の歴史・文化・社会入門			
担当教員	長池一美	所属部局	国際教育推進センター	
単位	2	学期・曜日・時限	前期:月(3限) 後期:水(4限)	
担当教員の 研究室 電話・e-mail	教養教育棟 3 階 3-4 番 097-554-7953 nagaike@oita-u.ac.jp			
授業のねらい	この授業では日本の歴史、神	社会、文化の基本的な事	項を学ぶ。	
具体的な 到達目標	1. 日本の歴史に精通する。 2. 日本文化の特性を理解する(特に前近代)。 3. 現代日本の社会の特性を理解する。 4. 日本の伝統文化の体験(例 茶道)から日本について学ぶ。			
授業の内容	1) コースの概要について 2~5) 歴史 6~7) 芸能(能 文楽 歌 8) 家族と家制度 9~10) 日本の伝統文化体験 11~12) 企業と労働 13) 宗教と道 14) 古典文学と美学 15) 復習 【学生がより深く学べるために この授業はレクチャー、(グ 業の理解度を図るためにトロ	めの工夫】 ループ) ディスカッショ	ンを中心として構成される。 授せられる。	
時間外学習	指定された文献を事前に熟読し、主題や論点について、要約を行っておくこと。課題や自主研究に週4時間取り組む必要がある。			
教科書	特に指定しない。			
参考書	第一回授業で配布。			
成績評価の方法 及び評価割合	授業への積極的な参加 300 小試験 30% 期末試験 40%	%		
備考	この授業の使用言語は主に試験の言語は英語か日本語が		説明があります。小試験、期末	

授業科目名	日本語表現技術		
担当教員	西島 順子	所属部局	国際教育推進センター
単位	2	学期 曜日・時限	後期 火曜 4限
担当教員の 研究室 電話・e-mail	教養教育棟3階3-6番 097-554	1-7667 y-nis	shijima@oita-u.ac.jp
授業のねらい	この授業のねらいは、積極的に議論に を的確に伝えられるようになること 身に付ける。また留学生と日本人学生とで、相互理解を促進する。	である。内容を	精査して、論理的に話す技術も
具体的な 到達目標	1. 目的に応じてパワーポイント等で 2. 論理的で説得力のある話ができる 3. 多様な背景を持つ人と協力し合い	るようになる。	
授業の内容	1. オリエンテーション() ディスカッション() イ・ディスカッション() 4. プレゼンテーションの手法() 6. プレゼンテーションの準備() 7. 発表() 8. 発表() 9. 論理的に話す() 論点を下り、対立計論の準備() 11. 対立計論の準備() 13. 対立計論の準備() 13. 対立計論の準備() 14. 試合() 15. 試合() 「学生がようなには自たにでしている。またではいったが、方の改善点をフィードバックする。	カの ある 素	い積極的にディスカッションを ではなく、振り返りの時間に、
時間外学習	原則として毎週課題をする。 発表のために授業外でグループ活動で	を行う。十分な	準備時間を確保する。
教科書	教材配布		
参考書	中澤務、『知のナヴィゲーター』くろしお出版、2007 東海大学留学生教育センター、『口頭発表と討論の技術』東海大学出版会、1995 木南法子『論理的で正しい日本語を使うための技術とトレーニング』ベレ出版、2013		
成績評価の方法 及び評価割合	グループディスカッション(20%)、 課題提出(10%)、期末レポート(10		ョン(30%)、対立討論(30%)、
備考・注意事項	積極的に課題に取り組む学生を対象 30 名を上限とする。 出席率が 70%に満たない場合は最終 留学生は中級~超級の日本語学習者 字、語彙 3000 程度の知識があること	とする。発表時 課題への参加資 を対象とする。中	そ格はない。 ロ級レベルの学習者は、漢字 500

授業科目名	日本語学I				
担当教員	坂井 美恵子	所属部局	国際教育推進センター		
単位	2	学期 曜日・時限	後期: 木曜 2限		
担当教員の 研究室 電話・e-mail	教養教育棟3階7番 097-554	1 –7516	msakai@oita-u.ac.jp		
授業のねらい	日本語の音声、語彙、文法、方言など 自ら分析できる力を養い、日本語に 日本語超級レベルの留学生と、日本語 授業である。	対する知識と興	味を深めることを目的とする。		
具体的な 到達目標	1. 日本語の音声、語彙、文法、方 徴について考えられるようにな 2. 興味のある分野について、自ら記	る。			
授業の内容	1 概略 2 世界の言語 はば語語 はは語語 はは語語 はは を本語語 はは を	時た。 ベマ の し 見紹外日。かツ 共 に 内 やす言語 はずュ 点 め 容 体る語 にずュ 点 め 容 体るに 験。 大 と れ つ に 験。 風 呼 た	ばれない? 気持ち てグループで教え合い、意見交 いて書く宿題を課し、グループ		
時間外学習	・授業では留学生と日本人学生とのグループディスカッションを行うため、予習と 毎週出される課題に取り組むことが前提となる。 ・興味のある分野について、自ら調査した結果をレポートにまとめ、発表する。				
教科書	ハンドアウトを配布する。				
参考書	庵功雄(2012)『新しい日本語学入門ことばのしくみを考える』スリーエーネット ワーク 黒田龍之介(2011)『ことばは変わる』白水社				
成績評価の方法 及び評価割合	中間試験(30%)、グループプロジ: クラス参加、態度など(10%)	ェクト (40%)	、課題と発表(20%)、		
備考・注意事項	日本語能力試験N1合格レベル以上のる。日本語に興味があり、積極的に記40名を上限とする。				

授業科目名	ビジネスジャパニーズ演習 1			
担当教員	前田京子	国際教育推進センター(非常勤)		
単位	2	学期 曜日・時限	後期 月曜 3限	
担当教員の 研究室 電話・e-mail	os190008@oita-u.ac.jp			
授業のねらい	このコースは、江漢大学「3+1」プロる新聞記事を読み解く能力の習得を いて意見を述べる能力の習得も目指す	目指すものであ		
具体的な 到達目標	・経済に関する新聞記事の内容を理解 ・新聞記事の内容を整理し、要点を表 ・新聞記事の内容を正確に分かりやす ることができるようになる。	まとめることが	できるよ う になる。	
授業の内容	1.コースの概要説明 2-4.新聞記事を読む練習 I 内容理解と要約 5-6.新聞記事を読む練習 II 情報の整理、アウトラインの作成 7.情報検索 8.引用と参考文献 9-10.新聞記事を読む練習Ⅲ 意見を述べる 11-14.発表 15.まとめ、振り返り 【学生がより深く学ぶための工夫】 インターネットニュースなどから適切な情報を選択し、調査する。 チームによるディスカッション及びディベートの実施。 発表を録画し、ルーブリックを用いた自己評価、フィードバックを行う。			
時間外学習	日本の様々な社会・経済問題に関心を持ち、新聞等に触れる習慣を身に付けること。			
教科書	経済問題を扱った新聞記事、ハンドアウト			
参考書	日本語辞書など(その他授業で提示)			
成績評価の方法 及び評価割合	授業態度·宿題(15%)、聴解(10%)、読解作文(15%)発表(15%)、期末試験 (45%)			
備考・注意事項	本コースは上記以外の留学生も受講す	可能とする。		

授業科目名	ビジネスジャパニーズ演習 2			
担当教員	前田京子	所属部局	国際教育推進センター(非常勤)	
単位	2	学期 曜日・時限	後期 火曜 2限	
担当教員の 研究室 電話・e-mail	os190008@oita-u.ac.jp			
授業のねらい	このコースは、江漢大学「3+1」プロで、ビジネス場面に必要な会話能力る。	やライティング	が能力の習得を目指すものであ	
具体的な 到達目標	・自己について客観的に分析し、丁雪 ・ビジネス場面における会話能力を同 付ける。 ・日本人の就職事情や仕事に関するま	中心に、ライテ	ィング能力、マナーなども身に	
授業の内容	 1.コースの概要説明 2.日本の就職事情 3.日本人の仕事観 4-7.調査の準備			
時間外学習	自己の性格や歴史について振り返り、自己アピール力を身に付ける。また、日本の 大学生の就職活動や仕事への考え方などにも関心を持つ。さらに、改まった場面で のコミュニケーションスキルを身に付け、積極的に実践する。			
教科書	ハンドアウト			
参考書	日本語辞書など(その他授業で提示)			
成績評価の方法 及び評価割合	授業態度 (10%)、課題 (20%)、プレゼンテーション (25%)、期末レポート (45%)			
備考・注意事項	本コースは上記以外の留学生も受講す	可能とする。		

授業科目名	マンガ研究			
担当教員	長池一美	所属部局	国際教育推進センター	
単位	2	学期・曜日・時限	後期:水(3限)	
担当教員の 研究室 電話・e-mail	教養教育棟 3 階 3-4 番 097-554-7953 nagaike@oita-u.ac.jp			
授業のねらい	マンガ、アニメなどいわゆる日本のポピュラー・カルチャーに触れることによって、日本へ興味を持った留学生は多い。「ポピュラー」という単語はしばしば「Low=ロウ」(質の低い)というように解釈されたが、ポピュラー・カルチャーは社会・文化を分析する上で欠かすことのできない研究分野として注目されてきている。このコースでは日本のポピュラー・カルチャー(特にマンガ)がどのように現代日本社会の特徴と問題を扱っているかについて考察する。そのうえで、日本社会、ならびに海外における日本のポピュラー・カルチャーの受容について議論する。			
具体的な 到達目標	 ポピュラー・カルチャーを通して日本社会の在り方に精通する。 マンガのグローバル化を通して文化を比較する視点を養う。 マンガ研究を通して基本的な理論の枠組みに精通する。 			
授業の内容	1) コースの概要について、ポピュラー・カルチャーとは? 2) ソフトパワー研究 3)-5)マンガの「描き方」分析 6) 少年マンガ研究 7) 少女マンガ研究 8) レディース・コミックス研究 9) BL 研究 10) マンガとデータベース消費論 11) マンガと規制問題 12) マンガと人種問題 13) ゆりマンガ研究 14) マンガとグローバライゼーション 15) 復習 【学生がより深く学べるための工夫】 この授業はレクチャー、(グループ) ディスカッション、プロジェクト準備・発表を中心として構成される。			
時間外学習	指定された文献を事前に熟読し、主題や論点について、要約を行っておくこと。課題や自主研究に週4時間取り組む必要がある。			
教科書	特に指定しない。			
参考書	第一回授業で配布。			
成績評価の方法 及び評価割合	授業への積極的な参加 20% プロジェクト 30% 期末試験 50%			
備考	この授業の使用言語は主に 発表の言語は英語ですが、		説明があります。プロジェクト 日本語が選べます。	

授業科目名	日本文法とディスコース				
担当教員	南里 敬三	所属部局	国際教育推進センター		
単位	2	学期 曜日・時限	後期 金曜 3限		
担当教員の 研究室 電話・e-mail	教養教育棟 3 階 5 番 097-554-7635 keizo-nanri@oita-u.ac.jp				
授業のねらい	英語を話す初級日本語学習者が学ぶるで)の用法を理解する。主題提示を行 群の構成法を理解する。日本語のテク から理解する。	テう「は」の機	能を理解する。日本語の動詞		
具体的な 到達目標	英語を母語とする初級日本語学習者に格助詞の使い方の説明ができるようになる。長い動詞群の構成(例えば「たべされられてしまっているのかもしれない」)がどうしてそのような構成になっているのが説明できるようになる。 「は」の基本的機能が理解でき、「は」を巡る文章構成の指導ができるようになる。				
授業の内容	第1回:オリエンテーション 第2回:日本語品詞 第3-7回:日本語における経験機能:格助詞と構文 1 第8回:プレゼンテーション1 第9回:日本語における経験機能:格助詞と構文 2 第10-12回:対人機能と動詞群の構造 第13-14回:「は」の機能と文章構造、文化 第15回:プレゼンテーション2 【学生がより深く学べるための工夫】 授業はグループディスカッションの形をとる。授業では日本の国語の授業では問題にされることのないテーマを考え、分析力を身に着けていく。それがひいては留学生への文法説明能力の養成に繋がっていく。コース参加者は品詞の性質から徐々に日本語の文構造を学んでいき、最終的には文化とは何かという問題へと導かれていく。				
時間外学習	予習1 時間、復習2 時間が必要。				
教科書	プリントを授業で配布する。				
参考書	授業中に参考文献のリストを配布する	3.			
成績評価の方法 及び評価割合	小さい課題 (5点×10回)、プレゼンテーション 1 (20点)、プレゼンテーション 2 (30点)				
備考・注意事項	この科目は本学正規生が留学生と一緒に学ぶ授業である。 <u>グループディスカッションへの参加は必須</u> 。授業は日本語と英語で行われる。				

授業科目名	ソーシャルネットワークと大分からの発信 II			
担当教員	南里 敬三	所属部局	国際教育推進センター	
単位	2	学期 曜日・時限	後期 火曜 3限	
担当教員の 研究室 電話・e-mail	教養教育棟 3 階 5 番 097·	-554-7635 keiz	zo-nanri@oita-u.ac.jp	
授業のねらい	この科目は国東と由布院の魅力をブローネット上における効果的な情報発信と同時にグループワークができる人材	言力を身に付け	ることを目的とするが、それ	
具体的な 到達目標	具体的なコースの目的は次の通り。(1)ネチケットを学び、守る。(2)ブログ記事・ホームページ記事の特徴を知る。(3)国東と由布院の特徴を知る。 (4)里山と過疎の関係を知る。授業はグループワークを基本として進めてい く。			
授業の内容	第1回:オリンテートの基本に対して、第2回:インターの基本に対して、中間識 第4回:インターの基とこれで、中間では、一点の基とに対して、一点の基とに対して、一点の基とに対して、一点の基とに対して、一点の基とに対して、一点の表には対して、一点のでは、	、ブログの立てで、 ブログをというである。 ア定 : 授業2回分 みる。 授業2回分 。 のまでは、 といいものでは、 といいものでは、 といいものでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	で方、授業まとめ 2 3 3 3 3 3 3 3 3 5 6 7 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8	
時間外学習	予習1 時間、復習2 時間が必要。参考文献は授業で使用しているブログに掲載する。研修旅行1回は2回分の授業に相当。			
教科書	プリントを授業で配布する。			
参考書	ブログに掲載する。			
成績評価の方法 及び評価割合	授業のまとめ(10 点)、フィールドワーク(研修旅行)(第一回10点、第二回15点)、ブログ作成・発表(20点)、ホームページ作成・発表(20点)。最終報告書(25 点)。ブログとホームページ作成はグループワーク。70%以上の出席がない場合は不合格とし、フィールドワークと最終報告書の点数を合計点から除外する。無断欠席一回につき2点減点。			
備考・注意事項	この科目は本学正規生が留学生と一系 ョンへの参加は必須。	楮に学ぶ授業で	ある。 <u>グループディスカッシ</u>	

授業科目名	サステナビリティ大分			
担当教員	ブルカート香織	所属部局	国際教育推進センター	
単位	2	学期 曜日・時限	後期 木曜4限	
担当教員の 研究室 電話・e-mail	教養教育棟 3階 3番	097-541-6171	kburkart@oita-u.ac.jp	
授業のねらい	このクラスの主な目的は、主に環境間大分の環境や人間社会の持続可能なあるために不可欠な知識を身近なテーラ。グローカルな視点で、持続可能なる Critical Thinking Skills を培う。	発展について考 マから積み上げ	える。持続可能な未来を創造す 、学生自身の価値観をと向き合	
具体的な 到達目標	より深い知識を構築するため地方都市が抱える問題がいか異なる文化と多様な考え方に	に国際的問題で	でありうるかを知る。	
授業の内容	第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第	SDGs#17 と 環境破壊 さい大 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	は 対策課 映画視聴 ション予備または研修見学) ティビティ(ロールプレイ、デック)を通して Critical Thinking 、スケジュールが前後する場合	
時間外学習	2回オンラインディスカッションを設ける。インタビュー、フィールドワークや研修・見学に参加するなどの時間外学習も重要な一部とみなす。			
教科書	教材・資料は担当教員が配布する。			
参考書	参考資料は随時クラスのウェブサイ	ト Moodle に掲	載する。	
成績評価の方法 及び評価割合	オンラインディスカッション 20% プレゼンテーション 40% 期末レポート 40%			
備考・注意事項	このクラスは本学正規学生と留学生とが一行われる。 <u>オンラインディスカッション、</u> で作成しても良いが、授業中のディスカッ	期末レポートは英	語もしくは日本語のいずれかの言語	

授業科目名	認知言語学から見た日英対照分析				
担当教員	橋本 美喜男	所属部局	教育学部		
単位	2	学期 曜日・時限	後学期 木曜 4 限		
担当教員の 研究室 電話・e-mail	教育学部 B 棟 5 階 097	7-554-7578	mikioha@		
授業のねらい	本コースのねらいは、認知言語学の観点を記述している。 おな言語なのか、英語とはどんな言語				
具体的な 到達目標	例えば、英語と日本語では視点の取り 現をする(「ここはどこですか」 WI 本語の表現能力を高めることを目標の	nere am I?)こ			
授業の内容	第1回 第2回 本語 で と ステ の の か で と ステ の い か で と ステ の い か で と ス	レ ハ シグ 司 司と不規則動詞			
時間外学習	毎回の講義で課す課題に取り組む。				
教科書	プリントを配布する。				
参考書	特に指定しない。				
成績評価の方法 及び評価割合	毎回の授業の課題 50% 最終レポート 50%				
備考・注意事項					

	Language and	l Japanese	Studies	Courses f	or Internati	ional
Students						

Course Title	Japanese I: Grammar				
Lastinan	DUDKADT Kasii I	Caaulto (Global Education and Intercultural		
Lecturer	BURKART, Kaori I.	Faculty	Advancement Center		
Cradit	2	Timetable	Spring: Tuesdays 1 st Period		
Credit	Siedit 2 Timetable	Timetable	Fall: Tuesdays 2 nd Period		
Lecturer's Office	Kyoyo Bldg., 3 rd Floor Office No	0. 3-3 097-554	4-6171 kburkart@oita-u.ac.jp		
Aims	Acquisition of basic Japanese gramn	mar and langua	ge functions.		
	At the end of the course, students wi	ill be able to			
Learning	Read and write Kana charac	ters including b	oth Hiragana and Katakana;		
Outcomes	2. Understand the basic Japane	ese grammar a	nd language functions and use them		
	when expressing requests, p	references, rea	asons, and wishes.		
	Week 1: Introduction to the course (H	Hiragana & bas	ic greetings)		
	Week 2: Lesson 1 (Vocabulary/Gram	nmar) & Introdu	ction to Katakana		
	Week 3: Lesson 2				
	Week 4: Lesson 3				
	Week 5: Lesson 4				
	Week 6: Lesson 5				
	Week 7: Lesson 6				
	Week 8: Mid-term Exam				
	Week 9: Lesson 7				
Content	Week 10: Lesson 8				
	Week 11: Lesson 9				
	Week 12: Lesson 10				
	Week 13: Lesson 11				
	Week 14: Lesson 12				
	Week 15: Semester Review				
	(Specific modes of teaching to enhance student learning)				
	Learner-centered hands-on activities	are employed	to enhance basic Japanese language		
	acquisition. Satisfactory completion	of weekly home	ework and quizzes are required.		
	Weekly lecture notes and handouts a	are provided on	the class website.		
Recommendation	Students are expected to spend at le	east 3 hours of	self-study time each week. It is every		
for Private Study	student's responsibility to complete a	all homework ar	nd to prepare for quizzes and exams.		
Textbooks	Genki I: An Introduction to Elementary Japanese (3rd ed.). The Japan Times.				
TEXIDOOKS	ISBN: 978-4789017305				
References	A dictionary of basic Japanese gram	mar (The Japa	n Times)		
References	Japanese-English Learner's Dictiona	ary (Kenkyusha)		
Assessment Criteria	Weekly homework and quiz (30%), N	Mid-term exam	(30%), and Final exam (40%)		
Supplementary	Students are required to attend more than 70% of the classes to be eligible to take the final				
Information	examination.				

Course Title	Japanese I: Conversation			
	DUDICA DT. IC.	- ·	Global Education and Intercultural	
Lecturer	BURKART, Kaori I.	Faculty	Advancement Center	
0	0	Timentalele	Spring : Wednesdays 2 nd Period	
Credit	2	Timetable	Fall : Wednesdays 1st Period	
Lecturer's Office	Kyoyo Bldg., 3 rd Floor Office No	0. 3-3 097-54	l1-6171 kburkart@oita-u.ac.jp	
Aims	Acquisition of basic Japanese oral co	ommunication s	skills	
	At the end of the course, students wi	ll be able to:		
Learning	Carry on basic conversations	s in several situ	ations	
Outcomes	Express requests, preference	es, reasons, an	d wishes using basic vocabulary and	
	Japanese language functions	3		
	Week 1: Introduction to the course &	greetings		
	Week 2: Lesson 1			
	Week 3: Lesson 2			
	Week 4: Lesson 3			
	Week 5: Lesson 4			
	Week 6: Lesson 5			
	Week 7: Lesson 6			
	Week 8: Mid-term Examination			
	Week 9: Lesson 7			
Content	Week 10: Lesson 8			
	Week 11: Lesson 9			
	Week 12: Lesson 10			
	Week 13: Lesson 11			
	Week 14: Lesson 12			
	Week 15: Semester Review			
	(Specific modes of teaching to enhance student learning)			
	Learner-centered hands-on activities	based on real-	-life situations are used to enhance	
	oral communication skills. Satisfacto	ry completion o	of weekly homework is required.	
	Weekly lecture notes and handouts a	are provided on	the class website.	
Recommendation	Students are expected to spend at le	east 3 hours of	self-study time each week. It is every	
for Private Study	student's responsibility to complete a	all homework ar	nd to prepare for quizzes and exams.	
Textbooks	Genki I: An Introduction to Elementary Japanese (3rd ed.). The Japan Times.			
TEXIDOOKS	ISBN: 978-4789017305			
References	A dictionary of basic Japanese gram	mar (The Japai	n Times)	
References	Japanese-English Learner's Dictiona	ary (Kenkyusha)	
Assessment Criteria	Weekly homework and quiz (30%), N	∕lid-term exam	(30%), and Final exam (40%)	
Supplementary	Students are required to attend more	than 70% of th	e classes to be eligible to take the final	
Information	examination.			

Course Title	Japanese I: Integrated Activities				
1 (DUDICA DT. 16	F 11	Global Education and Intercultural		
Lecturer	cturer BURKART, Kaori I. Faculty	Faculty	Advancement Center		
0 - 11			Spring & Fall Semesters		
Credit	2	Timetable	Thursdays 2 nd Period		
Lecturer's Office	Kyoyo Bldg., 3 rd Floor Office No	0. 3-3 097-	.541-6171 kburkart@oita-u.ac.jp		
Aims	Acquisition of basic Japanese langua	age skills throu	gh comprehensive learning activities		
	At the end of the course, students wi	ll be able to			
Learning	Grasp basic Japanese gramı	mar and langua	age functions		
Outcomes	2. Express requests, preference	es, reasons, an	d wishes by using vocabulary typical		
	in daily life				
	Week 1: Introduction to the course (g	reetings and k	ana review)		
	Week 2: Lesson 1 Comprehensive le	earner-centered	I tasks and activities review practice		
	Week 3: Lesson 2				
	Week 4: Lesson 3				
	Week 5: Lesson 4				
	Week 6: Lesson 5				
	Week 7: Lesson 6				
	Week 8: Mid-term Examination				
	Week 9: Lesson 7				
Content	Week 10: Lesson 8				
	Week 11: Lesson 9				
	Week 12: Lesson 10				
	Week 13: Lesson 11				
	Week 14: Lesson 12				
	Week 15: Semester Review				
	(Specific modes of teaching to enhance student learning)				
	Learner-centered learning activities to	oased on real-li	fe situations are used to enhance		
	overall language skills. Satisfactory of	completion of w	reekly homework is required. Weekly		
	lecture notes and handouts are provi	ided on the clas	ss website.		
Recommendation	Students are expected to spend at le	east 3 hours of	self-study time each week. It is every		
for Private Study	student's responsibility to complete a	all homework ar	nd to prepare for quizzes and exams.		
Textbooks	Genki I: An Introduction to Elementary Japanese (3rd ed.). The Japan Times.				
TCXLDOOKS	ISBN: 978-4789017305				
References	A dictionary of basic Japanese gram	mar (The Japai	n Times)		
references	Japanese-English Learner's Dictiona	ary (Kenkyusha)		
Assessment Criteria	Weekly homework and quiz (30%), N	/lid-term exam	(30%), and Final exam (40%)		
Supplementary	Students are required to attend more	than 70% of th	e classes to be eligible to take the final		
Information	examination.				

Course Title	Japanese 1 Reading			
Lecturer	NAGAIKE, Kazumi	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center	
Credit	2	Timetable	Spring & Fall Semesters Mondays, 4 th period	
Lecturer's Office	Arts (Kyoyo) Bldg., 3rd	d Floor Office	No. 3-4 097-554-7953 nagaike@oita-u.ac.jp	
Aims	It aims at helping learr	ners read and w	write the complete range of basic kanji characters.	
Learning Outcomes		•	akana and 145 Kanji. They will be able to write and sting of the weekly assigned-kanji.	
Content	Week 1: Introduction of Hiragana (practice) and greetings. Week 2: Introduction of Katakana (practice) and Lesson 1 (vocabulary/Grammar). Week 3: Lesson 2 (vocabulary/Grammar). Week 4: Lesson 3 (vocabulary/Grammar). Week 5: Lesson 4 (vocabulary/Grammar). Week 6: Lesson 5 (vocabulary/Grammar). Week 7: Lesson 6 (vocabulary/Grammar). Week 8: Lesson 7 (vocabulary/Grammar). Week 9: Lesson 8 (vocabulary/Grammar). Week 10: Revision of Lessons 1-8 (vocabulary/Grammar). Week 11: Lesson 9 (vocabulary/Grammar). Week 12: Lesson 10 (vocabulary/Grammar). Week 13: Lesson 11 (vocabulary/Grammar). Week 14: Lesson 12 (vocabulary/Grammar). Week 15: Revision of all lessons (vocabulary/Grammar). (Specific modes of teaching to enhance students' learning) Weekly assignments and tests are given to assist students to acquire Kanji.			
Recommendation for Private Study	Revision of the weekly-introduced Kanji is very important. Practice reading and writing the Kanji daily until you feel confident.			
Textbooks	An Introduction to Elementary Japanese (Genki I); Third Edition; The Japan Times. (The Second Edition of the Book should not be acceptable.)			
References	A dictionary of basic Japanese grammar, The Japan Times. Japanese-English Learner's Dictionary, Kenkyusha.			
Assessment Criteria	Weekly Tests 40%; Weekly Assignments 20%; Final Examination 40%. It is a requirement that a student should attend more than 70 % of the class time to be eligible for the final examination.			
Supplementary Information	Attendance of ALL clas	ance of ALL classes is essential for a successful course outcome.		

Course Title	Japanese 2 Grammar		
Lecturer	NANRI, Keizo	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center
Credit	2	Timetable	Semester1, Tuesdays 2 st Period Semester 2, Tuesdays 1 nd Period
Lecturer's Office	Kyoyo Bldg., 3rd Floor Offic	ce No. 5 097-55	54-7635 keizo-nanri@oita-u.ac.jp
Aims	By the end of the semester, students are expected to be able to report past events in chronologically well-organised texts in short forms, to make comments on events by employing basic modal expressions, and to pay respect addressees by employing <i>keigo</i>		
Learning Outcomes	Specifically, students are expected to be able to accurately explain the temporal relation between events, to present future plans and expectations by employing volitional forms and the like, to report events caused by someone, and to properly speak to someone based on the social relationship between him/her and his/her addressee.		
Content	Weeks 1-2: Review of <i>te</i> -forms, short forms, (Students' understanding of the content of the class is monitored by weekly quizzes and assignments as well as the instructor's observation of students' performance in the class.) Week 2: With potential forms, tell us about what you can do and cannot do. Week 3: With expressions of giving-receiving, tell us about your experience of exchanging presents with friends and family members. Week 4: Give extra information to things you are talking about with embedded clauses. Weeks 5-6: With giving-receiving verbs, tell us what other people have done for you and what you have done for them. Weeks 6-7: With hear-say expressions, report what you've heard. With <i>tara</i> , <i>maeni</i> , <i>tekara</i> , give us accurate accounts of past events. Weeks 8-9: Review. Week 10: Brush up your grammatical accuracy by understanding the difference between transitive and intransitive verbs. Weeks 11-12: Learn <i>keigo</i> (i.e., honorific, extra-modest expressions, and humble expressions) so that you can speak to your addressee properly, according to the social relation between you and your address. Week 13: Tell us about your awful experience by using indirect passive expressions. Week 14-15: Report events caused by someone. (Specific modes of teaching to enhance students' learning) The class is conducted in such a way that grammatical explanation is followed by patte		
Recommendation	Students are expected to spend two hours for reviewing after the class	hours for prepa	aration for the class and another two
for Private Study			
Textbooks	Genki II: An Integrated Course in E		·
References	A Dictionary of Basic Japanese Grar A Dictionary of Intermediate Japanes	•	
Assessment Criteria	Vocabulary and Listening Quizzes 10%, Essays 1 & 2 10%, Mid-Term Reading & Writing Exam 15%, Conversation Tests1 (10%) & 2 (20%), Final Exam 25%. An Exploration of Oita 10%.		
Supplementary Information	Students are required to attend more final examination. This subject is required activities.		he classes to be eligible to sit for the anese 2 Conversation and Japanese 2

Course Title	Japanese 2 Conversation		
Lagturar	NANDI Koizo	Faculty	Global Education and Intercultural
Lecturer	NANRI, Keizo	racuity	Advancement Center
Credit	2	Timetable	Semester 1, Wednesdays 1st Period
Credit	2	Timetable	Semester 2, Wednesdays 2 nd Period
Lecturer's Office	Kyoyo Bldg., 3rd Floor Office	No. 5 097-554	-7635 keizo-nanri@oita-u.ac.jp
Aims	By the end of the semester, students chronologically well-organised texts employing basic modal expressions,	in short forms,	
Learning	Specifically, students are expected to		
Outcomes	least 8 minutes in a dialogic situation schedule, distressing experience, gif		ceiving occasions, and my personality
	and performance. They will also be a	able to use <i>keig</i>	10.
Content	Weeks 1-2: Review of <i>te</i> -forms, short forms, (Students' understanding of the content of the class is monitored by weekly quizzes and assignments as well as the instructor's observation of students' performance in the class.) Week 2: With potential forms, tell us about what you can do and cannot do. Week 3: With expressions of giving-receiving, tell us about your experience of exchanging presents with friends and family members. Week 4: Give extra information to things you are talking about with embedded clauses. Weeks 5-6: With giving-receiving verbs, tell us what other people have done for you and what you have done for them. Weeks 6-7: With hear-say expressions, report what you've heard. With <i>tara</i> , <i>maeni</i> , <i>tekara</i> , give us accurate accounts of past events. Weeks 8-9: Review. Week 10: Brush up your grammatical accuracy by understanding the difference between transitive and intransitive verbs. Weeks 11-12: Learn <i>keigo</i> (i.e., honorific, extra-modest expressions, and humble expressions) so that you can speak to your addressee properly, according to the social relation between you and your address. Week 13: Tell us about your awful experience by using indirect passive expressions. Week 14-15: Report events caused by someone. (Specific modes of teaching to enhance students' learning) The class is conducted in such a way that grammatical explanation is followed by pattern practice and then by a product-oriented activity to consolidate the linguistic knowledge		
Recommendation for Private Study	Students are expected to spend two hours for preparation for the class and another two hours for reviewing after the class.		
Textbooks	Genki II: An Integrated Course in E	Elementary Jap	anese, The Japan Times
References	A Dictionary of Basic Japanese Gran A Dictionary of Intermediate Japanes		
Assessment Criteria	Vocabulary and Listening Quizzes 10%, Essays 1 & 2 10%, Mid-Term Reading & Writing Exam 15%, Conversation Tests1 (10%) & 2 (20%), Final Exam 25%. An Exploration of Oita 10%.		
Supplementary Information	Students are required to attend more than 70% of the classes to be eligible to sit for the final examination. This subject is requisite with Japanese 2 Conversation and Japanese 2 Integrated Activities.		

Course Title	Japanese 2 Integrated Activities		
Lecturer	NANRI, Keizo	Faculty	Global Education and Intercultural
Lecturer	TWWW, NOIZO	. dealty	Advancement Center
Credit	2	Timetable	Semester 1, Fridays 2 nd Period
- Crodit	_	Timotable	Semester 2, Fridays 2 nd Period
Lecturer's Office	Kyoyo Bldg., 3rd Floor Office	No. 5 097-554	-7635 keizo-nanri@oita-u.ac.jp
Aims	By the end of the semester, students are expected to be able to report past events in chronologically well-organised texts in short forms, to make comments on events by employing basic modal expressions, and to pay respect addressees by employing <i>keigo</i> .		
Learning Outcomes	whose topics are: weekly schedule, occasions, and my personality and p	distressing expoerformance. Th	ney will also be able to write an essay
Content	on 'me in 10 year's times' that is 600-ji long in Japanese without using dictionaries. Weeks 1-2: Review of te-forms, short forms, (Students' understanding of the content of the class is monitored by weekly quizzes and assignments as well as the instructor's observation of students' performance in the class.) Week 2: With potential forms, tell us about what you can do and cannot do. Week 3: With expressions of giving-receiving, tell us about your experience of exchanging presents with friends and family members. Week 4: Give extra information to things you are talking about with embedded clauses. Weeks 5-6: With giving-receiving verbs, tell us what other people have done for you and what you have done for them. Weeks 6-7: With hear-say expressions, report what you've heard. With tara, maeni, tekara, give us accurate accounts of past events. Weeks 8-9: Review. Week 10: Brush up your grammatical accuracy by understanding the difference between transitive and intransitive verbs. Weeks 11-12: Learn keigo (i.e., honorific, extra-modest expressions, and humble expressions) so that you can speak to your addressee properly, according to the social relation between you and your address. Week 13: Tell us about your awful experience by using indirect passive expressions. Week 14-15: Report events caused by someone. (Specific modes of teaching to enhance students' learning) The class is conducted in such a way that grammatical explanation is followed by pattern practice and then by a product-oriented activity to consolidate the linguistic knowledge		
Recommendation for Private Study	Students are expected to spend two hours for preparation for the class and another two hours for reviewing after the class.		
Textbooks	Genki II: An Integrated Course in E	Elementary Japa	anese, The Japan Times
References	A Dictionary of Basic Japanese Grammar, The Japan Times A Dictionary of Intermediate Japanese Grammar, The Japan Times		
Assessment Criteria	Vocabulary and Listening Quizzes 10%, Essays 1 & 2 10%, Mid-Term Reading & Writing Exam 15%, Conversation Tests1 (10%) & 2 (20%), Final Exam 25%. An Exploration of Oita 10%.		
Supplementary Information	Students are required to attend more than 70% of the classes to be eligible to sit for the final examination. This subject is requisite with Japanese 2 Conversation and Japanese 2 Integrated Activities.		

Course Title	Japanese 2 Reading			
	MAEDA K		Global Education and Intercultural	
Lecturer	MAEDA, Kyoko	Faculty	Advancement Center	
			Semester: Spring / Fall	
Credit	2	Timetable	Day of the Week: Mondays	
			Period: 1	
Lecturer's Office	os190008@oita-u.ac.jp			
A	This course aims to enable students who have completed the second-level u			
Aims	elementary Japanese to acquire new	words, expres	ssions, and kanji written characters.	
	To read and write the basic 300 Ka	anji		
Learning	To learn words utilizing the basic k	Kanji		
Outcomes	To read short essays (in the textbo	ook)		
	To write paragraphs			
	1. Orientation & Review (1)			
	2. Review (2)			
	3. Interesting Experiences in Japan ((1)		
	4. Interesting Experiences in Japan ((2)		
	5. Personal Advice Column			
	6. My Favorite Place			
	7. The Manga <i>Doraemon</i>			
	8. Mid-term Exam			
	9. Yoko Ono			
Content	10. College Life			
	11. Letters and E-mails			
	12. A Cat's Plate			
	13. Unlucky Ages			
	14. Tomomi's Diary			
	15. What Does This Face Mean?			
	16. Final Exam			
	(Specific modes of teaching to enha	nce students' le	earning)	
	Students are required to take a Kanji	i quiz each wee	ek. This will enhance students' ability to	
	use their newly acquired written and	oral vocabulary	y .	
Recommendation	At least four hours of private study p	er week, for pr	reparation and review, will be required.	
for Private Study	Students are expected to come to cla	ass fully (at lea	st adequately) prepared.	
Textbooks	Genki II : An Integrated Course in	Elementary Jap	panese, The Japan Times	
References	New Japanese-English Character Di	<i>ictionary</i> , Kenky	yusha	
References	A Dictionary of Basic Japanese Grar	mmar, The Japa	an Times	
Assessment	Participation (10%), Homework (20	%), Quiz (10%	b), Mid-term and Final Exams (60%).	
Criteria	Students must attend more than 709	% of the class r	meetings to be eligible to take the final	
Ontena	examination.			
Supplementary	Attendance of ALL classes is essenti	ial for a succes	sful course outcome.	
Information	This course syllabus is subject to cha	ange.		

Course Title	Japanese 3 Grammar			
Lecturer	SAKAI, Mieko	Faculty	GAIA	
Credit	2	Timetable	Spring: Thursdays 2 nd period Fall: Tuesdays 2 nd period	
Lecturer's Office	Kyoyo Bldg., 3 rd floor Office No.3-	7 097-554	1-7516 msakai@oita-u.ac.jp	
Aims	The first semester of Intermediate Spoken Japanese course. The course aims to review and reinforce previous knowledge of Japanese and systematically develop the patterns of expression and vocabulary needed in various situations common in daily life.			
Learning Outcomes	 Students learn the patterns of expression and vocabulary needed in various situations of daily life. Students enable to apply the grammar and the sentence patterns they learned appropriately in reality. Students enable to speak accurately in order to carry out daily conversation. Students enable to improve their listening comprehension and grasp the contents on various topics. 			
Content	 Introducing friends and family Memories of a childhood Character Description of circumstance Introducing home country Providing advice Travel Life-change Comparison of national character Impression of Japan Future Plan 30 years later Food and health Stress release Words of young people Specific modes of teaching to enhance students' learning Various activities such as pair work, role play, and so on are designed for students to acquire 			
Recommendation		•	week on homework, practice listening and	
for Private Study	speaking, and memorize and review	v of vocabular	ry and grammatical patterns.	
Textbooks	J Bridge to Intermediate Japanese, Bonjinsha			
References	Recommended: A Dictionary of Inte	ermediate Japa	anese Grammar, The Japan Times	
Assessment Criteria	Lesson tests 30%, final exam 30%, vocabulary quizzes 15%, homework, class performance, and etc. 25%. It is required that a student attend more than 70% of the class time to be eligible to sit the final examination.			
Supplementary Information			ner students must pass a placement test in rersation are co-requisites.	

Course Title	Japanese 3 Conversation			
Lecturer	SAKAI, Mieko	Faculty	GAIA	
Credit	2	Timetable	Spring: Wednesdays 2 nd period Fall: Wednesdays 1 st period	
Lecturer's Office	Kyoyo Bldg., 3 rd floor Office No.3-7	097-554-7	516 msakai@oita-u.ac.jp	
Aims	The first semester of Intermediate Spoken Japanese course. The course aims to review and reinforce previous knowledge of Japanese and systematically develop the patterns of expression and vocabulary needed in various situations common in daily life.			
Learning Outcomes	of daily life. 2. Students enable to apply the gra appropriately in reality. 3. Students enable to speak accura	mmar and the sately in order to		
Content	 Introducing friends and family Memories of a childhood Character Description of circumstance Introducing home country Providing advice Travel Life-change Comparison of national characte Impression of Japan Future Plan 30 years later Food and health Stress release Words of young people Specific modes of teaching to enh. Various activities such as pair work acquire communicative competence 	ance students' s, role play, an	learning] d so on are designed for students to	
Recommendation	·	·	week on homework, practice listening	
for Private Study	and speaking, and memorize and re		lary and grammatical patterns.	
Textbooks	J Bridge to Intermediate Japanese, E	Bonjinsha		
References	Recommended: A Dictionary of Inter	mediate Japan	ese Grammar, The Japan Times	
Assessment Criteria	final examination.	etc. 25%. ore than 70% o	of the class time to be eligible to sit the	
Supplementary Information			r students must pass a placement test rersation are co-requisites.	

Course Title	Japanese 3 Reading II			
Lecturer	MAEDA, Kyoko	Faculty	Global Education and Intercultural	
Lecturer	WALDA, NYOKO	raddity	Advancement Center	
			Semester: Spring	
Credit	2	Timetable	Day of the Week: Tuesdays	
			Period: 1	
Lecturer's Office	os190008@oita-u.ac.jp			
Aims	Read short sentences at the first inte	ermediate level	about Japan and understand them.	
	1. Understand the structure of sentences.			
Learning	2. Learn a coping method for dealing	g with unknown	vocabulary and Kanji.	
Outcomes	3. Identify necessary information in s	entences quick	kly.	
Gutoomes	4. Learn the effective usage of conju	nctions and ad	verbs.	
	5. Learn about Japanese consciousr	ness and cultur	e.	
	1. Guidance			
	2. My family			
	3. Language			
	4. My strange story			
	5. Japanese Ghost Story I			
	6. Japanese Ghost Story II			
	7. Rakugo			
	8. Mid-term Exam			
Content	9. Hero			
	10. Railway enthusiasts			
	11. Otaku			
	12. Image of Japan			
	13. Famous places in Japan			
	14. Japanese culture			
	15. Review			
	16. Final Exam	aca atudanta' la	arning)	
	(Specific modes of teaching to enharm Time for pair-work and short present		•	
Recommendation	Review after every class.	alion will be all	otted in class.	
for Private Study	Preparation for presentation.			
Textbooks	Handouts will be distributed every cla	200		
References	References will be given as needed.			
Assessment	-		hort Quiz (10%), Presentation (10%),	
Criteria	Exams (55%)	aono (1070), O	Qaiz (1070), 1 100011tation (1070),	
2	, ,	e level studen	ts who have successfully completed	
			ency level in Japanese is 3 according to	
Supplementary	•	·	pe conducted in Japanese. It is required	
Information	·		class time to be eligible to take the final	
	examination.		-	

Course Title	Japanese 3 Writing II			
Lecturer	MAEDA, Kyoko	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center	
Credit	2	Timetable	Semester: Spring Day of the Week: Fridays Period: 1	
Lecturer's Office	os190008@oita-u.ac.jp			
Aims	This course is designed to develop version familiar topics using first intermediate	•	writing 600~700 word-letter essays on aries, expressions, and grammars.	
Learning Outcomes	 Be able to write Japanese compositions using clear, developed paragraphs. Understand sentence construction and write sentences that uses conjunctions and adverbs effectively. Understand how to use traditional Japanese manuscript paper properly. 			
Content	 Guidance Ask a person's permission Express one's gratitude Refuse a request Advertise a commodity Self-introduction Review Mid-term Exam Convey an event information Express an emotion Give someone advice Give someone advice Review Foresee the future Comparison of Past and Present Review Final Exam Specific modes of teaching to enhant Time for pair-work and short present 	nce students' le	5 ,	
Recommendation	Review after every class.	<u> </u>	ottod III diddol	
for Private Study	Preparation for presentation.			
Textbooks	Handouts will be distributed every cla	ass.		
References	References will be given as needed.			
Assessment Criteria	Participation & Homework (10%), Ta	sks (20%), Pre	sentation (15%), Exams (55%)	
Supplementary Information	elementary level courses or students the result of the GAIA placement test.	whose proficie The class will b	ts who have successfully completed ency level in Japanese is 3 according to be conducted in Japanese. It is required class time to be eligible to take the final	

Course Title	Extensive Reading in Japanese			
Lecturer	SAKAI, Mieko	Faculty	GAIA	
Credit	2	Timetable	Spring: Mondays 4 th Period	
Lecturer's Office	Kyoyo Bldg., 3 rd floor Office No.3-7	097-554-7	516 msakai@oita-u.ac.jp	
Aims	This course offers students at intermediate and advanced levels an opportunity to enhance their reading skills as well as developing the pleasure of reading utilizing Extensive Reading method with short stories written for learners of Japanese and authentic materials written for native speakers.			
Learning Outcomes	In this course, the emphasis is put on acquiring the skill to enjoy the contents without translation. Gradually shifting to the materials of higher levels, students will find themselves absorbing the contents without translating each word or sentence into their native language. Through this type of reading, students will develop general language competence, knowledge of vocabulary, prediction skills, as well as writing and speaking			
Content	skills. Students are guided to read as many pages as possible without using dictionaries while the instructor carefully monitors their reading behavior and gives advice and suggestions to improve their reading skills. Week 1 Introduction and orientation Week 2 extensive reading Week 3 oral book report and extensive reading Week 4 oral book report and extensive reading Week 5 oral book report and extensive reading Week 6 oral book report and extensive reading Week 7 oral book report and extensive reading Week 8 writing a story Week 9 oral book report and extensive reading Week 10 oral book report and extensive reading Week 11 oral book report and extensive reading Week 12 oral book report and extensive reading Week 13 preparation for the presentation of book trailer Week 14 presentation [Specific modes of teaching to enhance students' learning] Each students give an oral book report in their group every week followed by the question			
Recommendation for Private Study	and answer session. Students are expected to read books.			
Textbooks	Materials including <i>Nihongo Tadoku Books</i> and <i>Japanese Graded Readers</i> to be provided in class.			
References	"Extensive Reading" (http://extensivereading.net/)			
Assessment Criteria	Number of books (20%), Reading log (20%), Oral book reports (10%), Writing a story (15%), Presentation (25%), Participation and class performance (10%)			
Supplementary Information	Students must pass level 3 or higher	in the placeme	ent test to be admitted to this course.	

Course Title	Japanese 4 Grammar II			
Lecturer	MAEDA, Kyoko	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center	
Credit	2	Timetable	Semester: Spring Day of the Week: Tuesdays Period: 2	
Lecturer's Office	os190008@oita-u.ac.jp			
Aims	This course is designed to improve in	ntermediate-lev	vel grammatical knowledge further.	
Learning Outcomes		of intermediate	-level grammar points and expressions	
Content	and use them accurately. The textbook is the same as that is used in Japanese 4 Grammar I. Lessons7 through 16 will be covered in this course. 1. Guidance, Diagnostic test, etc. 2. Structure of complex sentences 1 3. Noun modification 4. Expressions that form complex sentences 1 5. Expressions that form complex sentences 2 6. Expressions that form complex sentences 3 8. Mid-term Exam 9. Expressions to deny something 10. Conveying subjective information 1 11. Conveying subjective information 1 12. Conveying subjective information 2 13. Adverbs that are used like idioms 14. Adverbs that are used like idioms 15. Conjunctions 16. Final Exam (Specific modes of teaching to enhance students' learning)			
Recommendation		ast 2 hours per	week on homework and reviewing after	
for Private Study	the class.			
Textbooks	"Chuukyuu Nihongo Bumpoo Yooten	Seiri Pointo 20) " (3A-Network)	
References	References will be provided as need	ed.		
Assessment Criteria	Participation, homework (30%), Mid-term exam (30%), Final exam (40%) It is required that a student should attend more than 70% of the class time to be eligible to take the final examination.			
Supplementary Information	This course is for intermediate level students who have successfully completed pre- intermediate level courses or students whose proficiency level in Japanese is 4 according to the result of the GAIA placement test. The class will be conducted in Japanese. Students are required to have a prior knowledge of at least 500 basic kanji.			

Course Title	Japanese 4 Speaking			
Lecturer	SAKAI, Mieko	Faculty	GAIA	
Credit	2	Timetable	Spring: Thursdays 1 st period Fall: Tuesdays 1 st period	
Lecturer's Office	Kyoyo Bldg., 3 rd floor Office No.3-7	097-554-7	′516 msakai@oita-u.ac.jp	
Aims	The second semester course of Intermediate Spoken Japanese. The course aims to develop the speaking and listening ability to communicate in various situations commonly encountered at the university level. In this course, students go to town with group members to gather information by interviewing local people and get a better understanding about Oita and Japan.			
Learning Outcomes	 Students acquire practical communicative competence and will enable to use appropriate expressions and speak accurately and actively on general topics. Students enable to speak in a length of a several paragraphs. Students enable to use both formal and informal styles properly. Improve students' listening comprehension. 			
Content	students to acquire communicative c	their group mer uestionnaire on Japanese stude ne interview h on their topic for the presenta ance students' ance students' c, role-playing, ompetence in J	mbers for the final project. a topic students chose ents or local people	
Recommendation for Private Study	Students are expected to study about 2 hours per week on homework, practice listening, making dialogues, preparing for speeches and a group project, and memorize and review of vocabulary and grammatical patterns.			
Textbooks	Speaking Skills Learned through Listening: Japanese "Live" Intermediate & advanced Level, Kurosio			
References	15 Communication Tips for Becoming a Good Speaker and Listener, ASK Publishing			
Assessment Criteria	Midterm exam 30%, Final exam 15%, presentation 10%, vocabulary quizzes 10%, homework 10%, final project 15%, class performance, etc. 10%.			
Supplementary Information			t pass a placement test to be admitted more than 70% of the class time to be	

Course Title	Japanese 4 Reading II			
Lecturer	NISHIJIMA, Yoriko	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center	
Credit	2	Timetable	Semester: Spring Day of the Week: Fridays Period:2	
Lecturer's Office	Arts (Kyoyo) Bldg, 3 rd Floor Office N	No.3-6 097-55	64-7667 y-nishijima@oita-u.ac.jp	
Aims	Students will develop their understanding of academic texts by reading texts on various topics. Also, through reading activities, they will not only gain knowledge about Japanese society, but also gain the ability to think for yourself on social themes.			
Learning Outcomes	 To be able to read cohesive texts To accurately understand informat To develop thinking ability by taking 	ion and the aut		
Content	1. Orientation / Communication ① 2. Learning ① 3. Work ① 4. Way of life ① 5. Society ① 6. Science ① 7. Learning ② 8. Mid-term exam 9. Communication ② 10. Society ② 11. Way of life ② 12. Environment ① 13. Media ① 14. Science ② 15. Environment ② 16. Final exam (Specific modes of teaching to enhance Students will consider the issues and their own perspective through researce	themes raised i	n the text as their own issues and have	
Recommendation	Students do weekly preparations and	_		
for Private Study	Review new vocabulary to be quizzed			
Textbooks	To be prepared and provided by Lecti			
References	Hanasu/kaku ni tsunagaru! Nihongodokkai Chuukyuu, ALC Hanasu/kaku ni tsunagaru! Nihongodokkai Chuujoukyuu, ALC			
Assessment	Mid-term exam (30%), Final exam (30)%), Assignmer	nt (20%), Word quiz (20%)	
Supplementary Information	aimed at intermediate level students. kanji and have a vocabulary of 3000 v	Students takir words.	ult of a placement test. This course is ng this course should know about 500 than 70% of the class time to be eligible	

Course Title	Japanese 4 Writing II				
Lecturer	NISHIJIMA, Yoriko	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center		
Credit	2	Timetable	Semester: Spring Day of the Week: Wednesdays Period:1		
Lecturer's Office	Arts (Kyoyo) Bldg, 3 rd Floor (Office No.3-6	097-554-7667 y-nishijima@oita-u.ac.jp		
Aims	Students will be able to write appropriate reports according to their purpose (conveying information, expressing opinions, reporting, etc.) and improve the writing skills necessary for their academic life. They learn appropriate expressions and sentence patterns and how to write logical sentences.				
	1.To be able to write sentence	es according to	the situation (academic reports, presentation		
Learning	manuscripts, emails, etc.).				
Outcomes	2. To be able to explain some	somewhat com	plicated ideas and information.		
	3. To be able to write logical re	•	_		
	Orientation / Putting inforr		ences ①		
	2. Putting information into se		_		
	3. Explaining the situation ar	•			
	4. Explaining the situation and give an opinion ②				
	5. Making a paragraph ①				
	6. Making a paragraph ②				
	7. Peer reading ① / Reporting your experience ①				
	8. Reporting your experience ②				
	9. Writing an opinion sentence according to the theme ①				
Content	10. Writing an opinion sentence according to the theme ②				
	11. Writing a sentence that appeals to you				
	12. Basic knowledge for writing reports				
	13. Writing reports in order ①				
	14. Writing reports in order ②				
	15. Peer reading ② / Summary				
	(Specific modes of teaching to enhance students' learning)				
		•	ons and techniques. They will repeat practical		
		_	eir purpose. In addition, through peer reading		
	they will learn writing skills wit	h their classma	ites and improve their writing ability.		
Recommendation	Students write a composition	every week.			
Textbooks	To be prepared and provided by Lecturer.				
References	Daigaku de manabu tameno r		•		
A			nshouhyougen no ruuru, 3A Network		
Assessment	Interim report (30%), Final rep		· ,		
		•	the result of a placement test. This course is ats taking this course should know about 500		
Supplementary	kanji and have a vocabulary o		its taking tills course should know about 500		
Information	It is a requirement that a student should attend more than 70% of the class time to be				
	eligible for the final report.				

Course Title	Japanese 4 Contextual Japanese II			
Lecturer	MAEDA, Kyoko	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center	
Credit	2	Timetable	Semester: Spring Day of the Week: Fridays Period: 3	
Lecturer's Office	os190008@oita-u.ac.jp			
Aims	This course is designed to enhance practical Japanese language skills. It places an emphasis on encouraging students to put their already acquired Japanese skills into practice by using them in various context-specific environments.			
Learning Outcomes	Students will acquire necessary skills learning how to fluently express their		in discussions in Japanese, as well as and analysis in Japanese.	
Content	1. Orientation 2. Learning from media materials 1 3. Learning from media materials 2 4. Learning from media materials 3 5. Learning from media materials 4 6. Learning from media materials 5 7. Learning from media materials 6 8. Learning from media materials 7 9. Learning from media materials 8 10. Independent Project 1 11. Independent Project 2 12. Independent Project 3 13. Independent Project 4 14. Presentation 15. Presentation, comments 16. Final Exam (Specific modes of teaching to enhance Students are required to actively par			
Recommendation		st 2 hours per	week on homework and reviewing after	
for Private Study Textbooks	the class. To be prepared and provided by the	lecturer.		
References	References will be provided as needed.			
Assessment Criteria	Participation (20%), Project (30%), Assignments (20%) Examination (30%)			
Supplementary Information	It is recommended that students who wish to enroll in this course have taken or simultaneously take other level 4 Japanese courses. Students must attend more than 70% of the class meeting to be eligible to take the final examination.			

Course Title	Japanese 5 Speaking			
	MAEDA K. I	Е и	Global Education and Intercultural	
Lecturer	MAEDA, Kyoko	Faculty	Advancement Center	
			Semester: Spring / Fall	
Credit	2	Timetable	Day of the Week: Mondays	
			Period: 2	
Lecturer's Office	os190008@oita-u.ac.jp			
Aims	This course is for advanced learners	. It is designed	to improve speaking skills.	
	Students will be able to do the follow	ring :		
Lagraina	1. To deliver a 3-minute speech com	posed of many	paragraphs.	
Learning	2. To describe and explain complicat	ed matters. etc	s.	
Outcomes	3. To speak appropriately in a polite	manner.		
	4. To accept different thoughts and o	pinions, etc.		
	1 . Guidance			
	2 . Introducing yourself effectively			
	$_3$. How I started to do \sim			
	$\left egin{array}{c} 4 \end{array} ight.$. Talking about your experience of	losing somethi	ng	
	5 . Talking about your home town			
	6 . Explaining the sequence of movement 1			
	7 . Explaining the sequence of movement 2			
	8 . Mid-term Exam			
	9 . Talking about the interesting aspects of your hobby, sports, and the like			
Content	10. Paraphrasing	, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	, op 0.00, and 0.00	
	11. Comparing and contrasting 1			
	12. Comparing and contrasting 2			
	13. Talking about recent incidents			
	14. Talking about health problems			
	15. Talking about your dream			
	16. Final Exam			
	(Specific modes of teaching to enhai	nce students' le	earning)	
	Time for shadowing, pair or group-w		•	
Recommendation			week on homework and reviewing after	
for Private Study	the class.	.o. 2 110010 poi		
Textbooks		3A-Network		
TOALDOONS	Nihongo jookyuu washa e no michi, 3A-Network			
References	References will be provided as need	ed.		
Accoment	Participation, homework (30%) , Mid	d-term exam (3	30%), Final exam ($40%$)	
Assessment	It is required that a student should at	ttend more thar	n 70% of the class time to be eligible to	
Criteria	take the final examination.			
	This course is for students whose pro	oficiency level i	n Japanese is 5 according to the result	
Supplementary	This course is for students whose proficiency level in Japanese is 5 according to the result of the GAIA placement test or students who have successfully completed Japanese 4			
Information	Speaking Course (Grade B or above).			
	Speaking Course (Grade B or above).			

Course Title	Japanese 5 Reading / Writing II			
Lecturer	SAKAI, Mieko	Faculty	GAIA	
Credit	2	Timetable	Spring: Wednesdays 1st Period	
Lecturer's Office	Kyoyo Bldg., 3 rd floor Offic	e No.3-7	097-554-7516 msakai@oita-u.ac.jp	
Aims	This course aims to introduce academic papers and modern Japanese literature in the original, and which are different from the texts provided in Japanese 5 Reading/Writing I, in order to develop a higher level of reading competency. Students will learn the basic skills of academic writing as well.			
Learning Outcomes	 Students read academic reports and papers ranging from 1200 words to 2000 words in length step by step, and learn vocabulary and expressions used in academic fields. Students learn the structures and expressions of academic papers, and enable to grasp the content and get the necessary information quickly. Students read modern Japanese literature and enable to explain the content. Students get insight into Japanese society and how Japanese think. Students learn the structures of paragraphs, and enable to write summaries and opinions. 			
Content	 Reading: read a variety of literary texts, general reports and technical material in academic fields. Structures each week include the followings: written language structures of a paragraph outline and complex sentences theory evolution and sentence structure 1 theory evolution and sentence structure 2 summary Mid-term Writing: structures each week include the followings: learn fundamental way of writing papers learn how to describe situation and express opinions learn how to ompare and contradict learn how to write cohesive summaries Read short novels in the original, and learn vocabulary and expressions. Fiction reading Specific modes of teaching to enhance students' learning Feedbacks of compositions will be given by both a peer and an instructor in order to help students to rewrite compositions. Teach summaries			
Recommendation	•	_	hours per week on such as checking the meaning	
for Private Study	of words, reading texts, and		· .	
Textbooks	-		duate Students 3: Reading Essays, ALC	
References	Japanese for International C	College / Gra	duate Students 4: Writing Essays, ALC	
Assessment Criteria	Mid-term exam 30%, Final eclass performance, etc. 10%		composition 20%, homework 10%,	
Supplementary Information	In order to take this course, students are expected to be at JLPT N1 level. Japanese 5 Reading/Writing I is not a prerequisite. It is required that students attend more than 70% of the class time to be eligible to take the final examination.			

Course Title	Japanese 5 Grammar II				
Lecturer	NISHIJIMA, Yoriko	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center		
Credit	2	Timetable	Semester: Spring Day of the Week: Fridays Period:1		
Lecturer's Office	Arts (Kyoyo) Bldg, 3rd Flo	or Office No.3-	6 097-554-7667 y-nishijima@oita-u.ac.jp		
Aims	Students accurately understand and properly use intermediate and advanced grammar patterns and vocabularies in order to acquire various expressions in daily conversation and in university lectures.				
Learning Outcomes	2. To understand the meaning	ng and usage of	·		
Content	3. To use those similar expressions accurately and precisely. 1. Orientation / Comparison 2. Status 3. Illustrative 4. Emotions 5. Criteria 6. Position 7. End 8. Mid-term exam 9. Possibility / Difficult and Easy 10. Will 11. Judgment 12. Denial 13. Iteration 14. Others 15. Summary 16. Final exam (Specific modes of teaching to enhance students' learning) Students make short sentences using the learned sentence patterns and write them on the board so that they can correct each other. If there is any misuse, they will think about it in				
Recommendation	Students prepare, review an	d submit weekl	y assignments.		
Textbooks	To be prepared and provided	d by Lecturer.			
References	Donna toki tsukau Nihongo hyogen bunkei jiten, ALC Kurabete wakaru Nihongo hyogen bunkei jiten, J-research Ikita reibun de manabu Nihongo hyougen bunkeijiten, ASK				
Assessment	Mid-term exam (40%), Final	exam (40%), A	ssignment (20%)		
Supplementary Information	Mid-term exam (40%), Final exam (40%), Assignment (20%) Permission to attend this class depends on the result of a placement. This course is aimed at upper level students. Knowledge of Japanese grammar equivalent to that tested at N2 of JLPT is a prerequisite. It is a requirement that a student should attend more than 70% of the class time to be eligible for the final examination.				

Course Title	Independent Research Project I			
Lecturer	NAGAIKE, Kazumi	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center	
Credit	2	Timetable	Spring: Fridays, 5 th period	
Lecturer's Office	Kyoyo Bldg., 3rd floor Office	No. 3-4 097-5	54-7953 nagaike@oita-u.ac.jp	
Aims	This course will provide students with in which students have been engage	_	search skills and experience in the field	
Learning Outcomes	Students will gain further knowledge for the research project.	ge and understan	iding of the area that they have chosen	
Content	Interested students should have a clear idea of the topic on which they intend to conduct research; they should have some basic knowledge (or skills) of the area they plan to investigate in their research project. Students are expected to complete a research project by the end of the semester. The procedure is as follows: 1. Choose a topic for the project (the choice should be made by the end of the first week of the semester); 2. Make a project plan with your supervisor; 3. Engage in the research under the guidance of your supervisor; 4. Submit a final report for assessment at the conclusion of the project. (Specific modes of teaching to enhance students' learning) Weekly assignments and tests are given in order to assist students to acquire grammar. A supervisor is able to monitor his student's progress.			
Recommendation for Private Study	Students should start the project as early as possible and they should work on it every week. Whenever they encounter a problem, seek their supervisor immediately.			
Textbooks	None.			
References	To be provided by supervisor.			
Assessment Criteria	Final Report (a minimum of 2500 words and a maximum of 3000 words) 100% Note: Penalties will be incurred for late submission.			
Supplementary Information	Important Note: Students should provide an outline of their proposal with Prof. Nagaike by the first Friday of the Semester at the latest.			

Course Title	Preparatory Course in Japanese for Pre-Postgraduate Students			
Lecturer	Instructors of GAIA	Faculty	GAIA	
Credit	To be announced	Timetable	To be announced	
Lecturer's Office	Kyoyo Bldg., 3 rd floor			
Aims	This is a six-month beginners' Japanese course for Japanese Government (MEXT) Scholarship holders. Students study the basic Japanese to acquire listening, speaking, reading and writing skills. Basic English language ability is required. All seven classes are co-requisites.			
Learning Outcomes	 To learn basic daily conversation skills To be able to read and write hiragana, katakana, and basic kanji To be able to read and write short passages 			
Content	·			
Recommendation for Private Study	Revision and preparation of each lesson.			
Textbooks	Genki I: An Integrated course in Elementary Japanese, The Japan Times Genki I Workbook, The Japan Times			
References	Recommended: A Dictionary of Basic Japanese Grammar, The Japan Times			
Assessment Criteria	Spoken test 30%, Weekly tests and Assignments 30%, Final Exam 40%			
Supplementary Information	This course is offered for Japanese Government (MEXT) Scholarship holders (Preparatory Course in Japanese for Pre-Postgraduate Students).			

Course Title	Japanese 3 Reading I				
Lecturer	OTSUBO, Minako	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center		
			Semester: Fall		
Credit	2	Timetable			
Credit	2	Timetable	Day of the Week: Thursdays Period: 1		
Leaf and Office			reliou. I		
Lecturer's Office	mohtubo@nm.beppu-u.ac.j	ρ			
Aims	Read short stories at the first interme	ediate level abo	out Japan and understand them.		
	Understand the structure of senter	nces.			
Learning	2. Search for necessary information	in sentences qu	uickly.		
Outcomes	3. Learn the proper usages of conjur	nctions and adv	erbs.		
	4. Learn about Japanese life and cul	ture.			
	1. Guidance				
	2. story 1				
	3. story 2				
	4. story 3	4. story 3			
	5. story 4				
	6. story 5				
	7. story 6				
	8. Mid-term Exam				
Content	9. story 7				
	10. story 8				
	11. story 9				
	12. story 10				
	13. story 11				
	14. story 12				
	15. review				
	16. Final Exam				
	(Specific modes of teaching to enhar	nce students' le	earning)		
	Time for pair-work or group-work will	be allotted in o	class.		
Recommendation	Students are expected to review afte	r every class a	nd to prepare for the quiz every time.		
for Private Study					
Textbooks	Handouts will be distributed every tin	ne.			
References	References will be given as needed.				
Assessment	Participation, Quizz (30%) , Mid-terr	n exam (30%)	, Final exam(40%)		
Criteria	Students required to attend more th examination.	an 70% of the	classes to be eligible to take the final		
	This course is for pre-intermediate	level student	ts who have successfully completed		
Supplementary	This course is for pre-intermediate level students who have successfully completed				
Information	elementary level courses or students whose proficiency level in Japanese is 3 according to				
	the result of the GAIA placement test. The class will be conducted in Japanese.				

Course Title	Japanese 3 Writing I				
Lecturer	MAEDA, Kyoko	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center		
Credit	2	Timetable	Semester: Fall Day of the Week: Mondays Period: 2		
Lecturer's Office	os190008@oita-u.ac.jp				
Λ:	This course is designed to develop writing skills by writing 600~700 word-letter essays on				
Aims	familiar topics using first intermediate	e level vocabula	aries, expressions, and grammars.		
	1. Be able to write Japanese compos	sitions using cle	ear, developed paragraphs.		
Learning	2. Understand sentence construction	on and write s	entences that uses conjunctions and		
Outcomes	adverbs effectively.				
	3. Understand how to use traditional	Japanese mar	nuscript paper properly.		
	1. Guidance				
	2. Self-introduction				
	3. Introduce a friend				
	4. Request a person to do				
	5. Describe things				
	6. Tell the news				
	7. Review				
	8. Mid-term Exam				
Content	9. Express oneself				
	10. Foresee the future				
	11. Assert oneself				
	12. Image of Japanese				
	13. Prepare for an interview				
	14. The results of the interview				
	15. Presentation				
	16. Final Exam				
	(Specific modes of teaching to enhan		<u>.</u>		
	Time for pair-work and short present	ation will be all	otted in class.		
Recommendation	Review after every class.				
for Private Study	Preparation for presentation.				
Textbooks	Handouts will be distributed every cla				
References	References will be given as needed.				
Assessment Criteria	Participation & Homework (10%), Tasks (15%), Presentation (20%), Exams (55%)				
	This course is for pre-intermediate	e level studen	ts who have successfully completed		
Supplementary	•	•	ency level in Japanese is 3 according to		
Information	the result of the GAIA placement test.	The class will b	pe conducted in Japanese. It is required		
mormation	that a student should attend more than 70% of the class time to be eligible to take the final				
	examination.				

Course Title	Japanese 4 Grammar I			
Lecturer	OTSUBO, Minako	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center	
Credit	2	Timetable	Semester: Fall Day of the Week: Monday Period:1	
Lecturer's Office	mohtubo@nm.beppu-u.ac.j	р		
Aims	This course is designed to improve in	ntermediate-lev	vel grammatical knowledge further.	
Learning Outcomes	Understand the meaning and usage and use them accurately.	of intermediate	-level grammar points and expressions	
Content	and use them accurately. The textbook is the same as that is used in Japanese 4 Grammar II. Lessons1 through 6 and Lessons17 through 20 will be covered in this course. 1. Guidance 2. Particles with various functions 3. Topicalization 4. Phrases used like grammatical particles 1 5. Phrases used like grammatical particles 1, 2 6. Phrases used like grammatical particles 2 7. Phrases used like grammatical particles 3 8. Mid-term Exam 9. How to nominalize verbs and adjectives 1 10. How to nominalize verbs and adjectives 2 / Expanding your vocabulary 1 11. Expanding your vocabulary 2 / Formal sentences 1 12. Formal sentences 2 / Polite expressions 1 13. Polite expressions 2 14. Cohesion in conversation and written language 1 15. Cohesion in conversation and written language 2 16. Final Exam (Specific modes of teaching to enhance students' learning)			
Recommendation for Private Study	Students are expected to study at least 2 hours per week on homework and reviewing after the class.			
Textbooks	"Chuukyuu Nihongo Bumpoo Yooten	Seiri Pointo 20) " (3A-Network)	
References	"A Dictionary of Basic Japanese Grammar" (The Japan Times) " A Dictionary of Intermediate Japanese Grammar" (The Japan Times)			
Assessment Criteria	Participation, homework (30%), Mid-term exam (30%), Final exam(40%) It is required that a student should attend more than 70% of the class time to be eligible to take the final examination.			
Supplementary Information	This course is for intermediate level students who have successfully completed pre-intermediate level courses or students whose Japanese proficiency level is 4 according to the GAIA placement test results. The class will be conducted in Japanese. Students are required to have a prior knowledge of at least 500 basic kanji.			

Course Title	Japanese 4 Reading I			
Lecturer	NISHIJIMA, Yoriko	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center	
Credit	2	Timetable	Semester: Fall Day of the Week: Fridays Period:1	
Lecturer's Office	Arts (Kyoyo) Bldg, 3rd Floor Office	No.3-6 097-	554-7667 y-nishijima@oita-u.ac.jp	
Aims	· ·	will not only gai	ic texts by reading texts on various topics. in knowledge about Japanese society, but mes.	
Learning Outcomes	 To be able to read cohesive texts on social themes. To accurately understand information and data. To be able to quickly understand and comprehend the content and main points of texts. To develop thinking ability by taking the knowledge gained as something familiar to you. 			
Content	1. Orientation / Letter ① 2. Letter ① / Essay ① 3. Essay ① 4. Editorial text ① / Story ① 6. Story ① 7. Editorial text ② / Essay ② 8. Mid-term exam 9. Editorial text ② / Essay ② 10. Essay ② 11. Editorial text ③ / Editorial text ④ 13. Editorial text ③ / Editorial text ④ 14. Editorial text ⑤ 15. 15. Editorial text ⑤ 16. Final exam (Specific modes of teaching to enhance Students will expand their knowledge each theme through issues familiar to	ce students' lea through readin	arning) g material and data. They will also discuss	
Recommendation for Private Study	Students do weekly preparations and They do a review for word quizzes.	assignments.		
Textbooks	To be prepared and provided by Lectu	urer.		
References	Nihongogakushuusha no tameno dok Nihongogakushuusha no tameno dok	kaigensen teer	•	
Assessment	Mid-term exam(30%), Final exam(30%	%), Assignment	(20%), Word quiz(20%)	
Supplementary Information	Permission to attend this class depends on the result of a placement test. This course is aimed at intermediate level students. Students taking this course should know about 500 kanji and have a vocabulary of 3000 words. It is a requirement that a student should attend more than 70% of the class time to be eligible for the final examination.			

Course Title	Japanese 4 Writing I			
Lecturer	NISHIJIMA, Yoriko	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center	
Credit	2	Timetable	Semester: Fall Day of the Week: Thursdays Period:2	
Lecturer's Office	Arts (Kyoyo) Bldg, 3rd Floor Office	e No.3-6 097	-554-7667 y-nishijima@oita-u.ac.jp	
Aims	reports, presentation manuscripts	, emails, etc.).	rts according to their purpose (academic To that end, they learn expressions and lation and how to write logical sentences.	
Learning Outcomes	1.To be able to write sentences according to the situation (academic reports, presentation manuscripts, emails, etc.). 2. To be able to explain some somewhat complicated ideas and information. 3. To be able to write logical reports of 800 characters or more.			
Content	•	gs ions: Conjuncti orts nance students' and practical os every week.	ons and demonstrative pronouns learning) expressions. They will practice writing In addition, through peer reading they will	
Recommendation	Students write a composition ever	y week.		
Textbooks	To be prepared and provided by L	ecturer.		
References	Ryugakusei no tameno kokogatais Shoronbun eno 12 no suteppu, 3A		nyougen no ruru, 3A Network	
Assessment	Interim report (30%), Final report (30%), Assignm	nent (40%)	
Supplementary Information	aimed at intermediate level stude kanji and have a vocabulary of 300	nts. Students to 00 words.	result of a placement test. This course is aking this course should know about 500 ore than 70% of the class time to be eligible	

Course Title	Japanese 4 Contextual Japanese I			
Lecturer	OTSUBO, Minako	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center	
Credit	2	Timetable	Semester: Fall Day of the Week: Tuesdays Period: 2	
Lecturer's Office	mohtubo@nm.beppu-u.ac.j	р		
Aims		to put their a	panese language skills. It places an already acquired Japanese skills into nvironments.	
Learning Outcomes	Students will acquire necessary skill learning how to express their own op		in discussions in Japanese, as well as lysis in Japanese.	
Content	 Orientation Learning from media materials Independent Project 1 Independent Project 2 Independent Project 3 Independent Project 4 Presentation Presentation, comments Final Exam (Specific modes of teaching to enhance Students are required to actively par 	2 3 4 5 6 7 8	0,	
Recommendation for Private Study	Students are expected to study at least 2 hours per week on homework and reviewing after the class.			
Textbooks	To be prepared and provided by Lec	turer.		
References	References will be given as needed.			
Assessment	Participation (20%), Project (30%), Assignments (20%) Examination (30%)			
Supplementary Information	It is recommended that students who wish to enroll in this course have taken or simultaneously take other level 4 Japanese courses. Students must attend more than 70% of the class meeting to be eligible to take the final examination.			

Course Title	Japanese 5 Speaking			
Lecturer	OTSUBO, Minako	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center	
Credit	2	Timetable	Semester: Fall Day of the Week: Mondays Period: 2	
Lecturer's Office	mohtubo@nm.beppu-u.ac.j	р		
Aims	This course is for advanced learners	. It is designed	to improve speaking skills.	
Learning Outcomes	Students will be able to do the following: 1. To deliver a 3-minute speech composed of many paragraphs. 2. To describe and explain complicated matters. etc. 3. To speak appropriately in a polite manner.			
Content	4. To accept different thoughts and opinions, etc. 1. Guidance 2. Introducing yourself effectively 3. How I started to do ~ 4. Talking about your experience of losing something 5. Talking about your home town 6. Explaining the sequence of movement 1 7. Explaining the sequence of movement 2 8. Mid-term Exam 9. Talking about the interesting aspects of your hobby, sports, and the like 10. Paraphrasing 11. Comparing and contrasting 1 12. Comparing and contrasting 2 13. Talking about recent incidents 14. Talking about health problems 15. Talking about your dream 16. Final Exam (Specific modes of teaching to enhance students' learning)			
Recommendation	Students are expected to study at lea	ast 2 hours per	week on homework and reviewing	
for Private Study	after the class.			
Textbooks	Nihongo jookyuu washa e no michi, 3A-Network			
References	References will be given as needed.			
Assessment Criteria	Participation, homework (30%), Mid-term exam (30%), Final exam(40%) It is required that a student should attend more than 70% of the class time to be eligible to take the final examination.			
Supplementary Information	This course is for students whose proficiency level in Japanese is 5 according to the result of the GAIA placement test or students who have successfully completed Japanese 4 Speaking Course (Grade B or above).			

Course Title	Japanese 5 Reading / Writing I			
Lecturer	SAKAI, Mieko	Faculty	GAIA	
Credit	2	Timetable	Fall: Wednesdays 2 nd period	
Lecturer's Office	Kyoyo Bldg., 3 rd floor O	ffice No.3-7	097-554-7516 msakai@oita-u.ac.jp	
Aims			mic papers and modern Japanese literature, and impetency. Students will learn the basic skills of	
Learning Outcomes	 Students read academic reports and papers ranging from 1200 words to 2000 words in length step by step, and learn vocabulary and expressions used in academic fields. Students learn the structures and expressions of academic papers, and enable to grasp the content and get the necessary information quickly. Students read modern Japanese literature and enable to explain the content. Students get insight into Japanese society and how Japanese think. Students learn the structures of paragraphs, and enable to write short paper. 			
Content	 Reading: read a variety of literary texts, general reports and technical material in academic fields. Structures each week include the followings: written language topic, main idea, and particles main sentences and subordinate sentences, demonstrative phrases quotation, conjunction facts and ideas paragraph construction Mid-term Writing: structures each week include the followings: learn fundamental way of writing papers learn how to use written language learn how to presenting topics learn how to define and classify Read short novels in the original, and learn vocabulary and expressions. fiction reading Specific modes of teaching to enhance students' learning Feedbacks of compositions will be given by both a peer and an instructor in order to help 			
Recommendation	·	study about 2	2 hours per week on such as checking the meaning	
for Private Study	of words, reading texts, a	nd writing and	d rewriting compositions.	
Textbooks	Japanese for Internationa	al College / Gr	raduate Students 3: Reading Essays, ALC	
References	Japanese for Internationa	al College / Gr	raduate Students 4: Writing Essays, ALC	
Assessment Criteria	Mid-term exam 30%, Final exam 30%, composition 20%, homework 10%, class performance, etc. 10%.			
Supplementary Information	In order to take this course, students are expected to be at JLPT N1 level. It is required that students attend more than 70% of the class time to be eligible to take the final examination.			

Course Title	Japanese 5 Grammar I				
Lecturer	NISHIJIMA, Yoriko	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center		
Credit	2	Timetable	Semester: Fall Day of the Week: Fridays Period:2		
Lecturer's Office	Arts (Kyoyo) Bldg, 3 rd Floor Of	fice No.3-6	097-554-7667 y-nishijima@oita-u.ac.jp		
	Students accurately understand	and proper	y use intermediate and advanced grammar		
Aims	patterns and vocabulary in order	to acquire v	various expressions in daily conversation and		
	in university lectures.				
	1. To learn advanced level (N1 of	JLPT) Japa	nese grammar and vocabulary.		
Learning	2. To understand the meaning an	d usage of s	similar expressions.		
Outcomes	3. To use those similar expressio	ns accuratel	y and precisely.		
	Orientation / Simultaneous				
	2. Start & end point				
	3. Incidental situation				
	4. Before and after				
	5. Adjunct				
	6. Conditions				
	7. Connect				
	8. Mid-term exam				
	9. Rationality				
	10. Forced				
Content	11. Feelings				
	12. State				
	13. Degree				
	14. Others				
	15. Summary				
	16. Final exam				
	(Specific modes of teaching to enhance students' learning)				
	Students make short sentences using the learned sentence patterns and write them on the				
	board so that they can correct ea	ach other. If	there is any misuse, they will think about it in		
	the class. By doing so, they will acquire a sharp sense of language in Japanese.				
Recommendation	Students prepare, review and sul	bmit weekly	assignments.		
Textbooks	To be prepared and provided by	Lecturer.			
	Donna toki tsukau Nihongo hyog	en bunkei jit	en, ALC		
References	Kurabete wakaru Nihongo hyogen bunkei jiten, J-research				
	Ikita reibun de manabu Nihongo hyougen bunkeijiten, ASK				
Assessment	Mid-term exam (40%), Final exar				
		•	ne result of a placement. This course is aimed nese grammar equivalent to that tested at N2		
Supplementary	of JLPT is a prerequisite.	ige oi Japan	ese grammar equivalent to that tested at N2		
Information	It is a requirement that a student should attend more than 70% of the class time to be				
	eligible for the final examination.				

Course Title	Academic Writing in Japane	se		
Lecturer	NISHIJIMA, Yoriko	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center	
Credit	2	Timetable	Semester: Fall Day of the Week: Thursdays Period: 3	
Lecturer's Office	Arts (Kyoyo) Bldg, 3rd Floo	r Office No.3-6	097-554-7667 y-nishijima@oita-u.ac.jp	
Aims	characteristics of reports an	d essays and, th	essays. To do this, students will learn the e appropriate vocabulary and writing style to mpelling report, focusing on how to choose a ces.	
Learning Outcomes	 To recognize the difference in vocabulary and writing style between spoken and written language and use them properly. To be able to use the expression patterns required to write a report. To write a report of 5000 characters or more, including an introduction, main theory, and conclusion. 			
Content	1. Orientation / Before writing 2. Type and composition of s 3. Basics of reports and treat 4. Report of pros and cons 5. Quoting rules and method 6. Data presentation and and 7. Data presentation and and 8. Structure of report and tre 9. How to write an introduction 10. How to write a main theo 11. How to write a main theo 12. How to write a conclusion 13. How to write a research 14. Sentence clarity 15. Sentence cohesion (Specific modes of teaching The teacher will point out methods instruct the students on corre	sentences tises (Academic Is alysis ① alysis ② atise on ory ① Explanation ory ② Argument on plan g to enhance stud isuse of express	and formal expression) on mode mode dents' learning) sion and style in submitted assignments, and	
Recommendation	Students should write an ess	say using acader	nic writing style every month.	
Textbooks	To be prepared and provide	d by Lecturer.		
References	Good writing eno pasupoto, Repoto • Ronbun Hyogen H		daigaku shuppankai etc	
Assessment	Interim reports (20% × 3), Fig	nal report (40%)		
Supplementary Information	Permission to attend this cla	ss depends on th	lass enrollment will be limited to 20 students. ne result of a placement test. tend more than 70% of the class time to be	

Course Title	Independent Research Project II			
Lecturer	NAGAIKE, Kazumi	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center	
Credit	2	Timetable	Fall: Fridays, 5 th period	
Lecturer's Office	Kyoyo Bldg., 3rd floor Office	No. 3-4 097-554	4-7953 nagaike@oita-u.ac.jp	
Aims	This course will provide students win which students have been engage	•	earch skills and experience in the field	
Learning Outcomes	Students will gain further knowledge for the research project.	ge and understand	ing of the area that they have chosen	
Content	Interested students should have a clear idea of the topic on which they intend to conduct research; they should have some basic knowledge (or skills) of the area they plan to investigate in their research project. Students are expected to complete a research project by the end of the semester. The procedure is as follows: 1. Choose a topic for the project (the choice should be made by the end of the first week of the semester); 2. Make a project plan with your supervisor; 3. Engage in the research under the guidance of your supervisor; 4. Submit a final report for assessment at the conclusion of the project. (Specific modes of teaching to enhance students' learning) A supervisor is able to monitor his student's progress.			
Recommendation for Private Study	Students should start the project Whenever they encounter a proble		ble and they work on it every week. ervisor immediately.	
Textbooks	None.			
References	To be provided by supervisor.			
Assessment Criteria	Final Report (a minimum of 2500 words and a maximum of 3000 words) 100% Note: Penalties will be incurred for late submission.			
Supplementary Information	Important Note: Students should provide an outline of their proposal with Prof. Nagaike by the first Friday of the Semester at the latest.			

2. Global Studies Co (offered in either l		

Course Title	Analysis of Japanese Grammar			
Lecturer	NISHIJIMA, Yoriko	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center	
Credit	2	Timetable	Semester: Spring Day of the Week: Tuesdays Period:2	
Lecturer's Office	Arts (Kyoyo) Bldg, 3rd Floor (Office No.3-6	097-554-7667 y-nishijima@oita-u.ac.jp	
Aims	<u> </u>	anding of Ja	n various linguistic perspectives. Through this work, apanese as a language and develop the ability to eneral, not limited to Japanese.	
Learning Outcomes	2. To compare Japanese with ot	her language	pply it to the analysis of words and sentences. es and explaining the similarities and differences. Japanese as a foreign language.	
Content	 To propose a method to effectively teach Japanese as a foreign language. Introduction: Japanese in the world Analyzing Japanese from linguistics ① Language characteristics Analyzing Japanese from linguistics ② Language function Japanese grammar system ① Basic sentence patterns and particles Japanese grammar system ② Predicate structure and function Japanese language teaching method ① Teaching material analysis Japanese teaching method ② Creating a lesson plan Japanese mock lessons ① Japanese from the perspective of morphology Japanese from the perspective of syntax Japanese from the perspective of semantics ① Japanese from the perspective of semantics ② Japanese from the perspective of cognitive linguistics ① Japanese from the perspective of cognitive linguistics ② Final exam Specific modes of teaching to enhance students' learning) Japanese students and international students form groups and analyze Japanese from various perspectives. By presenting the results and experiencing a mock lesson that teaches Japanese, 			
Recommendation for Private Study	Students do weekly preparations and assignments. They prepare for group presentations and mock lessons.			
Textbooks	To be prepared and provided by	Lecturer.		
References	Nihongokyoshi no tameno oyoninchigengogaku, Bonjinsha Nishongokyoshi no tameno nyumon gengogaku -Enshu to kaisetsu, 3A Network Shin kokokara hajimaru nihongogaku, Hitsujishobo Nihongokyoiku no stato rain, 3A Network			
Assessment	Final examination (50%), Mock I	esson (30%)	, Assignment (10%), Class performance (10%)	
Supplementary Information	It is a requirement that a student should attend more than 70% of the class time to be eligible for the final examination. In the case of international students, knowledge of Japanese grammar equivalent to that tested at level 1 of the Japanese Language Proficiency Test is a prerequisite.			

Course Title	Business Japanese Seminar 3				
Lecturer	MAEDA, Kyoko	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center		
Credit	2	Timetable	Semester: Spring Day of the Week: Mondays Period: 3		
Lecturer's Office	os190008@oita-u.ac.jp				
Aims	This course is for students from Jianghan University "3+1" program. In the course, students will work towards developing and enhancing not only their reading skills but also describing and expressing their own opinions of newspaper articles, news and topics related mainly to economics.				
Learning Outcomes	 Choose appropriate information Organize, summarize and accurately communicate the newspaper articles Communicate clearly the contents of newspaper articles Critique objectively on the newspaper articles Utilize appropriate objectively information and express opinions 				
Content	1. Orientation and outline of course 2. Significance of selecting media information (media literacy) 3. Read newspaper articles 4. Summarize newspaper articles after reading 5. Critique on newspaper articles after readings 6. Listen to news items 7. Summarize news items after listening 8. Critical listening 9-13. Select information to describe and express opinions 14. Presentations 15. Feedback (Specific modes of teaching to enhance students' learning) • Obtain appropriate information from web-based news and other sources, and investigate. • Hold team discussions and debate.				
Recommendation	Record the presentations; obtain feedback via a self-evaluation rubric. Get into the habit of watching Japanese news.				
for Private Study					
Textbooks	Economic news and movies from we	•			
References Assessment Criteria	Japanese dictionaries, other. To be instructed in class. Participation & Homework (15%), Listening (10%), Reading & Writing (15%), Presentation (15%), Final exam (45%)				
Supplementary Information	The course is also open to other students.				

Course Title	Business Japanese Seminar 4			
Lecturer	MAEDA, Kyoko	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center	
Credit	2	Timetable	Semester: Spring Day of the Week: Fridays Period: 2	
Lecturer's Office	os190008@oita-u.ac.jp			
Aims	This course is for students from Jianghan University "3+1" program. In the course, students will work towards developing and acquiring necessary speaking and conversational skills together with writing skills in business settings through understanding and analyzing themselves.			
Learning Outcomes	 Utilize various resources in collect Summarize information and comm Conduct conversation in business Formulate and write business doc 	nunicate compre settings	ehensively	
Content	 Orientation and outline Industry, occupation and the company Decide a subject corporation for research Formulate a project plan by the team Collect data and conduct online or e-mail negotiations Summary and report writing Presentations Feedback (Specific modes of teaching to enhance students' learning) In a team, research a company, negotiate, visit the company, and conduct an interview. In addition to creating a team report, also create an individual report. 			
Recommendation for Private Study	Get into the habit of watching Japanese news.			
Textbooks	Handouts			
References	Japanese dictionaries, other. To be instructed in class.			
Assessment Criteria	Participation (10%), Tasks (20%), Presentations (25%), Final exams (45%)			
Supplementary Information	The course is also open to other students.			

Course Title	Learning Oita Through <i>Kyogen</i>				
Lecturer	Keizo Nanri, Yoriko NISHIJIMA Faculty Global Education and Intercu				
			Semester 1		
Credit	2	Timetable	Day of the Week: Tuesdays		
			Period: 4 th Period		
	Kyoyo Bldg., 3rd Floor Office No. 5 097-554-7635 keizo-nanri@oita-u.ac.jp				
Lecturer's Office	Kyoyo Bldg., 3rd Floor Offic	ce No. 6 097-55	54-7667 y-nishijima@oita-u.ac.jp		
	This course aims to provide studen	ts with knowle	dge and experience sound enough to		
	appreciate traditional Japanese socie	ety and current	Oita culture through writing a script for		
Aims		•	script on the <i>noh</i> stage. The course is		
	taught in Japanese.				
		will be able to	(1) talk about the history of kyogen, (2)		
Learning			wn as <i>komai</i>) and phonation, (3) be		
Outcomes	sensitive to some cultural issues in C	,	, , ,		
	Week1: Orientation, the History and				
	Weeks 2-5: <i>Komai</i> : This is how <i>kyogen</i> players perform on the stage.				
	Weeks 4-6: Script Writing				
	Week 7-9: Script Revision				
	Week 9: The Basic Knowledge of <i>kyogen, Kyogen</i> workshop @ Nogakudo				
	Weeks 10-14: Script Revision and Performing				
Contont	Week 15: Performance Examination	_			
Content	Week 13.1 chormanee Examination	W Nogakudo			
	(Specific modes of teaching to enhar	nce students' le	earning)		
	The course provides students not only with knowledge from reading materials but with opportunities where they can actually perform <i>kyogen</i> on the sage under the guidance of a				
			ouraged to actively conduct a research		
	on Oita local culture.	s are also crice	draged to actively conduct a rescarcing		
	on one local culture.				
Recommendation	·	•	i dancing and phonation. About 3 hours		
for Private Study	per week will be required to draft a <u>k</u>	<u>yogen</u> scenario)		
Textbooks	Hand-outs will be provided in the cla	SS.			
References	A list of references will be provided in	n the class.			
Accoment	0.5	(400/)			
Assessment			phonation and komai (10%); koutai test		
Criteria	(10%); class performance (2% x 15);	final performa	nce (40%).		
	Students who fail to attend 70% of the	ne classes fail t	his course, and are not eligible to sit		
Supplementary for the performance examination. This course will accept no more than 15 local			_		
Information	and the maximum number of students to be enrolled is 30. Students are also required to				
	addend the Kyogen Workshop in June.				
	addend the Ryogen Workshop in Jul	10.			

Course Title	Sustainability and Glocal Development in Oita 2 サステナビリティ大分 2				
Lecturer	BURKART, Kaori I.	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center		
Credit	2	Timetable	Spring: Thursdays 4 th 前期:木 4		
Lecturer's Office	Kyoyo Bldg., 3 rd Floor Office N	lo. 3-3 kbu	ırkart@oita-u.ac.jp		
Aims	essential to creating a sustainable fu themes related to our immediate sur	tended to deve ture through fa roundings. It is r own behavior	lop knowledge, attitudes, and values miliar environmental and social also designed to motivate and s and make collaborative decisions to		
Learning Outcomes	 At the end of the semester, students Conduct their own research and knowledge Compare and contrast cultural el Reflect on their own cultural bias 	present the resements behind	sults in class to construct deeper international relationships		
Content	1. Week 1: Orientation, introduction, and overview of the course 2. Week 2: Theme 1-1 What's your favorite 100-yen shop? 3. Week 3: Theme 1-2 Responsible consumption 4. Week 4: Theme 2-1 Food waste causes lifestyle diseases?! 5. Week 5: Theme 2-2 Obesity and starvation: Health and Welfare 6. Week 6: Oita City Environmental Faire Visit 7. Week 7: Sustainability-related movie watch 8. Week 8: Movie Talk (group discussions) 9. Week 9: Theme 3-1 Wars triggered by your mobile phone?! 10. Week 10: Theme 3-2 Global disparity 11. Week 11: Theme 4-1 Poverty issues 12. Week 12: Theme 4-2 What do you mean by equity? 13. Week 13: Presentation 1/2 14. Week 14: P presentation 2/2 15. Week 15: Overflow presentation and/or in-class discussion < Specific modes of teaching to enhance students' learning > Students will practice critical thinking skills through planned in and outside of class learning activities. Learning activities may include role play, online and in-class discussions, playing games, volunteering in the community, and knowledge building through reading news articles and academic papers. Students will give a presentation during the semester. Possibilities of site visits.				
Recommendation for Private Study	Minimum of 2 hours each week reading news articles to keep up-to-date with sustainability issues in the world. Building knowledge via active participations throughout the semester including periodic online discussions and movie watching will help forming the final research topic as well as the final paper.				
Textbooks	To be provided by the instructor				
References	Additional materials are provided on the class website. Please check periodically.				
Assessment Criteria	Homework & online discussion 20%; Presentation (individual) 40%; Final Report 40%				
Supplementary Information	In this course, International students learn alongside local students. It is required that students attend 70% of the (at least 10) class meetings to be considered for submitting the final paper for passing the course. Course instruction will be mostly in English supplemented with some Japanese. All in-class discussion must be conducted in English but writing assignments can be submitted either in English or Japanese. このクラスは本学正規学生と留学生とが一緒に学ぶための融合クラスで、講義はほとんど英語で行われる。オンラインディスカッション、期末レポートは英語もしくは日本語のいずれかの言語で作成しても良いが、授業中のディスカッションは英語が基本となる。				

Course Title	City Project: Oita & Beppu		
Lecturer	NANRI, Keizo	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center
Credit	2	Timetable	Semester: 1 Day of the Week: Fridays Period: 3
Lecturer's Office	Kyoyo Bldg., 3rd Floor Offic	ce No. 5 097-58	54-7635 keizo-nanri@oita-u.ac.jp
Aims	_	hinking. The ar	w the streetscapes in Beppu-shi and Oita- reas to be reviewed are the central areas u.
Learning Outcomes	By the end of the course, students will have a good understand of the following: (1) what major cultural facilities in Oita-shi are like and what they need to improve to attract visitors through a comparison with similar facilities in other cities, (2) the significance of the existence of old folk houses in cities such as Beppu, (3) the uniqueness of onsen in Beppu, and (4) some universal characteristics of onsen.		
Content	Session 1: Orientation. Session 2: What does Oita-shi have in its central area? Design Thinking Sessions 3: Promote Otomo Sorin Session 4: Re-create the central area. Session 5: Field Trip 1 (Oita's Central Area) Session 6: What Beppu is like Sessions 7-8: Review Beppu's Central Area Session 9: Field Trip 2 (Beppu's Central Area) Session 10: Kannawa and Its Oshiba Culture Session 11: Field Trip 3 (Kannawa) Session 12: Presentation (Specific modes of teaching to enhance students' learning) Students' progress will be monitored with class discussion. Their acquisition of new knowledge will be substantiated through field trips and their documentation of their research		
Recommendation for Private Study	on the landscapes in Beppu and Oita. 2 hours weekly will be needed for class preparation, and one hour for reviewing class content. Each field trip will count as 2 sessions.		
Textbooks	Handouts to be provided in class.		
References	A list of references to be provided in	class.	
Assessment Criteria	The Presentation (Session 12, 50%), Assignment 1 (due Session 6, 20%), Assignment 2 (due Session 10, 30%).		
Supplementary Information	Students are required to attend at least 70% of the classes. The sessions are given in Japanese and English, but the former is the major medium language.		

Course Title	Oita Area Studies					
Lecturer	NISHIJIMA, Yoriko	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center			
Credit	2	Timetable	Semester: Spring Day of the Week: Wednesdays Period: 2			
Lecturer's Office	Arts (Kyoyo) Bldg, 3rd Floor C	ffice No.3-6	097-554-7667 y-nishijima@oita-u.ac.jp			
Aims	Students learn about Oita's society and history from the perspectives of plurilingualism and pluriculturalism. Through group work and fieldwork, they will not only have a deep understanding of Oita, but also be able to consider solutions to local problems from diverse cultural backgrounds and ways of thinking. Through activities on the Internet in multiple languages, they will be able to recognize various languages and raise interest in them.					
Learning Outcomes	2. Through these activities, be cultural and language backgrou	 To understand the history and social problems of Oita and propose solutions. Through these activities, be able to understand one other as individuals with different cultural and language backgrounds. To understand the diversity of languages through working in their mother tongue alongside other languages. 				
Content	5. Discussion (solution to the de 6. Creating and publishing an ir 7. History of Christians in Oita 8. Preparation for coverage 9. Visit to Taketa City (Taketa Ca 10. Discussion (Society that ac 11. Creating and publishing an 12. Summary: Final discussion 13. Presentation (Specific modes of teaching to be agnostic to a single culture	pulated area is epopulation proternet magazine Chapel, Take cepts diversity internet magarenhance student anguage.	keda Christian Museum; converted to 2 lessons)			
Recommendation	Students do weekly preparation	ns and assignr	ments.			
for Private Study	They prepare for group work ar	nd write article	es in a magazine.			
Textbooks	To be prepared and provided by	Lecturer.				
References	Reference materials will be pos	ted on Moodle	e for each issue			
Assessment	Fieldwork (10% x 2), Discussion	n (10% x 2) Re	eport (10% x 2), Final presentation and report			
Criteria	(30%), class performance (10%	o)				
	The maximum number of parti	cipants is 30	. Intermediate to super advanced Japanese			
Supplementary	·	•	ite level learners must have knowledge of 500			
Information						
		of the class time to be eligible for the final tasks.				
	•					

Course Title	Intercultural Communication				
Lecturer	NAGAIKE, Kazumi	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center		
Credit	2	Timetable	Spring: Tuesdays 3 rd Period Fall: Mondays 3 rd Period		
Lecturer's Office	Arts (Kyoyo) Bldg., 3	rd Floor Offic	e No. 3-4 097-554-7953 nagaike@oita-u.ac.jp		
Aims	Exploring new types of knowledge and analyzing the structures of cultural activities are both required, in order to enchance cross-cultural communication in this contemporary era of internationalization. In this course, we will attempt to understand the kinds of ideological conceptwhich are required to cultivate intercultural communication; this will mainly involve discussing such issues as Japanese ways of thinking, the structure of Japanese society, globalization, multiculturalism, and so forth.				
Learning Outcomes	 Understanding the specific nature of Japanese society and culture: After taking this course, students will be able to explain key concepts concerning Japanese sociocultural structures. Acquiring theoretical perspectives on intercultural communication: After taking this course, students will be able to explain key theories of intercultural communication. Broadening the scope of multiculturalism: After taking this course, students will be able to analyze specific sociocultural circumstances within a broader multicultural context. 				
Content	1) Introduction and Orientation 2) What is Intercultural Communication? 3-5) The Analysis of Japanese Society and the Psychology of Japanese People (honne and tatemae, uchi and soto, giri, shudanishiki, zoto, senpai and kohai, amae, etc) 6) Gesture and Non-Verbal Communication 7) Orientalism and Techno-Orientalism (e.g. the analysis of Hollywood Movies) 8) Nationalism and Imagined Community 9) Multiculturalism (e.g. issues of Ainu people) 10) Communication and Mass Media (e.g. stereotypical images of foreigners in Japanese mass media) 11) Culture Shock 12-13) Japan in Asia and in the World (e.g. issues of Yasukuni Shrine) 14-15) Group Project (Specific modes of teaching to enhance students' learning) This course includes three modes of teaching; lectures, group discussions, and presentations. Students are required to actively participate in class activities.				
Recommendation for Private Study	Students are expected to carefully read the assigned readings, and summarize each of them in advance. At least four hours of private study per week, for preparation and review, will be required.				
Textbooks	To be prepared and p	provided by Led	cturer.		
References	To be provided by Le	cturer.			
Assessment	Participation: 20%	Presentation ar	nd Project: 30% Final Examination: 50%		
Supplementary Information		se. Students m	e is English and supplementary explanation will be ust attend more than 70% of the class meetings to be		

Course Title	Japanese Popular Culture Studies			
Lecturer	Nagaike, Kazumi	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center	
Credit	2	Timetable	Semester: Spring Day of the Week: Wednesdays Period: 4 th	
Lecturer's Office	Arts (Kyoyo) Bldg.,	3rd Floor	Office No. 3-4 097-554-7953 nagaike@oita-u.ac.jp	
Aims	The contemporary debate about Japanese popular culture has provided various important perspectives from which to deal with questions concerning Japanese society and culture. In this course, we will examine a variety of Japanese popular cultural materials—e.g. pre-modern Japanese popular culture, <i>Japanimation</i> (Japanese animations), pop idols, 2.5 dimension, <i>ranobe</i> (light novels), films, et cetera, and discuss the impact of these genres within both the Japanese socio-cultural and global contexts. We will discuss works which have been labeled as belonging to the Japanese aesthetic 'canon' of each period and examine the major recurring (literary and artistic) themes in these works. 1. Understanding the value of Japanese popular culture: After taking this course, students will be able to explain the cultural values expressed in Japanese popular culture and consider the ways in which Japanese popular culture reflects Japanese socio-cultural structures.			
Learning Outcomes	 Understanding the transnationality and globalization of Japanese popular culture: After taking this course, students will have acquired cross-cultural perspectives on Japanese popular culture. Acquiring theoretical frameworks for popular-culture studies: After taking this course, students will understand a variety of theoretical frameworks in relation to popular culture studies (e.g. audience- and fan-studies, in particular). 			
Content	1) Introduction to Japanese Popular Culture 2) Ukiyoe (Pre-modern Japanese Popular Culture) 3-5) Anime 6-7) Pop Music and Idols 8) Ranobe (Light Novels) 9-11) Films 12) Voice Actor 13) 2.5 Dimension (Specific modes of teaching to enhance students' learning) This course includes three modes of teaching: lectures, group discussions, and presentations. Students are required to actively participate in class activities.			
Recommendatio	Students are expected to carefully read the assigned readings and summarize each of them			
n for Private	before class. At lea	before class. At least four hours of private study per week will be required for preparation		
Study	and review.			
Textbooks	To be prepared and	d provided b	y Lecturer.	
References	To be provided by Lecturer.			
Assessment	Participation: 20% Presentation: 30% Examination: 50%			
Supplementary Information	provided in Japan	ese.	ourse is English and supplementary explanation will be n 70% of classes to be eligible to take the final examination.	

Course Title	Japanese Aesthetics and Fashion Media Studies				
Lastonan	NAGAIKE, Kazumi	Faculty.	Global Education and Intercultural Advancement		
Lecturer	NANRI, Keizo	Faculty	Center		
Credit	2	Timetable	Spring: Wednesdays 3 rd Period Fall: Fridays 4 th Period		
	Arts (Kyoyo) Bldg., 3rd Floor O	office No. 3-4 0	97-554-7953 nagaike@oita-u.ac.jp		
Lecturer's Office	Arts (Kyoyo) Bldg., 3rd Floor Office No. 3-3 097-554-7635 keizo-nanri@oita-u.ac.jp				
	Fashion in Japan is bound to b	e "boom"-orient	ed, in accordance with the various kinds of aesthetics		
	which have been cultivated during	ng each historica	al period. Accommodating the symbolic forms of beauty		
	favored in each period, Japanes	se fashion maga	zines have evolved and continue to produce innovative		
A :	"formulas" intended to increase r	nagazine sales.	In this course, by mainly focusing on fashion magazines		
Aims	for women, we will learn about p	period-specific s	emiotic structures, content, layouts, and the developing		
	audiences for fashion magazines	s in Japan. We	will examine a variety of Japanese fashions and related		
	aesthetic forms and discuss the	socio-cultural i	mpact of such genres in both the Japanese and global		
	contexts.				
	1) Understanding the value of	Japanese fashio	on culture: After taking this course, students will be able		
	to explain the cultural values	s expressed in J	apanese fashion culture and consider the ways in which		
	Japanese fashion culture re	flects socio-cultu	ural structures.		
Learning Outcomes	2) Understanding the transnationality and globalization of Japanese fashion culture: After taking this				
	course, students will have acquired cross-cultural perspectives on Japanese fashion culture.				
	3) Acquiring practical methods to communicate knowledge through project-oriented learning: After				
	taking this course, students	will be acquainte	ed with global-standard communication skills.		
	1) Hitory of <i>kawaii</i> 2) History o	of cross-dressing	in pre-modern Japan		
	3)Advent of original Japanese fashion magazines (Japanese role-modeling of the West)				
	4)Japanese high school girls become attracted to "American Casual Styles" (an analysis of "Shibuya				
	Casual Styles")				
	5)The era of female university-student models and professional agency models (conservative and				
	elegant approaches)				
Content	6)The era of "super hot" trends a	and Tokyo elegar	nce (fashion models and conservative tastes)		
Content	7)The post-elegance era and the advent of casual styles ("grown-up girls," "Lolitas," "gyaru," and "cabaret				
	women")				
	8)The era of fashion resurge	nce (the return	to Western dominance and the disappearance of		
	role-modeling attitudes)				
	9)Cosplay culture 10)Queer fash	ion culture (cros	ss-dressing in the 21st century)		
	This course includes three mod	es of teaching:	lectures, group discussions, and project/presentations.		
	Students are required to actively	participate in cla	ass activities.		
Recommendation for	Students are expected to careful	ully read the as	signed readings and write summaries of each of them		
Private Study	before class. At least four hours of private study per week will be required for preparation and review.				
Textbooks	To be prepared and provided by Lecturer.				
References	To be provided by Lecturer.				
Assessment	Participation: 20% Project/Presentation: 50% Final Examination: 30%				
Supplementary	The main language of this course is English; supplementary explanation will be provided in				
Information	Japanese. Students must attend	d more than 70%	of classes to be eligible to take the final examination.		

Course Title	Introduction to Japanese History, Culture and Society			
Lecturer	NAGAIKE, Kazumi	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center	
Credit	2	Timetable	Spring: Mondays 3 rd Fall: Wednesdays 4 th	
Lecturer's Office	Arts (Kyoyo) Bldg., 3	rd Floor Office	No. 3-4 097-554-7953 nagaike@oita-u.ac.jp	
Aims	This is an introducto society).	ry course to acq	uire basic knowledge of Japan (history, culture, and	
Learning Outcomes	 Becoming familiar with Japanese history Understanding the specific nature of Japanese culture (especially in the pre-modern period) Discussing the socio-cultural situation in contemporary Japan, based on our understanding of pre-modern Japan Experiencing traditional Japanese culture (e.g. the tea ceremony) 			
Content	1) Orientation 2~5) History of Japan 6~7) Japanese Performing Arts 8) Family and the Concept of <i>Ie</i> 9~10) Experiencing Japanese Culture 11~12) Japanese Companies and Labor Relations 13) Religion and <i>Dō</i> 14) Japanese Pre-modern Literature and Aesthetics 15) Review (Specific modes of teaching to enhance students' learning) Students' progress is constantly assessed by means of quizzes. The primary components of this course are lectures and discussions. Students are required to actively participate in these class discussions.			
Recommendation for Private Study	Students are expected to carefully read the assigned readings, and summarize each of them in advance. At least four hours of private study per week, for preparation and review, will be required.			
Textbooks	To be prepared and p			
References	To be prepared and p	provided by Lecti	urer.	
Assessment Criteria	Participation: 30%	Quiz: 30% Exa	amination: 40%	
	The main language	of this course i	s English and supplementary explanation will be	
Supplementary	provided in Japane			
Information	Students must attend more than 70% of the class meetings to be eligible to take the			
	examination.			

Course Title	Ethnographic Study on Rural Japan			
Lecturer	Ryo Kubota Faculty Faculty of Economics		Faculty of Economics	
Credit	2	Timetable	Semester: Spring Day of the Week: Wednesday Period: 3	
Lecturer's Office	Room 4-10 on the 4 th floor in Liberal	Art Building, 09	97-554-7730, yuralria@oita-u.ac.jp	
Aims	We explore various issues that are associated with being Inaka / living in Inaka, which can be translated as countryside or rural area but has slightly different connotation and value from its English counterparts. We study what means to be Inaka, what natural/cultural resources Inaka dwellers can appropriate to maintain their quality of life, and what we can do to support their challenges.			
Learning Outcomes	You will deepen your understanding You will acquire your communicative	•		
Content	You will acquire your communicative skills and improve your cognitive skills. ***The following schedule is tentative*** WEEK01 Guidance WEEK02 Ice break (tell us yourself and your principle) WEEK03 Urban vs Rural (1) WEEK04 Urban vs Rural (2) WEEK05 Social Issues in contemporary Japan (depopulation) WEEK06 Social Issues in contemporary Japan (aging) WEEK07 Revitalizing the community (landscape and natural resources) WEEK08 Revitalizing the community (Green tourism) WEEK09 Revitalizing the community (local specialty) WEEK10 Revitalizing the community (Japanimation) WEEK11 Revitalizing the community (mascot and kawaii culture) WEEK12 Revitalizing the community (local festivals) WEEK13 Revitalizing the community (international recognition) WEEK14 Final Presentation (1) WEEK15 Final Presentation (2) (Specific modes of teaching to enhance students' learning) To work on class activities diligently is more than welcome.			
Recommendation			watch materials and think about issues	
for Private Study	you would like to discuss before the class.			
Textbooks	Reading assignments will be uploaded on Moodle			
References	Additional materials will be provided and distributed via Moodle.			
Assessment Criteria	Assignments (10pt) Contribution to discussion (40pt) Final Paper (50pt)			
Supplementary Information	You will be exposed to a variety of viewpoints, values and opinions that might differ from your own. All students should feel comfortable expressing their viewpoints and concerns in lecture. You are an important part of creating an atmosphere that makes this possible.			

Course Title	Theoretical Framework for Integral Calculus			
Lecturer	Ryoji Fukuda	Faculty	Science and Technology	
Credit	2	Timetable	Semester:Spring Day of the Week: Thursday Period: 1	
Lecturer's Office	Bldg.12 (Sci&Tech), Floor TEL: 097-554-7860 E-m	-5 ail: rfukuda@oi	ta-u.ac.jp	
Aims	To understand definitions, propertie	es and structure	es of integrals and integral calculations	
Learning Outcomes	Learning several integral calcul Understanding definitions, structure and acquiring abilities of thinking	ctures, and prop	perties of integral and integral calculus,	
Content	1. Orientation 2. Basic Notations, Elementary Functions 3. Definition of the Riemann integral 4. Examples of the Riemann integral 5. Refinements of partitions 6. The Cauchy criterion for integrability 7. Integrability of continuous and monotonic functions 8. Properties of the Riemann integral 9. Further existence 10. Fundamental Properties for Calculus 11. Integrals and sequences of functions 12. Improper Riemann integrals 13. Riemann sums 14. The Lebesgue criterion for Riemann integrability 15. Further arguments			
Recommendation	Preparation and review			
for Private Study Textbooks	Handouts will be distributed			
References				
Assessment Criteria	Report (several times) 40% Final Exam 60%			
Supplementary Information				

Course Title	Globalization of Japan's Economy		
Lecturer	Shigeki SHIBATA	Faculty	Economics
Credit	2	Timetable	Semester: Spring Day of the Week: Thursday Period: 2
Lecturer's Office	Lecture Room 419, 4th. fl, F TEL: 097-554-7715, Email:	-	
Aims	The aim of this course is to give regarding globalization of Japan's Ed		tudents a series of basic knowledge
Learning Outcomes	At the end of the course, students should have 1. Obtained basic knowledge regarding globalization of Japan's economy 2. Become capable at evaluating economic policies in this domain. 3. Improved their ability to participate in discussions.		
Content	This course will concentrate on analyzing and explaining globalization of Japan's economy while reading textbooks. 1. Concepts of global economy 2. Development of Japan's economy 3. Globalizing Japan's economy by reading case studies (some articles) Students need to read assignments and prepare presentations.		
Recommendation for Private Study	To be provided by lecturer based on	students' intere	ests
Textbooks	To be provided by lecturer		
References	To be provided by lecturer		
Assessment Criteria	Attendance and participation: 50% Power-point presentation: 50%		
Supplementary Information			

Course Title	The Politics and Economics of the EU			
Lecturer	DAY, Stephen	Faculty	Economics	
Credit	2	Timetable	Semester: Spring Day of the Week: Thursdays Period: 3	
Lecturer's Office	Faculty of Economics Bldg., 2rd Floo TEL: 097-534-6676 Email: srday@	·	06,	
Aims	_	pment of the E	n an in-depth understanding of: 1) the European Union, 2) a selection of key d with Brexit	
Learning Outcomes	 A) Facilitate the ability of learners to critically discuss and evaluate some of the arguments advanced by the political mainstream and Eurosceptics vis-à-vis the EU and European integration; B) Familiarize learners with the significance of the key institutional actors of the EU and the role that they play within the EU institutional architecture; C) Facilitate the ability to discuss, in a cogent manner, the contextual realities that brought about Brexit 			
Content	 Introductory overview Historical and contemporary (political and economic) factors Understanding the integration process - from an FTA to a political union Key institutions and key policies European elections and European political parties (Europarties) Ease Study - Brexit The Brexit referendum and leaving the EU The impact of the EU-UK deal and its initial consequences Final Exam As an interactive class, there will be a number of individual and small-group task-based exercises. This will include quizzes, exercises in applying theory to real-world scenarios and evaluations of various types of media reports. 			
Recommendation for Private Study	John McCormick (2020), <i>European Union Politics</i> , Palgrave Macmillan, 2020 (3 rd Edition)			
Textbooks	For beginners - John Pinder and Sir short introduction, (4th edition) Oxfor		d (2018), The European Union: a very	
References				
Assessment Criteria	Final exam (70 percent) Portfolio of work (20 percent) Attendance (10 percent)			
Supplementary Information	The determination to study the European Union (EU), via English, and a willingness to participate in classroom-based activities. Preparatory reading prior to class so as to aid understanding and facilitate discussion is recommended. We will make use of newspaper, video and web-based material during the module.			

Course Title	Japanese Presentation Skill				
Lagturar	NICHLIMA Voriko	Foculty	Global Education and Intercultural		
Lecturer	NISHIJIMA, Yoriko	Faculty	Advancement Center		
Credit	2	Timetable	Semester: Fall		
Credit	2	Timetable	Day of the Week: Tuesdays Period:4		
Lecturer's Office	Arts (Kyoyo) Bldg, 3rd Floo	r Office No.3-6	097-554-7667 y-nishijima@oita-u.ac.jp		
		• • • •	ate in discussions and to be able to accurately		
Aims	•	•	Students will analyze content and develop the		
	deepen mutual understanding		national students and Japanese students will		
	•		Point (etc.) depending on the purpose.		
Learning	2. To be able to talk logically	•	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,		
Outcomes	3. To collaborate and discus	`			
	1. Orientation / Effective self	-introduction			
	2. Discussion ①: Discussion	n method			
	3. Discussion ②				
	4. Presentation method				
	5. Preparation for presentation	on ①			
	6. Preparation for presentation	on ②			
	7. Presentation ①				
	8. Presentation ②				
	9. Speaking logically ①: Log	gical and persua	asive way of speaking		
Content	10. Speaking logically ②: D	g logically ②: Discussing without removing the points			
	11. Debate method				
	12. Preparation for simple debate ①				
	13. Preparation for simple de	ebate ②			
	14. Simple debate match ①				
	15. Simple debate match ②				
	(Specific modes of teaching to enhance students' learning)				
	In any activity, students not only perform self-evaluation and peer evaluation, but also				
	discuss points for improvement	ent within the g	roup and deepen introspection. In addition, the		
	teacher will provide feedback	k to students to	improve their speaking abilities.		
Recommendation	Students do weekly assignm				
for Private Study		ties outside of	class for presentations and ensure sufficient		
Textbooks	preparation time.	d by Looturor			
TEXIDOOKS	To be prepared and provided	a by Lecturer.			
References	Chi no navigeta, Kuroshio Koto-happyo to Toron no giju	<i>ıt</i> s Tokaidaigak	cushunnansha		
	Ronriteki de tadashii nihongo	_			
Assessment			b), Debate (30%), Assignment (10%),		
Criteria	Final report (10%)	(/ / / - / / / / / / / / / /	,, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,		
	The maximum number of p	participants is	30. Intermediate to very advanced Japanese		
Supplementary	learners can register this cla	ass. Intermedia	te level learners must have knowledge of 500		
Information	kanji and 3000 vocabulary. It is a requirement that a student should attend more than 70% of the class time to be eligible for the final report.				
	eport.				

Course Title	Japanese Linguistics I				
Lecturer	SAKAI, Mieko	Faculty	GAIA		
Credit	2	Timetable	Fall: Thursdays 2 nd period		
Lecturer's Office	Kyoyo Bldg., 3 rd floor Office No.3-7	097-554-7	516 msakai@oita-u.ac.jp		
Aims	linguists analyze language. This co	This course aims at offering a basic overview of Japanese linguistics and showing how linguists analyze language. This course also provides beginning students with a solid grounding in basic Japanese linguistic concepts in the fields of phonetics, vocabulary, grammar, dialect, and so on.			
Learning Outcomes	 To observe carefully in basic Jap vocabulary, grammar, dialect, an To research and analyze an area 	nd so on, and a	·		
Content	1. Overview 2. Japanese compared with other languages 3. Grammar 4. Phonetics: the sound of language 5. Phonetics: the sound of language 6. Phonology: the function and patterning of sounds 7. Contraction 8. Dialect 9. Mid term 10. Vocabulary 11. Phase 12. Grammarticalization 13. Preparation for group presentation 14. Group presentation 15. Group presentation and feedback [Specific modes of teaching to enhance students' learning] Students regularly exchange their ideas and opinions in group. They have to work with each other to collect examples and find language rules and characteristics.				
Recommendation for Private Study	Students will be assigned homework on a regular basis to consolidate the topic covered in class.				
Textbooks	Handouts to be provided in class.				
References	Iori, Isao (2012) <i>Atarashii Nihongogaku Nyumon</i> , 3A Network.				
Assessment Criteria	Mid-term exam 30%, Group project work 40%, Homework and presentation 20%, Class performance, etc. 10%.				
Supplementary Information	In order to take this course, students are expected to have passed JLPT N1. Japanese students can take this course too. The class size is limited to 40 students. It is required that students attend more than 70% of the class time to be eligible to take the final examination.				

Course Title	Business Japanese Seminar 1			
Lecturer	MAEDA, Kyoko	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center	
Credit	2	Timetable	Semester: Fall Day of the Week: Mondays Period: 3	
Lecturer's Office	os190008@oita-u.ac.jp			
Aims		quiring reading s	"3+1" program. In the course, students skills based on mainly economic topics, on opinions.	
Learning Outcomes	Choose appropriate information Read newspaper articles and organize the contents Accurately and comprehensibly communicate the contents of newspaper articles Utilize the selected information to express their opinions			
Content	 Orientation and outline of course Reading of newspaper articles Summarization of newspaper articles after reading Description and expression of opinions on selected information Significance of selecting information 11-14. Presentations Feedback (Specific modes of teaching to enhance students' learning) Obtain appropriate information from web-based news and other sources, and investigate. Hold team discussions and debate. Record the presentations; obtain feedback via a self-evaluation rubric. 			
Recommendation for Private Study	Get into the habit of reading Japanese newspaper.			
Textbooks	Economic related news and movies	from websites,	newspaper articles and handouts	
References	Japanese dictionaries, other. To be in	nstructed in cla	SS.	
Assessment Criteria	Participation & Homework (15%), Listening (10%), Reading & Writing (15%), Presentation (15%), Final exam (45%)			
Supplementary Information	The course is also open to other students.			

Course Title	Business Japanese Seminar 2		
Lecturer	MAEDA, Kyoko	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center
Credit	2	Timetable	Semester: Fall Day of the Week: Tuesdays Period: 2
Lecturer's Office	os190008@oita-u.ac.jp		
Aims	This course is for students from Jianghan University "3+1" program. In the course, students will work towards developing and acquiring speaking and writing skills in business settings through understanding and analyzing themselves.		
Learning Outcomes	 Develop the ability to objectively analyze oneself and communicate politely. In addition to a focus on conversation ability in a business setting, other skills such as writing ability and Japanese business etiquette will be developed. Understand the circumstances of employment for Japanese people as well as the Japanese mindset as it relates to work. 		
Content	1. Orientation and outline of course 2-9. Research into Japanese job market and their views of jobs 10. Presentations 11-13. Self-analysis 14. Interview 15. Feedback (Specific modes of teaching to enhance students' learning) - Conduct team-based investigation (survey or interviews). - Conduct mutual evaluation in mock interviews. - In addition to the team report, also create an individual report.		
Recommendation for Private Study	Reflect on one's personality and history in order to develop an ability to promote one's own value. Additionally, foster an interest in Japanese university students' job-hunting activities and their attitudes towards work. Furthermore, develop communication skills for use in formal settings and aggressively execute on those skills.		
Textbooks	Handouts		
References	Japanese dictionaries, other. To be in	nstructed in cla	ss.
Assessment Criteria	Participation (10%), Tasks (20%), Presentations (25%), Final exams (45%)		
Supplementary Information	The course is also open to other students.		

Course Title	Manga Studies			
Lecturer	Kazumi Nagaike	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center	
Credit	2	Timetable	Semester: Fall Day of the Week: Wednesdays Period: 3 rd	
Lecturer's Office	Arts (Kyoyo) Bldg.	, 3rd Floor	Office No. 3-4 097-554-7953 nagaike@oita-u.ac.jp	
Aims	The contemporary debate concerning Japanese manga culture provides various important perspectives on questions concerning Japanese society and culture. In this course, we will examine a variety of Japanese manga genres and discuss the socio-cultural impact of these genres, within both the Japanese and global contexts. The specific design characteristics and motifs of each manga genre will also be analyzed.			
Learning Outcomes	 Understanding the value of Japanese popular culture: After taking this course, students will be able to explain the cultural values expressed in Japanese popular culture and consider the ways in which Japanese popular culture reflects Japanese socio-cultural structures. Understanding the transnationality and globalization of Japanese popular culture: After taking this course, students will have acquired cross-cultural perspectives on Japanese popular culture. Acquiring theoretical frameworks for popular-culture studies: After taking this course, students will understand a variety of theoretical frameworks in relation to popular culture studies (e.g. audience- and fan-studies, in particular). 			
Content	6) Analysis of Sho 7) Analysis of Sho 8) Analysis of Lac 9) Analysis of Bo 10) Data-Based Co 11) Censorship an 12) Racial Issues i 13) Analysis of Yur 14) Globalization a 15) Review (Spo This course included	I Perspective Dinen (boys) Dio (girls) mades' Comics Lys' Love Man Dinsumption d Manga In Manga	anga s nga	
Recommendation for Private Study	Students are expected to carefully read the assigned readings and summarize each of them before class. At least four hours of private study per week will be required for preparation and review.			
Textbooks	To be prepared an	d provided b	by Lecturer.	
References	To be provided by	Lecturer.		
Assessment	Participation: 20%	Presentat	ion: 30% Examination: 50%	
Supplementary Information	provided in Japai	<u>nese.</u>	ourse is English and supplementary explanation will be an 70% of classes to be eligible to take the final examination.	

Course Title	Japanese Grammar and Discourse			
Lecturer	NANRI, Keizo	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center	
Credit	2	Timetable	Semesters 2: Day of the Week: Fridays Period: 3 rd Period	
Lecturer's Office	Kyoyo Bldg., 3rd Floor Office	No. 5 097-554	-7635 keizo-nanri@oita-u.ac.jp	
Aims	This course aims to explore the Japanese language from two perspectives: sentence construction and discourse construction. The sentential exploration will be conducted by focusing on 5 case markers (o, ni, to, e, de) the topic marker wa, the subject marker ga, and serial verb construction. The discourse exploration will be conducted from the perspective of schema.			
Learning Outcomes	By the end of the semester, students are expected to be able to improve their linguistic performance in Japanese by understanding (a) the function of the foregoing 5 case markers, (b) the mechanism of Japanese serial verb construction, (c) how the particle <i>wa</i> contributes to text construction, and (d) some Japanese ways of text creation (which will be explored from the perspective of schema).			
Content	Week 1: Orientation & an Overview of the Japanese Language. Week 2. Parts of Speech. Weeks 3-7: Experiential Function and Sentence Structure I Week 8. Presentation 1 Week 9. Experiential Function and Sentence Structure II Weeks 10-12: Interpersonal Function and Serial Verbal Construction. Weeks 13-14: The Function of Wa,Text structure, and Japanese Culture Week 15: Presentation 2 (Specific modes of teaching to enhance students' learning) The class is conducted in an interactive manner. A strong emphasis will be placed on discussion. Two or three topics are presented for discussion in each session. Students are encouraged to analyze provided data and find out theories behind it. Students will be navigated from the discussion of parts of speech through to that of Japanese culture from the viewpoint of schema.			
Recommendation for Private Study	Students are encouraged to explore the Japanese language by reading online articles linked from those reading lists. They are expected to spend two hours for class preparation and another two for reviewing the class.			
Textbooks	Handouts to be provided in the class	S		
References	To be provided in the class.			
Assessment Criteria	Small assignments (5 marks x 10 times), First Presentation 20 marks, Second Presentation 30 marks, Students who fail to attend more than 70% fail this course.			
Supplementary Information	The class will be conducted in English and Japanese.			

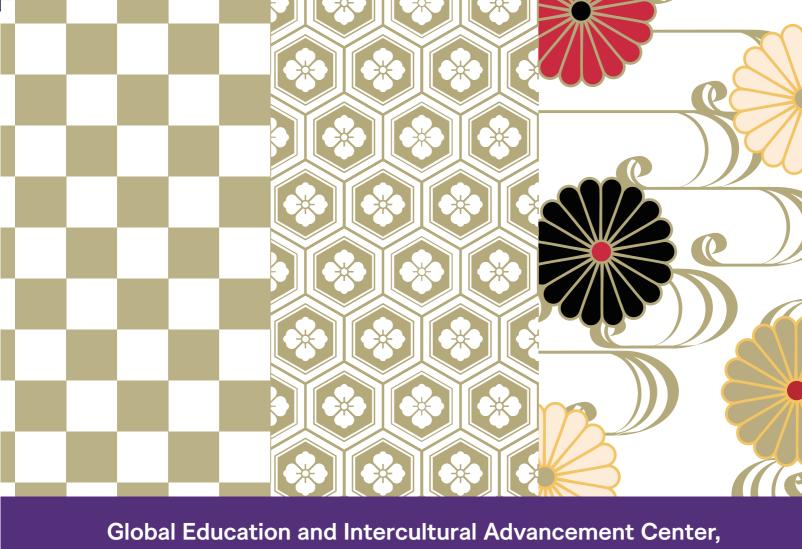
Course Title	Social Networks and Introduction of Oita to the World II			
Lecturer	NANRI, Keizo	Faculty	Global Education and Intercultural	
		-	Advancement Center	
			Semester 2	
Credit	2	Timetable	Day of the Week: Tuesdays	
			Period: 3rd Period	
Lecturer's Office	Kyoyo Bldg., 3rd Floor Office	No. 5 097-554	-7635 keizo-nanri@oita-u.ac.jp	
Aims	This Course aims to provide students with a basic training to disseminate information on the Internet by making use of blogs and web sites that report the rural landscapes in Kunisaki and Yufuin. Students are encouraged to positively participate in group discussion. The class is conducted in Japanese and English.			
Learning Outcomes	By the end of this semester, students are expected to (1) acquire a sound understanding of the netiquette and the basic knowledge of blog and homepage article writing and (2) to find out the characteristics of the Satoyama system, the ecosystem founded on the symbiotic relationship between the nature and the people living there. A greater emphasis is placed on group activities in this course.			
Content	Session 1: Orientation, finding group member, session summary 1 Session 2: An introduction to the Internet 1; getting to know blogs, session summary 2. Session 3: An introduction to the Internet 2, session summary 3. Session 4: Getting to know the life in mountainous areas in Japan. Session 5: Field Strip 1: Exploring the <i>Kunisaki Mikuni</i> area .(provisional destination) Session 6: Blog presentation Session 7: The Satoyama, session summary 4. Session 8: Launch a Wix Hompage, session summary 5. Session 9: Preparation for field trip 2 Session 10: Field trip 2: Yufuin Area (provisional destination) Session 11: Edit a homepage. Session 12: Summary Session 13: Homepage presentation. (Specific modes of teaching to enhance students' learning) The knowledge introduced in the class will be consolidated through group discussion. The last 10 or 15 minutes of the session will be spend to summarize the content of the class; each student submit their summary to the lecturer in the following session, which enables			
Recommendation for Private Study	2 hours are needed for class preparation and one hour for reviewing the class content. Field trips 1 and 2 will last 8 hours. One field trip accounts as two sessions.			
Textbooks	Handouts to be provided in class			
References	A list of references to be posted on a	a blog.		
Assessment Criteria	Class summaries (10 marks), field work (1 st 10 marks, 2 nd 15 marks), launching a blog (20 marks), launching a homepage (20 marks), the final report (25 marks). Students who attend less than 70% of the sessions will not pass this course; marks allocated the field works and the final report will not be included in their final marks. 2 marks are deduced from you total marks for each absence from the session.			
Supplementary Information	International students will learn with	local students i	n this course.	

Course Title	Sustainability and Glocal Development in Oita サステナビリティ大分			
Lecturer	BURKART, Kaori I. Faculty Global Education and Intercul Advancement Center		Global Education and Intercultural Advancement Center	
Credit	2	Timetable	Fall: Thursdays 4 th period 後期:木4	
Lecturer's Office	Kyoyo Bldg., 3 rd Floor Office N	lo. 3-3 kbu	ırkart@oita-u.ac.jp	
Aims	essential to creating a sustainable fu themes related to our immediate sur	tended to deve ture through fa roundings. It is r own behavior	lop knowledge, attitudes, and values miliar environmental and social also designed to motivate and s and make collaborative decisions to	
Learning Outcomes	 At the end of the semester, students should be able to Conduct their own research and present the results in class to construct deeper knowledge Compare and contrast cultural elements behind international relationships Reflect on their own cultural biases via learning about different cultural values 			
Content	 Week 1: Orientation, introduction, and overview of the course Week 2: What is "sustainability"? SDGs #1-17 Introduction Week 3 Sustainability—What do you know?! Anything to do with you? Week 4 Theme 1 Potato chips kill elephants!? Week 5: Theme 2 What's going on underwater? Week 6: Theme 3 Let's eat Japanese traditional Tempura soba! Week 7: Special Lecture by guest speakers Week 8: Sustainability-related movie watch Week 9: Movie Talk (group discussions) Week 10: Theme 4 Blueberries cause global warming?! Week 11: Theme 5 Convenience stores' inconvenient business?! Week 12: Theme 6 Hamburgers will take over the world?! Week 13: Presentation 1/2 Week 14: Presentation 2/2 Week 15: Overflow presentation and/or in-class discussion Specific modes of teaching to enhance students' learning > Students will practice critical thinking skills through planned in and outside of class learning activities. Learning activities may include role play, online and in-class discussions, playing games, volunteering in the community, and knowledge building through reading news articles and academic papers. Students will give a presentation 			
Recommendation for Private Study	Minimum of 2 hours each week reading news articles to keep up-to-date with sustainability issues in the world. Building knowledge via active participations throughout the semester including periodic online discussions and movie watching will help forming the final research topic as well as the final paper.			
Textbooks	To be provided by the instructor			
References	Additional materials are provided on	the class Mood	dle site. Please check periodically.	
Assessment	Homework & online discussion 20%			
Criteria	Presentation (individual) 40%; Final report 40%			
Supplementary Information	In this course, International students learn alongside local students. It is required that students attend 70% of the (at least 10) class meetings to be considered for submitting the final paper for passing the course. Course instruction will be mostly in English supplemented with some Japanese. All in-class discussion must be conducted in English but writing assignments can be submitted either in English or Japanese. このクラスは本学正規学生と留学生とが一緒に学ぶための融合クラスで、講義はほとんど英語で行われる。オンラインディスカッション、期末レポートは英語もしくは日本語のいずれかの言語で作成しても良いが、授業中のディスカッションは英語が基本となる。			

Course Title	The Politics and Economics of Globalization			
Lecturer	DAY, Stephen	Faculty	Economics	
Credit	2	Timetable	Semester: Fall Day of the Week: Thursdays Period: 3	
Lecturer's Office	Faculty of Economics Bldg., 2nd Flo TEL: 097-534-6676 Email: srday@		06,	
Aims	The purpose of this module is to provide learners with an understanding of globalization from a political and economic perspective as it continues to dominate our lives – for good or for ill. In what ways has it changed the way we live? Impacted upon the nature of state sovereignty? Facilitated the role that global-level institutions play? Been challenged by the rise of populism?			
Learning Outcomes	A) Familiarize learners with the key debates and provide the means to assess and comment upon those debates in a critical and lucid fashion; B) Enable learners to articulate the pros and cons of globalization by drawing together some theoretical and real-world experiences; C) Enable learners to evaluate and comment upon the impact of globalization in a cogent and concise manner			
Content	 1-2. Introductory overview – what type of world are we living in? 3-4. Historical 1945-1989 – remembering the Cold War 5. Historical – from Keynesianism to neo-liberalism 6. Revisiting the 2008 global financial crisis Understanding Globalization 7. Hyperglobalists, sceptics and transformationalists 8-9. Global governance 10-11. Signs of deglobalization – populism and the return of the state Evaluating Globalization - contemporary case studies 12-13. Is there a link between globalization and inequality? 14-15. Identity: Global citizens and/or national citizens? 16. Final Exam As an interactive class, there will be a number of individual and small-group task-based exercises. This will include quizzes, exercises in applying theory to real-world scenarios 			
Recommendation for Private Study	and evaluating a wide range of media reports. Manfred B. Steger and Paul James, Globalization Matters: Engaging the Global in Unsettled Times, Cambridge University Press, 2019			
Textbooks	For absolute beginners I would recommend Manfred B. Steger (2020), <i>Globalization: A Very Short Introduction</i> , (5th edition) Oxford: Oxford University Press			
References	. ,			
Assessment Criteria	Final Exam - 70 percent Portfolio of work - 20 percent Attendance - 10 percent			
Supplementary Information	Learners will be expected to have a determination to study in English and a willingness to participate in classroom-based activities. Preparatory reading prior to class so as to aid understanding and facilitate discussion is recommended. We will make use of newspaper, video and web-based material during the module.			

Course Title	Contrastive Analysis of Semantic framework of Cognitive Linguistics	Structures in	English and Japanese within the
Lecturer	HASHIMOTO, Mikio	Faculty	Education
Credit	2	Timetable	Semester: Fall Day of the Week: Thursdays Period: 4
Lecturer's Office	Education Bldg B., 5th Floor	r Office No.	097-554-7578 mikioha @
Aims	One of the main goals is to help you between Japanese and English from		ome differences of the basic structures of Cognitive Linguistics.
Learning Outcomes	You will be able to understand the in culture.	terconnectedn	ess between language, cognition, and
Content	Week 1 how to represent Japanese Week 2. Basic Sentence Types and Week 3 Syntactic differences betwee Week 4 Cause-Effect Relation and Week 5. Structure of Speech Situat Week 6 Conjugations of Japanese Week 7 Conjugations of Japanese Week 8 Tense and Aspect Week 9 Semantic Classification of Week 10 Semantic Classification of Week 11 Japanese Passive Constructive Week 12. English Passive Constructive Week 13 English Causative Constructive Week 14 Japanese Causative Constructive Week 15 Summary (Specific modes of teaching to enhance You will discuss relevant topics in ground street of the service of the service of the service of teaching to enhance of teachin	d Stage Model een Japanese a Grounding ion and Topica Verbs (Group 1 Verbs (Group 2 Japanese verbs f English Verbs uctions ctions structions arce students' le	and English lization 2 and irregular verbs) s
Recommendation for Private Study	You will work on tasks assigned in th	e lectures.	
Textbooks	Handouts to be provided in class		
References	Handouts to be provided in class		
Assessment Criteria	Weekly assignment 50% Essay	50%	
Supplementary Information			

Course Title	Introduction to Japanese Management		
Lecturer	Kunio Ikari	Faculty	Economics
Credit	2	Timetable	Semester: Fall Day of the Week: Fridays Period: 3
Lecturer's Office	Economics Bldg., 4 th Floor Office No. 12, 097-554-7711, kunioik2@oita-u.ac.jp		
Aims	The purpose of this course is to learn basic knowledges on traditional and cultural uniqueness of Japanese corporations.		
Learning Outcomes	Understanding historical and social background of Japanese corporations and economics in Kyushu and Oita.		
Content	Introduction Positioning Japan for the twenty-first century The challenge to Japan's economy in an evolving world Challenges facing Japan's science and technology Cool Japan and the struggle with globalization Entrepreneurship in Japan Group exercise: Make groups and choose industrial sectors Group exercise: International comparisons of countermeasures against social crisis Group Presentation Disparity Problem between Tokyo and Local cities Entrepreneurship in Japanese local cities Economics in Kyushu Economics in Oita Tourism sector in Oita Necessarily of social entrepreneurship in Oita (Specific modes of teaching to enhance students' learning)		
Recommendation	Read a reacquired chapter at a textbook (2 hours)		
for Private Study			
Textbooks	Mouer, Ross. (Eds.). (2015). Globalizing Japan: Striving to Engage the World, Australia: Transpacific press		
References	Abegglen, J. C., & Stalk, G. (1985). Kaisha Japanese Corporation. Basic Books. Jacoby, S. M. (2007). The Embedded Corporation: Corporate Governance and Employment Relations in Japan and the United States. Princeton University Press.		
Assessment Criteria	Participate to discussion 20% Short presentation 20% Final report 60%		
Supplementary Information	All students have to attend over 70 % of this course.		



Oita University

700 Dannoharu, Oita-shi, Oita, 870-1192, JAPAN TEL:+81-97-554-7444 FAX:+81-97-554-7437 E-mail:ryugaku@oita-u.ac.jp URL:http://www.gaia.oita-u.ac.jp

大分大学国際教育推進センター

870-1192 大分市大字旦野原700番地

